



# Sun Java System Portal Server 7.2 管理ガイド



Sun Microsystems, Inc.  
4150 Network Circle  
Santa Clara, CA 95054  
U.S.A.

Part No: 820-4825  
2008 年 5 月

Copyright 2008 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本書で説明する製品で使用されている技術に関連した知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. に帰属します。特に、制限を受けることなく、この知的所有権には、米国特許、および米国をはじめとする他の国々で申請中の特許が含まれています。

U.S. Government Rights – Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品には、サードパーティーが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は Berkeley BSD システムより派生したもので、カリフォルニア大学よりライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびにほかの国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、Java、Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。Sun のロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPEN LOOK および Sun<sup>TM</sup> Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装するか、または米国 Sun Microsystems 社の書面によるライセンス契約に従う米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

この製品は、米国の輸出規制に関する法規の適用および管理下にあり、また、米国以外の国の輸出および輸入規制に関する法規の制限を受ける場合があります。核、ミサイル、生物化学兵器もしくは原子力船に関連した使用またはかかる使用者への提供は、直接的にも間接的にも、禁止されています。このソフトウェアを、米国の輸出禁止国へ輸出または再輸出すること、および米国輸出制限対象リスト(輸出が禁止されている個人リスト、特別に指定された国籍者リストを含む)に指定された、法人、または団体に輸出または再輸出することは一切禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

# 目次

---

はじめに .....	21
<b>パート I Sun Java System Portal Server の管理 .....</b>	<b>27</b>
<b>1 Portal Server 管理の概要 .....</b>	<b>29</b>
Portal Server コンポーネントの概要 .....	29
Portal Server 管理コンソールの使用 .....	30
ブラウザインタフェースについて .....	31
▼管理コンソールにログインする .....	32
Portal Server 管理タグライブラリおよびポートレットの使用 .....	32
psadmin コマンド行インタフェースの使用 .....	33
<b>2 ポータルおよび Portal Server インスタンスの管理 .....</b>	<b>35</b>
複数のポータルの概要 .....	35
ポータルの設定 .....	36
▼ポータルの一覧を表示する .....	37
▼ポータルを作成する .....	37
▼ポータルを削除する .....	38
▼ポータルデータをエクスポートする .....	39
▼ポータルデータをポータルにインポートする .....	40
Portal Server インスタンスの設定 .....	41
▼ Portal Server インスタンスの一覧を表示する .....	41
▼ Portal Server インスタンスを作成する .....	42
▼ Portal Server インスタンスを削除する .....	43
<b>3 組織、ロール、およびユーザーの管理 .....</b>	<b>45</b>
Portal Server での Access Manager の使用方法について .....	46

Portal Server の新しい組織の作成 .....	47
▼ Portal Server で使用する新しい組織を作成する .....	47
▼ 新しい組織にアクセスする .....	47
Portal サービスの組織への追加 .....	48
▼ Portal サービスを組織に追加する .....	48
▼ 新しいユーザーに必要な Portal サービスを指定する .....	49
特定のノードへの移動 .....	51
ロケーションバーについて .....	51
<b>4 Portal Server デスクトップの管理 .....</b>	<b>55</b>
Portal Server デスクトップ管理の概要 .....	55
ディスプレイプロファイルの概要 .....	55
デスクトップ属性の概要 .....	57
Portal Server デスクトップコンテンツの管理 .....	58
ポートレットの管理 .....	58
チャンネルおよびコンテナの管理 .....	60
チャンネルおよびコンテナの表示 .....	61
チャンネルおよびコンテナのプロパティの変更 .....	63
チャンネルおよびコンテナの作成と削除 .....	67
タブの作成 .....	69
チャンネルおよびコンテナの表示 .....	70
デスクトップ属性の管理 .....	71
▼ デスクトップ属性を設定する .....	71
ディスプレイプロファイルの管理 .....	74
▼ ディスプレイプロファイルをダウンロードする .....	74
▼ ディスプレイプロファイルをアップロードする .....	75
▼ ディスプレイプロファイルを削除する .....	75
<b>5 リモートポートレットの Web サービス .....</b>	<b>77</b>
WSRP 標準の概要 .....	77
プロデューサの管理 .....	78
登録をサポートするプロデューサの作成 .....	78
登録をサポートしないプロデューサの作成 .....	80
WSRP プロデューサプロパティの有効化と編集 .....	81
登録検証クラスのカスタマイズ .....	81

登録ハンドルの生成 .....	82
コンシューマの管理 .....	83
設定済みプロデューサの追加 .....	83
ID 伝播機構 .....	84
ダイジェストパスワードの設定 .....	86
Web サービス SSO ポートレットを使用するユーザートークンプロファイルの作成 .....	86
サービスの説明の更新 .....	87
ユーザーカテゴリとロールのマッピング .....	88
コンシューマ属性のマッピング .....	89
プロキシの設定 .....	89
WSRP プロデューサの管理 .....	90
▼ WSRP プロデューサを作成する .....	91
▼ WSRP プロデューサを編集する .....	91
▼ コンシューマ登録を作成する .....	92
▼ コンシューマ登録を編集する .....	93
WSRP コンシューマの管理 .....	94
▼ 設定済みプロデューサを追加する .....	94
▼ 設定済みプロデューサを編集する .....	95
▼ コンシューマ名を指定する .....	95
▼ WSRP チャンネルの問題を解決する .....	96
<b>6 Portal Server</b> エンドユーザー動作の追跡の管理 .....	97
Portal Server ユーザー動作の追跡の概要 .....	97
Portal Server ユーザー動作の追跡のセットアップ .....	99
▼ ユーザー動作の追跡ログを有効にする .....	99
▼ ユーザー動作の追跡レポートを生成する .....	100
<b>7 Portal Server</b> の動作の監視 .....	101
Portal Server 監視について .....	101
Portal Server 監視の設定 .....	102
▼ ポータル監視を有効または無効にする .....	102
▼ デスクトップ統計を表示する .....	102
▼ チャンネル統計を表示する .....	103
Portal Server 監視データの収集 .....	103

---

デスクトップ統計 .....	103
チャンネル統計 .....	104
<b>8 Portal Server のログインの管理 .....</b>	<b>105</b>
Portal Server のログインについて .....	105
Portal Server のログインの管理 .....	105
▼ ログビューアを管理する .....	106
▼ ログ表示をカスタマイズする .....	107
▼ 共通ロガーの設定を管理する .....	107
▼ 個別ロガーの設定を管理する .....	109
<b>9 Portal Server コミュニティーの管理 .....</b>	<b>113</b>
Portal Server コミュニティーの概要 .....	113
アクセス制御の管理 .....	114
メンバーシップの管理 .....	115
コミュニティ状態の管理 .....	117
カテゴリの管理 .....	118
コミュニティテンプレートについて .....	118
コミュニティテンプレートの概要 .....	118
テンプレートの構文とセマンティクス .....	121
テンプレート記述子ファイル .....	122
テンプレートの作成と変更 .....	123
Portal Server コミュニティーの管理 .....	126
コミュニティとユーザーの管理 .....	127
コミュニティ Web サービス URL の管理 .....	131
<b>10 Portal Server 登録の管理 .....</b>	<b>133</b>
Portal Server 登録の概要 .....	133
登録のセットアップ .....	134
▼ 登録をセットアップする .....	134
Portal Server ディスカッションの管理 .....	139
DiscussionProvider の概要 .....	140
DiscussionProvider の管理 .....	141
DiscussionLite チャンネル .....	143

<b>11 Portal Server シングルサインオンアダプタの管理</b> .....	145
シングルサインオンアダプタの概要 .....	145
メタアダプタの管理 .....	146
▼メタアダプタを表示する .....	146
▼メタアダプタを作成する .....	147
▼アダプタを表示する .....	147
アダプタの管理 .....	148
▼アダプタを作成する .....	148
▼アダプタの設定プロパティを編集する .....	149
匿名ユーザーの作成 .....	149
▼匿名ユーザーのリストを作成する .....	149
<b>12 Portal Server Mobile Access の管理</b> .....	151
Mobile Access の概要 .....	151
Mobile Access の設定 .....	152
▼Portal Server 7.2 で Mobile Access を設定する .....	152
▼Mobile Access 匿名デスクトップを有効にする .....	152
▼ログイン成功時の URL を変更する .....	152
Mobile Access ソフトウェア .....	153
モバイル機器の管理 .....	155
クライアントディテクションの理解 .....	156
クライアントデータベースの管理 .....	157
「クライアントマネージャー」の使用 .....	157
クライアントタイプデータの管理 .....	161
モバイル認証の設定 .....	169
NoPassword 認証 .....	169
匿名認証 .....	170
MSISDN 認証 .....	171
モバイルポータルデスクトップの管理 .....	171
ワイヤレスデスクトップディスプレイパッチャーの理解 .....	171
ワイヤレスデスクトップディスプレイパッチャーのプロパティ .....	172
条件プロパティ .....	173
チャンネルの状態プロパティ .....	174

---

パートII	デスクトップの設計 .....	177
13	デスクトップテーマとレイアウトの管理 .....	179
	デスクトップ設計ツールの概要 .....	179
	DDTの配備環境 .....	179
	サンドボックス組織とは .....	180
	DDTを使用してできること .....	180
	デスクトップ設計ツールを使用したデスクトップのカスタマイズ .....	180
	デスクトップ設計ツールのレイアウト .....	181
	デスクトップ設計ツールのテーマ .....	181
	デスクトップ設計ツールへのアクセス .....	183
	▼デスクトップ設計ツールのリンクからデスクトップ設計ツールにアクセスする .....	183
	▼「ポータル」タブからデスクトップ設計ツールにアクセスする .....	183
14	ページレイアウトの設計 .....	185
	デスクトップ設計ツールのレイアウトの使用 .....	185
	▼デスクトップのページレイアウトを変更する .....	185
15	タブの管理とカスタマイズ .....	187
	タブの管理 .....	187
	▼タブを追加する .....	187
	▼サブタブを追加する .....	188
	▼タブを編集する .....	189
	▼タブを削除する .....	189
	▼タブを移動する .....	190
	タブを使用したコンテンツの分類 .....	190
	▼タブを開始タブにする .....	190
16	チャネルの管理とカスタマイズ .....	193
	チャネルの管理 .....	193
	▼チャネルを移動する .....	193
	▼チャネルを削除する .....	194
	▼チャネルを追加する .....	194

▼チャンネルを設定する .....	195
▼チャンネルツールバーのプロパティを設定する .....	195
▼チャンネルをユーザーに表示可能または表示不可に設定する .....	196
ユーザー定義タブへのチャンネルの追加 .....	196
チャンネルを使用したデスクトップへのコンテンツの追加 .....	196
▼URLScaper チャンネルを作成する .....	196
チャンネル更新時間とコンテナキャッシュのカスタマイズ .....	197
ウィンドウ設定のカスタマイズ .....	198
▼チャンネルのウィンドウ設定をカスタマイズする .....	198
▼Portal Server 管理コンソールを使用してチャンネルのウィンドウ設定をカスタマイズする .....	199
ボタンの削除 .....	200
▼コンテナ内のすべてのチャンネルからボタンを削除する .....	200
▼Portal Server 管理コンソールを使用してコンテナ内のすべてのチャンネルからボタンを削除する .....	201
▼単一のチャンネルからボタンを削除する .....	201
▼Portal Server 管理コンソールを使用して単一のチャンネルからボタンを削除する .....	202
チャンネルからのタイトルバーの削除 .....	203
▼チャンネルからタイトルバーを削除する .....	203
チャンネル枠の幅と色の変更 .....	203
▼コンテナ内のすべてのチャンネルについて枠の幅および色を変更する .....	204
チャンネルライブラリの管理 .....	204
▼新しいライブラリチャンネルを作成する .....	204
▼ライブラリチャンネルのプロパティを編集する .....	205
▼ライブラリチャンネルを削除する .....	206
▼ポートレットを配備する .....	206
<b>17 Google ガジェット統合の管理 .....</b>	<b>207</b>
デスクトップでの Google ガジェットの有効化 .....	207
▼Portal Server 用の Google ガジェット API キーを取得する .....	208
▼ポータルエンドユーザーによる Google ガジェットの設定を許可する .....	208
▼2column コミュニティーに「Google ガジェットの追加」リンクを追加する .....	209

パート III	検索サーバーの管理 .....	211
<b>18</b>	検索サーバーの管理 .....	213
	検索サーバーの概要 .....	213
	検索データベース .....	214
	データベース分類カテゴリ .....	214
	検索サーバーの管理 .....	215
	▼検索サーバーを作成する .....	215
	▼検索サーバーを削除する .....	215
	データベースの概要 .....	216
	データベースへのインポート .....	216
	データベーススキーマの編集 .....	217
	スキーマのエイリアスの定義 .....	218
	データベース分析の表示 .....	218
	データベースインデックスの再作成 .....	218
	データベースの期限切れ .....	218
	データベースの破棄 .....	219
	データベースのパーティションの作成 .....	219
	データベースの管理 .....	220
	▼データベースを作成する .....	220
	▼インポートエージェントを作成する .....	220
	▼リソース記述を作成する .....	221
	▼リソース記述を管理する .....	221
	レポートの管理 .....	222
	▼レポートを表示する .....	222
	カテゴリの管理 .....	223
	▼カテゴリを作成する .....	223
	▼カテゴリを編集する .....	223
	▼自動分類を実行する .....	224
	▼自動分類の属性を編集する .....	224
<b>19</b>	検索サーバーロボットの管理 .....	225
	検索サーバーロボットについて .....	225
	ロボットの動作の仕組み .....	226
	ロボット設定ファイル .....	227

---

サイトの定義 .....	228
ロボットの巡回の制御 .....	228
ロボットユーティリティーの使用 .....	229
ロボットのスケジュール設定 .....	230
ロボットの管理 .....	230
▼ロボットを起動する .....	230
▼ロボットデータベースをクリアーする .....	231
▼サイト定義を作成する .....	231
▼サイト定義を編集する .....	232
▼ロボットの巡回とインデックス作成を制御する .....	232
▼シミュレータを実行する .....	233
▼サイトプローブユーティリティーを実行する .....	233
リソースフィルタリング処理 .....	234
フィルタ処理の段階 .....	234
フィルタの構文 .....	235
フィルタディレクティブ .....	236
フィルタの記述または修正 .....	237
フィルタの管理 .....	237
▼フィルタを作成する .....	238
▼フィルタを削除する .....	238
▼フィルタを編集する .....	239
▼フィルタを有効または無効にする .....	239
分類ルールの管理 .....	239
▼分類ルールを作成する .....	240
▼分類ルールを編集する .....	240
ソースとデスティネーション .....	240
セットアップ段階で使用可能なソース .....	241
メタデータフィルタリング段階で使用可能なソース .....	241
データ段階で使用可能なソース .....	242
列挙、生成、およびシャットダウン段階で使用可能なソース .....	242
プロパティーの有効化 .....	243
セットアップ関数 .....	243
filterrules-setup .....	243
setup-regex-cache .....	243
setup-type-by-extension .....	244
フィルタリング関数 .....	244

---

filter-by-exact .....	244
filter-by-max .....	245
filter-by-md5 .....	245
filter-by-prefix .....	246
filter-by-regex .....	246
filterrules-process .....	247
フィルタリングサポート関数 .....	247
assign-source .....	247
assign-type-by-extension .....	248
clear-source .....	248
convert-to-html .....	249
copy-attribute .....	249
generate-by-exact .....	250
generate-by-prefix .....	250
generate-by-regex .....	251
generate-md5 .....	251
generate-rd-expires .....	252
generate-rd-last-modified .....	252
rename-attribute .....	252
列挙関数 .....	253
enumerate-urls .....	253
enumerate-urls-from-text .....	253
生成関数 .....	254
extract-full-text .....	254
extract-html-meta .....	254
extract-html-text .....	255
extract-html-toc .....	255
extract-source .....	256
harvest-summarizer .....	256
シャットダウン関数 .....	256
filterrules-shutdown .....	256
変更可能なプロパティ .....	257
robot.confファイルの例 .....	264

---

パート IV	委任管理の管理 .....	265
20	委任管理の管理 .....	267
	Portal Server 委任管理の概要 .....	267
	委任 Portal Server 管理者の割り当て .....	268
	▼ 委任管理者を割り当てる .....	268
	▼ 委任管理者を削除する .....	269
21	Portal Server 委任管理タグライブラリの使用 .....	271
	委任管理タグライブラリの概要 .....	271
	▼ 委任管理タグのリファレンスを使用する .....	271
	索引 .....	273



# 図目次

---

図 19-1	ロボットの動作の仕組み .....	227
--------	-------------------	-----



# 表目次

---

表 6-1	ユーザー動作の追跡レポート .....	98
表 19-1	共通のメタデータタイプ .....	235
表 19-2	メタデータ段階でRAFで使用できるソース .....	241
表 19-3	データ段階でRAFで使用できるソース .....	242
表 19-4	ユーザーが変更できるプロパティ .....	257



# 例目次

---

例 9-1	<i>communityTemplateBaseDir</i> の例 .....	120
例 9-2	サンプルの記述子ファイル .....	123
例 19-1	列挙ファイルの構文 .....	236



# はじめに

---

『Sun Java™ System Portal Server 7.2 管理ガイド』は、Sun Java System Portal Server 7.2 を管理するための情報と方法を説明します。

これは、変更が発生しているかどうかを確認するために挿入されます。

## 対象読者

このマニュアルは、Sun Java System サーバーとソフトウェアを使用してポータルサーバーの管理を担当する IT 管理者を対象にしています。

## お読みになる前に

読者は、次の製品と概念について精通している必要があります。

- Sun Java System Directory Server
- Sun Java System Access Manager
- お使いの Web コンテナ
  - Sun Java System Application Server 8.2
  - Sun Java System Web Server 7.0
- お使いのオペレーティングシステム
- 基本的な UNIX® の管理手順
- LDAP (Lightweight Directory Access Protocol)
- Web Services for Remote Portlets (WSRP)

# マニュアルの構成

このマニュアルの章は3つの部分で構成されています。

- **パート I 「Sun Java System Portal Server の管理」**
  - **第 1 章 Portal Server 管理の概要**は、Portal Server の管理方法の概要を説明しています。
  - **第 2 章ポータルおよび Portal Server インスタンスの管理**は、Portal Server の設定と管理について説明しています。Portal Server のインスタンスの作成および削除の手順も含まれています。
  - **第 3 章組織、ロール、およびユーザーの管理**は、組織とユーザーを管理する方法と、LDAP ノードを使用する方法を説明しています。
  - **第 4 章 Portal Server デスクトップの管理**は、Portal Server を使用して提供されるエンドユーザーコンテンツの設定手順を説明しています。
  - **第 5 章リモートポートレットの Web サービス**は、Web Services for Remote Portlets (WSRP) を使用するための情報と手順を説明しています。
  - **第 6 章 Portal Server エンドユーザー動作の追跡の管理**は、エンドユーザーの動作とエンドユーザーとさまざまなポータルシステムコンポーネントとの対話に関連する問題の診断、トラブルシューティング、分析の方法について説明します。
  - **第 7 章 Portal Server の動作の監視**はデスクトップおよび Sun Java System Secure Remote Access サーバーについてのランタイム情報の入手方法について説明します。
  - **第 8 章 Portal Server のロギングの管理**は、Portal Server のロギングを管理する方法を説明します。
  - **第 10 章 Portal Server 登録の管理**は、登録の設定と管理方法について説明しています。
  - **第 11 章 Portal Server シングルサインオンアダプタの管理**は、SSO アダプタの使用に関する情報を説明します。SSO アダプタは、ポータルへの認証された接続のためにこの設定データを提供します。SSO アダプタサービスはこのデータを保存します。
  - **第 12 章 Portal Server Mobile Access の管理**では、Portal Server Mobile Access の設定と管理についての情報を示します。
- **パート II 「デスクトップの設計」**
  - **第 13 章デスクトップテーマとレイアウトの管理**は、デスクトップ設計ツールをカスタマイズする方法、およびこのツールにアクセスする方法について説明します。
  - **第 14 章ページレイアウトの設計**は、デスクトップのページレイアウトを変更する方法について説明します。

- 第 15 章タブの管理とカスタマイズは、タブおよびサブタブを追加、削除、編集、および移動する方法について説明します。
- 第 16 章チャンネルの管理とカスタマイズは、チャンネルを管理およびカスタマイズする方法について説明します。
- 第 17 章Google ガジェット統合の管理は、Google ガジェットをデスクトップに統合する方法について説明します。
- パート III 「検索サーバーの管理」
  - 第 18 章検索サーバーの管理は、検索カテゴリとデータベースでの作業についての詳細を説明します。
  - 第 19 章検索サーバーロボットの管理は、検索サーバーロボットと対応する設定ファイルについて説明します。
- パート IV 「委任管理の管理」
  - 第 20 章委任管理の管理は、管理機能の分散方法について説明します。
  - 第 21 章Portal Server 委任管理タグライブラリの使用は、委任管理タグライブラリに使用できる参照情報について説明しています。

## 関連マニュアル

- 『Sun Java System Portal Server 7.1 配備計画ガイド』
- 『Sun Java System Portal Server 7.2 Technical Overview』
- 『Sun Java System Portal Server Secure Remote Access 7.2 管理ガイド』
- 『Sun Java System Portal Server 7.2 Command Line Reference』
- 『Tag Library for Delegated Administration』
- 『Sun Java System Portal Server 7.2 リリースノート』
- 『Sun Java System Portal Server 7.1 Community Sample Guide』
- 『Sun Java System Portal Server 7.1 Developer Sample Guide』
- 『Sun Java System Portal Server 7.2 Technical Reference』
- 『Sun Java System Portal Server 7.2 Developer's Guide』

Portal Server の概念とコンポーネントの概要については、『Sun Java System Portal Server 7 Technical Overview』を参照してください。

## その他のサーバーマニュアル

その他のサーバーマニュアルについては、次を参照してください。

- Directory Server マニュアル (<http://docs.sun.com/coll/1224.1>)
- Access Manager マニュアル (<http://docs.sun.com/coll/1292.2>)
- Web Server マニュアル (<http://docs.sun.com/coll/1308.3>)
- Application Server マニュアル (<http://docs.sun.com/coll/1310.3>)
- Web Proxy Server マニュアル (<http://docs.sun.com/coll/1311.4>)

## Sun 製品資料の検索

docs.sun.com Web サイトで Sun 製品のマニュアルを検索するだけでなく、検索フィールドに次の構文を入力して検索エンジンを使用できます。

*search-term site:docs.sun.com*

たとえば、「ブローカ」を検索する場合は、次のように入力します。

**broker site:docs.sun.com**

検索に他の Sun Web サイト (java.sun.com、www.sun.com、developers.sun.com など) を含める場合は、検索フィールドの「**docs.sun.com**」の場所に「**sun.com**」と入力します。

## 第三者の関連する Web サイトの参照

このマニュアルでは、第三者が提供している URL で関連する追加情報を参照します。

---

注 - このマニュアルで紹介する Sun 以外の Web サイトが使用可能かどうかについては、Sun は責任を負いません。このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料についても、Sun は保証しておらず、法的責任を負いません。こうしたサイトやリソース上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことによって発生した (あるいは発生したと主張される) 実際の (あるいは主張される) 損害や損失についても、Sun は一切の責任を負いません。

---

## マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL	内容
マニュアル	<a href="http://jp.sun.com/documentation/">http://jp.sun.com/documentation/</a>	PDF 文書および HTML 文書をダウンロードできます。
サポートおよび トレーニング	<a href="http://jp.sun.com/supporttraining/">http://jp.sun.com/supporttraining/</a>	技術サポート、パッチのダウンロード、および Sun のトレーニングコース情報を提供します。

## 表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 machine_name% you have mail.
<b>AaBbCc123</b>	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	machine_name% <b>su</b> Password:
<i>aabbcc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『コードマネージャー・ユーザーズガイド』を参照してください。
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% <b>grep</b> '^#define \  <b>XV_VERSION_STRING</b>

コード例は次のように表示されます。

- C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

- C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[ ] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

パート I

## Sun Java System Portal Server の管理

- 第1章Portal Server 管理の概要
- 第2章ポータルおよび Portal Server インスタンスの管理
- 第3章組織、ルール、およびユーザーの管理
- 第4章Portal Server デスクトップの管理
- 第5章リモートポートレットの Web サービス
- 第6章Portal Server エンドユーザー動作の追跡の管理
- 第7章Portal Server の動作の監視
- 第8章Portal Server のログインの管理
- 第9章Portal Server コミュニティーの管理
- 第10章Portal Server 登録の管理
- 第11章Portal Server シングルサインオンアダプタの管理
- 第12章Portal Server Mobile Access の管理



# Portal Server 管理の概要

---

Portal Server の管理者は、次の項目に関するタスクを中心に、さまざまな機能を管理します。

- 複数のポータルおよび Portal Server インスタンス
- デスクトップ
- 検索サーバー
- Secure Remote Access サーバー
- シングルサインオン (SSO) アダプタ

この章では、Portal Server コンポーネント、およびポータルの管理方法について説明します。

- 29 ページの「Portal Server コンポーネントの概要」
- 30 ページの「Portal Server 管理コンソールの使用」
- 32 ページの「Portal Server 管理タグライブラリおよびポートレットの使用」
- 33 ページの「psadmin コマンド行インタフェースの使用」

## Portal Server コンポーネントの概要

Portal Server の配備には、ポータルの管理に影響を及ぼす多数のコンポーネントが含まれています。主なコンポーネントは次のとおりです。

- 共通エージェントコンテナ - Java 管理アプリケーションのコンテナを実装するスタンドアロン Java プログラム。詳しくは、『Solaris 10 の概要』を参照してください。
- ポータル管理サーバー - Portal Server MBean にアクセスするユーザーの認証およびアクセス制御チェックを実行する管理アプリケーション。このサーバーは、JMX™ インタフェースを使用し、共通エージェントコンテナモジュールとして実装されます。ポータル管理サーバーインスタンスは、Portal Server 製品がインストールされているホストごとに実行されます。

- ポータルドメインリポジトリ - Portal Server MBean の編成方法についての情報が格納される階層型データストア。このリポジトリには、一部の Portal Server MBean の設定データも保存されます。デフォルトのポータルドメインリポジトリは、Access Manager で使用される同じ LDAP サーバー内のサブツリーです。  
スタンドアロンゲートウェイのインストールで、ゲートウェイから LDAP サーバーと通信することはできません。ローカルゲートウェイ MBean 情報のみを格納するために、ゲートウェイファイルシステム上の追加のポータルドメインリポジトリが使用されます。
- ポータルデータストア - リレーショナルデータベース管理システム (RDBMS) や LDAP サーバーなどのバックエンド記憶領域またはファイルシステム内で、ポータルによるコンテンツ配信を容易にする設定データ、その他の Portal Server リソースが格納される場所。
- ポータル管理 MBean - ポータル管理サーバーによって共通エージェントコンテナサーバーにロードされ、ポータル管理タスクを実行します。
- ポータル管理コマンド行インタフェース (psadmin) - 各 Portal Server コンポーネントの管理ツールを提供します。詳しくは、33 ページの「psadmin コマンド行インタフェースの使用」を参照してください。
- ポータル管理コンソール (psconsole) - 各種のポータルサーバーリソースを管理するためのブラウザインタフェースを提供します。詳しくは、30 ページの「Portal Server 管理コンソールの使用」を参照してください。
- 監視 MBean - Portal Server の実行時リソース情報の収集をサポートします。詳しくは、第 7 章「Portal Server の動作の監視」を参照してください。
- ローカルファイルシステムデータ - ローカルファイルシステムに格納されるポータルデータ。ポータルデータには、各種の設定ファイル、プロバイダベースのテンプレートと JSP™ 構文ファイル、リソースバンドルファイル、カスタマイズされたプロバイダベースの Java クラスなどがあります。

Portal Server コンポーネントの詳細については、『Sun Java™ System Portal Server 7.2 配備計画ガイド』を参照してください。

## Portal Server 管理コンソールの使用

さまざまなポータル管理タスクを容易にする Portal Server 管理コンソールは、次のような機能を持つ Java 2 Platform, Enterprise Edition (J2EE™) アプリケーションです。

- Web ブラウザで使用できる
- 設定したデバッグレベルに従ってメッセージをデバッグログに記録する
- 名前と値のペアを含む設定の変更を記録する
- JMX (Java Management Extensions) テクノロジーを使用して、ポータル管理サーバー内のポータル管理 MBean と通信し、ポータルデータストアに接続する

ポータル管理者が管理コンソールを使用して実行できるタスクは、次のとおりです。

- デスクトップおよびコンテンツ配信を管理する
- ユーザーの操作を追跡し、ポータル管理者がその情報を利用して、エンドユーザーの活動に関連した問題、およびエンドユーザーと各 Portal Server コンポーネントとの対話状況を診断、トラブルシューティング、および分析する
- Portal Server のデスクトップおよび Secure Remote Access コンポーネントに関連する実行時統計を取得する
- Portal Server アプリケーションに関する情報を記録する

## ブラウザインタフェースについて

管理コンソールのユーザーインタフェースでは、管理機能がページごとに分類されています。各ページの上部にはタブの列が表示されます。各タブは、分類された管理機能が収められているページを表します。タブをクリックすると、ページを切り替えることができます。表示されるタブは次のとおりです。

- 共通タスク - ポータル管理者が頻繁に実行するタスクを直接起動できるリンクが表示される
- ポータル - ポータル管理者が特定のポータルを選択できるように、配備済みのポータルが Portal ID の順に一覧表示される
- 検索サーバー - 特定の検索サーバーを管理するページにポータル管理者がアクセスできるように、特定の検索サーバーの名前が一覧表示される
- **Secure Remote Access** - ポータル管理者は、リモートユーザーがインターネットを経由してポータルおよびそのサービスを安全に利用する方法を管理できる
- **SSO アダプター** - ポータル管理者は、一度サインインしたエンドユーザーがアプリケーションの認証済みアクセス権を取得する方法を管理できる
- 委譲 - ポータル管理者は、さまざまなリソースを管理する責任を委任管理者と呼ばれるほかのユーザーに委任できる

Portal Server の管理者は、特定のエンドユーザーのアイデンティティを定義して、ポータルのコンテンツの使用を許可および制限することができます。ポータルコンテンツを特定のエンティティで使用可能にするため、ポータルページ、属性、およびアクセスポリシーを設定できます。このようなエンティティは次のとおりです。

- 特定の組織
- 特定のサブ組織
- ロール
- 個々のエンドユーザー

## ▼ 管理コンソールにログインする

SuperAdmin アクセス権を持つ管理者および委任管理者のみが、Portal Server 管理コンソールを使用できます。ユーザーは、特別の URI (Uniform Resource Identifier) からブラウザクライアントを使用して Portal Server 管理コンソールにアクセスします。

- 1 ブラウザで次の URL を入力します:**http://hostname:port /psconsole**  
*hostname* 管理コンソールを実行しているシステムの名前。  
*port* インストール時に割り当てられた管理コンソールのポート番号。
- 2 テキストボックスに管理ユーザー名とパスワードを入力します。  
管理ユーザーは、最上位管理者にしてください。通常、管理ユーザー名は `amadmin` です。
- 3 「ログイン」ボタンをクリックします。  
管理コンソールの「共通タスク」ページが表示されます。

## Portal Server 管理タグライブラリおよびポートレットの使用

Portal Server の管理タグライブラリを使用して、管理コンソールの代わりにデスクトップからポータルを管理できるようにする、管理ポートレットを開発できます。このタグライブラリを使用して管理者が実行できるタスクは次のとおりです。

- 事前に設定された管理ポートレットの変更
- 新しい管理機能を持つポートレットの開発
- プロバイダ管理タスク、およびポートレットと WSRP 管理タスクのサポート
- JSPProvider に基づくチャンネルの作成と管理
- カスタムユーザーインタフェースを備えたカスタム管理ポートレットの記述
- 任意のカスタムチャンネルを管理する管理ポートレットの記述

管理者は、管理ポートレットを使用して、委任管理者と呼ばれるほかのユーザーに委任管理ステータスを付与することができます。Portal Server には、委任管理者用の基本デスクトップの設計に使用できる管理ポートレットのサンプルセットがあります。

詳しくは、『Sun Java System Portal Server 7.1 Developer Sample Guide』および『Tag Library for Delegated Administration』を参照してください。

## psadmin コマンド行インタフェースの使用

Portal Server ソフトウェアでは、コマンド行インタフェース (CLI) を使用できます。ポータル管理者は CLI で次の操作が可能です。

- 定期的に繰り返す管理タスクのスクリプトへの組み込みによる自動化

CLI には、ポータルタスクを管理するための多数の psadmin サブコマンドがあります。主なサブコマンドの機能は次のとおりです。

- 複数のポータルおよびポータルインスタンスの管理
- ポータルおよびポートレット WAR ファイルの配備
- 検索サーバーの管理
- Secure Remote Access サーバーの管理
- 監視の管理
- ポータルログの管理

ほとんどのサブコマンドは、ブラウザインタフェースの対応する機能と同じ感覚で使えるようになっています。特別のコマンドがない管理機能については、標準 UNIX コマンドを使用します。



---

注意 - Portal Server を Sun Java System Application Server 9.1 または GlassFish V2 Web コンテナにインストールした場合は、psadmin コマンドを呼び出す前にこれらの Web コンテナ管理サーバーのどちらかと cacao を起動する必要があります。

---

すべての psadmin サブコマンドについては、『Sun Java System Portal Server 7.2 Command-Line Reference』を参照してください。



# ポータルおよび Portal Server インスタンスの管理

---

この章では、複数のポータルと、ポータルおよび Portal Server インスタンスの管理方法について説明します。この章で説明する内容は次のとおりです。

- 35 ページの「複数のポータルの概要」
- 36 ページの「ポータルの設定」
- 41 ページの「Portal Server インスタンスの設定」

## 複数のポータルの概要

複数のポータルは、同じユーザーセットを共有します。複数のポータルの主な機能は次のとおりです。

- ポータルが URL で識別される。例: `http://hr.xyz.com/portal` または `http://eng.xyz.com/portal`
- 同じユーザーリポジトリ、つまり同じ Access Manager およびディレクトリサーバーを共有する。Access Manager を使用してエンドユーザーを管理するので、LDAP のエンドユーザーデータをどのリポジトリとも同期する必要がありません。エンドユーザーに関連するすべてのデータが、ただ1つのディレクトリサーバーで管理されます。
- 複数のポータルと Portal Server インスタンスを1つ以上のホストに配備できる。たとえば、1つのホスト上に、1つのポータルのコンテンツを配信する2つの Portal Server インスタンスと、別のポータルを配信する3つの Portal Server インスタンスを配備することができます。各 Portal Server インスタンスは、別個の Web コンテナインスタンス内で実行する必要があります。

次のコンポーネントはすべてのポータルで共有されます。

- リライタ - このコンポーネントは共有されますが、ポータルごとに異なるルールセットを定義できます。
- SSO アダプタ - このコンポーネントは共有されますが、ポータルごとに異なるアダプタを定義できます。

- Secure Remote Access のすべてのサービス

次のコンポーネントはポータルと1対1に対応します。

- デスクトップ - 各ポータルには独立したデスクトップがあります。
- 登録 - ポータルごとに別個に設定されます。
- WSRP - プロデューサとコンシューマ - プロデューサおよび設定済みのプロデューサのセットで、ポータルごとに独立しています。

検索とポータルは、多対多の関係に設定できます。

- 1つのポータルで1つの検索サーバーを使用できる。
- 複数のポータルで1つの検索サーバーを使用できる。
- 各ポータルで複数の検索サーバーを使用できる。

エンドユーザーに表示されるコンテンツはポータルごとに異なり、各ポータルのデスクトップはエンドユーザーがカスタマイズできます。ポータル間でシングルサインオンが可能です。たとえば、会社で2つのポータルを使用できるエンドユーザーは、多くの場合、次のように操作します。

- Portal 1 の URL を入力し、会社のアイデンティティを使用して認証を行います。
- Portal 1 のパーソナライズされたコンテンツを利用します。
- Portal 2 の URL を入力しますが、認証を行う必要はありません。
- Portal 2 のパーソナライズされたコンテンツを利用します。

ポータルが2つ以上あっても使用する Access Manager が異なる場合は、複数のポータルとはいいません。それらは独立した互いに無関係なポータルで、独自のユーザーセットを持っています。

Access Manger は、固有のインスタンスのコレクションとして実行できます。その場合、すべてのインスタンスで同じ Directory Server インスタンスのセットが使用されます。異なる Access Manager とは、互いに無関係な2つの Access Manager のことで、同じ Access Manager の異なるインスタンスのことではありません。

## ポータルの設定

ポータルは、同一のコンテンツを配信し、単一の URL (Uniform Resource Locator) にマップされる1つ以上の Portal Server インスタンスから成ります。ポータルから配信されるコンテンツとサービスは、ポータルのすべてのインスタンスで共通です。

複数のポータルは、同じユーザーセットを共有します。それらのポータルは1つ以上のホストに配備できますが、すべてのポータルで同じユーザーリポジトリ、つまり同じ Access Manager およびディレクトリサーバーを共有します。

---

注 - ポータルが2つ以上あっても使用する Access Manager が異なる場合は、複数のポータルとはいえません。それらは独立した互いに無関係なポータルで、独自のユーザーセットを持っています。

Access Manger は、固有のインスタンスのコレクションとして実行できます。その場合、すべてのインスタンスで同じ Directory Server インスタンスのセットが使用されます。異なる Access Manager とは、互いに無関係な2つの Access Manager のことで、同じ Access Manager の異なるインスタンスのことではありません。

---

ここでは、次のタスクの実行方法について説明します。

- 37 ページの「ポータルの一覧を表示する」
- 37 ページの「ポータルを作成する」
- 38 ページの「ポータルを削除する」
- 39 ページの「ポータルデータをエクスポートする」
- 40 ページの「ポータルデータをポータルにインポートする」

## ▼ ポータルの一覧を表示する

設定済みの Portal Server の一覧を表示できます。

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。

参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin list-portals
```

## ▼ ポータルを作成する

Portal Server のインストール時に、*portal1* という名前のデフォルトポータルが作成されます。「新規ポータル」ウィザードを使用して新しいポータルサーバーを作成することもできます。

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「新規ポータル」ボタンをクリックしてウィザードを起動します。
- 4 作成する **Portal Server** に **portal5** など、一意の名前を指定します。

- 5 エンドユーザーが **Portal Server** にアクセスできるように、`/portal` などの **URI** を入力します。
- 6 **Web** コンテナ情報を入力します。  
使用できるタイプは次のとおりです。
  - Sun Java™ System Web Server 6.0
  - Sun Java System Web Server 7.x
  - Sun Java System Application Server 8.x
  - BEA WebLogic 8.1SP4/SP5
  - IBM WebSphere 5.1.1.6
- 7 (省略可能) デフォルト **Web** コンテナインスタンスのプロパティを変更します。  
詳細は、『Sun Java System Portal Server 7.1 Configuration Guide』の「Creating a New Portal」を参照してください。
- 8 入力した情報を確認します。
- 9 「完了」をクリックすると、新しいポータルが作成されます。
- 10 (省略可能) 処理を監視するにはログファイルを表示します。
  - a. ポータルが作成されるマシンにログインします。
  - b. `psadmin set-logger` コマンドを実行します。  
`./psadmin set-logger -u uid -f password -m component-type -O logger-name`

#### 参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin create-portal
```

サポートされている Web コンテナの `webcontainer.properties` のテンプレートは、`portal-install-dir/template` ディレクトリにあります。

## ▼ ポータルを削除する

すべてのホスト上にあるポータルの既存インスタンスをすべて削除して、Access Manager LDAP ディレクトリ内のそのポータルのデータをクリーンアップすることができます。

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。

- 3 削除するポータルをリストから選択して、「ポータルを削除」ボタンをクリックします。

#### 参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin delete-portal
```

## ▼ ポータルデータをエクスポートする

par ファイルに保存できるポータルデータは次のとおりです。

- Access Manager ディレクトリに保存されているデータ
- デスクトップファイルシステムファイル。デフォルトの場所は `/var/opt/SUNWportal/portals/portal-URI/desktop` ディレクトリです
- デスクトップカスタマイズクラス。デフォルトの場所は `/var/opt/SUNWportal/portals/portal-URI/desktop/classes` ディレクトリです
- Portal Server Web アプリケーション。デフォルトの場所は `/var/opt/SUNWportal/portals/portal-URI/war` ディレクトリです
- Portal Server Web ソースデータ。デフォルトの場所は `/var/opt/SUNWportal/portals/portal-URI/web-src` ディレクトリです

アーカイブに保存したデータは、同じポータルまたは別のポータルにインポートできます。psconsole からポータルをエクスポートするには、次の手順に従います。

- 1 **Portal Server 管理コンソールにログインします。**
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 テーブルからポータルを選択します。
- 4 「エクスポート」ボタンをクリックします。
- 5 **Portal Server マシン上の par ファイルの場所、およびエクスポートするデータを指定します。**
  - すべてのデスクトップデータ — エクスポート先の par に、ファイルシステムデータおよびディスプレイプロファイルデータが保存されます
  - ファイルシステムデータのみ — エクスポート先の par ファイルに、ポータルデスクトップおよびポータル web-src に配備されるデータ、つまりデスクトップファイルシステムデータのみが保存されます

- ディスプレイプロファイルデータのみ — エクスポート先の par に、ディスプレイプロファイルデータのみが保存されます

参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin export
```

---

注 - このコマンドでは、Directory Server 内のユーザーデータはサポートされません。

---

## ▼ ポータルデータをポータルにインポートする

エクスポート済みの任意のポータルデータを任意のポータルにインポートできます。

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 テーブルからポータルを選択します。  
「デスクトップデータのインポート」ページが表示されます。
- 4 「インポート」ボタンをクリックし、次の情報を指定します。
  - インポートするデータの par ファイルパス。par ファイルは、**Portal Server** システム上に存在する必要があります。
  - ポータルのストレージ構造とインポートするアーカイブファイルとが一致しない場合に、続行するかどうか。
- 5 ポータルの **Web** アプリケーションを再配備します。
  - a. psadmin redeploy コマンドを実行する時刻をスケジュールします。  
この手順は、休憩時間中に行うか、システムが本稼働していないシステム保守モードで実行するように計画します。この処理により、ポータル war ファイルが再配備され、デスクトップを実行中のユーザーはログアウトされるため、ユーザーの作業内容が失われます。
  - b. psadmin redeploy コマンドを実行します。

```
psadmin redeploy -u amadmin -f passwordfile -p portallID --allwebapps
```

## 参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin import
```

---

注 - このコマンドでは、Directory Server 内のユーザーデータはサポートされません。

---

# Portal Server インスタンスの設定

Portal Server インスタンスは、Web コンテナに配備された Web アプリケーションです。インスタンスは、固有の Portal Server コンテキスト URI を使用して、特定のネットワークポートで要求を処理します。各 Portal Server インスタンスは単一のポータルと関連付けられます。

サーバーインスタンスは固有のポート上で待機し、1つの IP アドレスまたはホストの任意の IP アドレスのいずれかにバインドされます。Portal Server の場合、サーバーインスタンスは、ポート上で待機し単一の Java™ 仮想マシン (JVM™ ソフトウェア) を実行する、配備コンテナプロセスに対応します。

---

注 - Sun Java™ System Web Server と Sun Java™ System Application Server は複数のインスタンスをサポートします。

---

ここでは、次のタスクの実行方法について説明します。

- 41 ページの「Portal Server インスタンスの一覧を表示する」
- 42 ページの「Portal Server インスタンスを作成する」
- 43 ページの「Portal Server インスタンスを削除する」

## ▼ Portal Server インスタンスの一覧を表示する

設定済みの Portal Server インスタンスの一覧を表示できます。

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 テーブルから **Portal Server** の名前をクリックします。
- 4 「サーバーインスタンス」タブを選択します。  
選択した Portal Server のすべてのインスタンスが一覧表示されます。

参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin list-portals
```

## ▼ Portal Server インスタンスを作成する

- 始める前に
- Web コンテナインスタンス上の既存の Portal Server の新規インスタンスを作成します。
  - Web コンテナインスタンスを起動します。
  - Web コンテナの管理サーバーを起動します。
- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
  - 2 「ポータル」タブを選択します。
  - 3 **Portal Server** の名前を選択します。
  - 4 「サーバーインスタンス」タブを選択します。
  - 5 「新規インスタンス」ボタンをクリックしてウィザードを起動します。
  - 6 **Portal ID** の名前を指定します。
  - 7 *Web* コンテナ情報を入力します。
  - 8 (省略可能) デフォルト **Web** コンテナインスタンスのプロパティを変更します。  
詳細は、『Sun Java System Portal Server 7.1 Configuration Guide』の「Creating a Portal on the Same Node」を参照してください。
  - 9 入力した情報を確認し、新しいポータルインスタンスを作成する場合は「完了」をクリックします。  
進捗バーにこの手順の進行状況が表示されます。手順が完了すると、結果ページが表示されます。
  - 10 「完了」をクリックすると、新しいポータルインスタンスが作成されます。

参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin create-instance
```

## ▼ Portal Server インスタンスを削除する

Portal Server のインスタンスを削除することができます。

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 **Portal Server** の名前を選択します。
- 4 「サーバーインスタンス」タブを選択します。
- 5 削除するインスタンスをテーブルから選択します。
- 6 「インスタンスを削除」ボタンをクリックします。

参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin delete-instance
```



## 組織、ロール、およびユーザーの管理

---

Portal Server の管理者は、特定のエンドユーザーのアイデンティティを定義して、ポータルコンテンツの使用を許可および制限することができます。ポータルコンテンツを特定のエンティティで使用可能にするため、ポータルページ、属性、およびアクセスポリシーを設定できます。このようなエンティティは次のとおりです。

- 特定の組織
- 特定のサブ組織
- ロール
- 個々のエンドユーザー

組織、ロール、およびエンドユーザーを管理するために、Portal Server の管理者は、Portal Server 管理コンソールと Sun Java™ System Access Manager コンソールの両方を使用する必要があります。この章では、Portal Server 管理者が Access Manager を使用して行う場合の方法について説明します。この章では次の項目について説明します。

- 46 ページの「Portal Server での Access Manager の使用方法について」
- 47 ページの「Portal Server の新しい組織の作成」
- 48 ページの「Portal サービスの組織への追加」
- 51 ページの「特定のノードへの移動」

---

注- この章では、旧バージョンモードをサポートするようインストールされ、設定された Access Manager の使用方法について説明します。旧バージョンモードとレルムモードについては、『Sun Java System Access Manager 管理ガイド』を参照してください。

---

## Portal Server での Access Manager の使用方法について

Portal Server は、Sun Java System Access Manager サービスを使用して、Portal Server のエンドユーザーとアプリケーションに固有の属性を管理します。ID に関連するタスクの管理には、Access Manager コンソールを使用する必要があります。

ポータルサイトにアクセスできる人物を制御するために、Portal Server 管理者は次のツールを使用する必要があります。

- Portal Server 管理コンソールは、管理者が以下について管理できるブラウザインタフェースです。
  - ポータルとポータルインスタンス
  - 検索
  - リモートアクセス
  - シングルサインオン
  - ディスプレイプロファイルドキュメント
  - コンテナとチャンネル
- Sun Java System Access Manager コンソールは、さまざまなレベルのアクセス権限を持つ管理者が以下を実行できるブラウザインタフェースです。
  - レルムと組織の作成と削除
  - これらの組織のユーザーの作成と削除
  - サービスの管理
  - 組織リソースへのアクセスを保護および制限する強制ポリシーの設定

Portal Server 管理者は、Access Manager を使用して、次のタスクを実行する必要があります。

- 組織またはサブ組織内でのロールに基づいてユーザーに適切なアクセス権限を割り当て、管理するために、ユーザー、ロール、組織を含む ID ベースのオブジェクトを管理する
- エンドユーザーを認証することによって、特定のエンドユーザーに管理機能を委任し、組織、サブ組織、ユーザー、ポリシー、ロール、およびチャンネルを管理する

Access Manager は、LDAP (lightweight directory access protocol) を使用します。

Access Manager の管理については、『Sun Java System Access Manager 7.1 管理ガイド』を参照してください。

## Portal Server の新しい組織の作成

新しい組織は、最上位レベルの Access Manager 組織で登録されたサービスを継承します。新しい組織の継承する一般的なサービスは、次のとおりです。

- Access Manager の設定
  - 認証設定
- 認証モジュール
  - コア
  - LDAP
  - ポリシー設定

新しい組織は、LDAP 認証を使用し、LDAP サービス設定は、対応するグローバルサービスから継承されます。

Access Manager の管理については、『Sun Java System Access Manager 7.1 管理ガイド』を参照してください。

### ▼ Portal Server で使用する新しい組織を作成する

- 1 Access Manager コンソールにログインします。

Access Manager の管理については、『Sun Java™ System Access Manager 管理ガイド』を参照してください。

- 2 「アイデンティティ管理」で「表示」メニューから「組織」を選択します。
- 3 「新規」をクリックして新しい組織を作成します。

- 4 組織属性を指定します。

例:

名前	TestOrganization
「組織のエイリアス」	TestOrganization

- 5 「了解」をクリックします。

### ▼ 新しい組織にアクセスする

- ブラウザで次の URL を入力します:

**http://host:port/amserver/UI/Login?org=organizationalias**

host                                      コンソールが実行されているシステムの名前。

port	インストール中に割り当てられたコンソールのポート番号。
organizationalias	「組織エイリアス」属性フィールドに割り当てられた値。

## Portal サービスの組織への追加

組織にいくつかのサービスを追加してから、Portal にアクセスできるようにする必要があります。組織に追加する必要のあるサービスには、次のようなものがあります。

- Portal Server 設定
  - portalID デスクトップ
  - portalID 登録
  - SSO アダプタ
  - portalID WSRP コンシューマ
- モバイルアプリケーションの設定
  - モバイルアドレス帳
  - モバイルカレンダー
  - モバイルメール

追加できるオプションサービスには次のようなものがあります。

- SRA 設定
  - アクセス権一覧
  - ネットファイル
  - ネットレット
  - プロキシレット

### ▼ Portal サービスを組織に追加する

組織が Portal Server にアクセスできるようになる前に、組織にいくつかのサービスを追加する必要があります。組織に Portal サービスを追加した後、Portal Server 管理コンソールを使用して、Portal Server 設定を管理します。<sup>1</sup>

#### 1 Access Manager コンソールにログインします。

Access Manager の管理については、『Sun Java System Access Manager 7.1 管理ガイド』を参照してください。

---

<sup>1</sup> PortalID デスクトップサービスが組織またはロールに追加されると、サービスによりデフォルト設定が指定されます。このサービスは、上位の組織またはロールから PortalID デスクトップサービス設定を継承しません。必要に応じてこれらのサービス設定を管理するには、Portal サービス管理コンソールを使用する必要があります。

- 2 「アイデンティティ管理」で「表示」メニューから「組織」を選択します。
- 3 自分の組織をクリックします。  
例: TestOrganization
- 4 組織の「表示」メニューで「サービス」を選択します。
- 5 「追加」をクリックします。
- 6 配備で可能な場合は次のサービスを選択します。
  - モバイルアプリケーションの設定
    - モバイルアドレス帳
    - モバイルカレンダー
    - モバイルメール
  - Portal Server 設定
    - portalID デスクトップ
    - portalID 登録
    - SSO アダプタ
  - リモートポートレット (WSRP)
    - portalID WSRP コンシューマ
  - SRA 設定
    - アクセス権一覧
    - ネットファイル
    - ネットレット
    - プロキシレット
- 7 「了解」をクリックします。

## ▼ 新しいユーザーに必要な **Portal** サービスを指定する

組織に Portal サービスをすべて追加した後、Access Manager コンソールを使用して、新しく作成したエンドユーザーが Portal Desktop と必要な Portal サービスにアクセスできるように、サービスを追加する必要があります。

Access Manager 管理サービスでは、作成時にエンドユーザーエントリに動的に追加されるサービスを指定できます。「Sign-Me Up」機能など Portal 配備でユーザーが作成できる場合は、組織の Access Manager コンソールで「必要なサービス」設定を指定します。

始める前に Portal サービスを組織に追加します。48 ページの「Portal サービスの組織への追加」を参照してください。

- 1 **Access Manager** コンソールにログインします。  
Access Manager の管理については、『Sun Java System Access Manager 7.1 管理ガイド』を参照してください。
- 2 管理サービスを追加します。
  - a. 「アイデンティティ管理」で「表示」メニューから「組織」を選択します。
  - b. 自分の組織をクリックします。  
例: TestOrganization
  - c. 組織の「表示」メニューで「サービス」を選択します。
  - d. 「追加」をクリックします。
  - e. 「管理」を選択して「了解」をクリックします。
- 3 「管理」の必須サービスの設定を指定します。  
この設定によって、必要なサービスリストのサービスをすべて新しいエンドユーザーに割り当てるかどうかを指定します。
  - a. サービスから「管理」を選択します。
  - b. 「必要なサービス」設定で次のサービスを指定します。
    - SunPortalportalIDDesktopService
    - SunPortalportalIDSubscriptionsService
    - SunMobileAppABService
    - SunMobileAppCalendarService
    - SunMobileAppMailService
    - SunSSOAdapterService
  - c. 「保存」をクリックします。
- 4 **Access Manager** コンソールからログアウトします。

## 特定のノードへの移動

Portal Server は Access Manager サービスを使用して、アプリケーションとユーザー固有の属性を保存します。LDAP ディレクトリノード (DN) のポータル関連の機能を管理できるようにするため、Portal Server 管理コンソールでは、DN についての詳細がタブの行の下にある水平の帯であるロケーションバーに表示されます。

ロケーションバーを使用すると、次の動作を行うことができます。

- 現在選択しているノードを特定する
- 組織 DN を最高 10 個まで表示する
- 別のディレクトリ名に変更する

ディレクトリ名は、組織、ロール、またはユーザーの名前にできます。

### ロケーションバーについて

ロケーションバーには次の機能があります。

- **DN を選択** - このドロップダウンメニューを使用して、次のディレクトリノードタイプを表示できます。
  - Portal Server のインストール時に定義されたデフォルト組織。
  - 「DN の追加」 ボタンを使用して管理者が設定したノード。
- **選択した DN** - 現在選択されている DN を特定します。
- **DN の入力** - 完全名を入力してすでに定義されている DN に移動できます。

### ▼ 新しいディレクトリノードを設定する

ロケーションバーに追加せずに新しい DN を選択できます。

- 1 **Portal Server 管理コンソールにログインします。**
- 2 ロケーションバーの隣にある「追加」 ボタンを選択します。
- 3 次のいずれかの方法を使用して **DN** の名前を選択します。
  - ウィンドウに一覧表示された **DN** を選択する。
  - 「検索」ユーティリティを使用する。
    - a. 検索文字列を入力します。  
ワイルドカード文字を使用できます。

検索結果は、省略名と対応するディレクトリノードで表示されます。

b. 「検索」 ボタンをクリックします。

4 「現在のDNを設定」 ボタンをクリックします。

ウィンドウが閉じ、「選択した」 フィールドに新しいディレクトリノードが表示されます。ディレクトリノードは、ロケーションバーの選択肢に追加されません。

## ▼ ディレクトリノードをロケーションバーの選択肢に追加する

ロケーションバーのメニューにディレクトリノードを追加すると、cookie として保存されるため、ディレクトリノードはセッションが終わるまで同じブラウザで使用できます。

1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。

2 次のいずれかの方法を使用して **DN** の名前を選択します。

■ 「**DN**の追加」 ボタンを使用する。

a. 「**DN**を選択」 メニューの隣にある「追加」 ボタンをクリックします。

「**DN**リストに追加」 ポップアップウィンドウが開き、使用可能なディレクトリノードのリストが表示されます。

b. 目的の **DN** を選択します。

■ 「検索」 ユーティリティーを使用する。

a. 「検索」 メニューを使用してオブジェクトタイプを選択します。

b. 検索文字列を入力します。

ワイルドカード文字を使用できます。

検索結果は、省略名と対応する **DN** で表示されます。

c. 目的の **DN** を選択します。

3 ディレクトリノードの名前を選択します。

4 (省略可能) 省略名フィールドを編集して、ドロップダウンメニューに表示されるディレクトリノードの名前を変更します。

- 5 「追加」ボタンをクリックします。  
ディレクトリノードが「DNを選択」メニューに追加されます。

## ▼ ディレクトリノードをロケーションバーの選択肢から削除する

ロケーションバーに表示されるドロップダウンリストからディレクトリノードを削除できます。ディレクトリノード自体は削除されません。ディレクトリ名をLDAPデータベースから削除するには、Access Managerを使用する必要があります。

インストール中に定義されたデフォルトの組織は削除できません。

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「DNを選択」ドロップダウンメニューから削除するDNを選択します。
- 3 「DNを選択」ドロップダウンメニューボタンの隣にある「削除」ボタンをクリックします。  
選択したディレクトリノードが削除されます。

## ▼ ディレクトリノードの情報を表示する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 次のいずれかの方法で、ディレクトリノードについての情報を表示します。
  - 「DNの入力」テキストボックスにディレクトリノードの名前を入力し、「ジャンプ」ボタンをクリックする。
  - 「DNを選択」メニューからディレクトリノードの名前を選択する。



## Portal Server デスクトップの管理

---

この章では、Sun Java™ System Portal Server デスクトップとその管理方法について説明します。

- 55 ページの「Portal Server デスクトップ管理の概要」
- 58 ページの「Portal Server デスクトップコンテンツの管理」
- 71 ページの「デスクトップ属性の管理」
- 74 ページの「ディスプレイプロファイルの管理」

### Portal Server デスクトップ管理の概要

ここでは、Portal Server デスクトップの主要コンポーネントについて説明します。この章では、次の内容について説明します。

- 55 ページの「ディスプレイプロファイルの概要」
- 57 ページの「デスクトップ属性の概要」

### ディスプレイプロファイルの概要

Portal Server をインストールするときに、最初の組織を作成します。その際、指定した入力パラメータに基づいて、ディスプレイプロファイルグローバルレベルのドキュメントおよびデフォルト組織のディスプレイプロファイルがインポートされます。

その後は、組織、サブ組織、またはロールを新規に作成しても、ディスプレイプロファイルは毎回自動的にロードされません。ただし、それらの新しい組織、サブ組織、またはロールでは、親から定義済みのディスプレイプロファイルが継承されます。新規に作成した組織、サブ組織、またはロールに固有のエントリがある場合は、ディスプレイプロファイルを手動でロードする必要があります。

ディスプレイプロファイルでは、次の3つの項目を定義して標準デスクトップの表示設定を作成します。

### プロバイダ定義

プロバイダの名前と Java クラスを指定します。プロバイダは、コンテンツの生成に使用されるテンプレートで、チャンネルに表示されます。

### チャンネル定義

プロバイダクラスのインスタンスの実行時設定を指定します。チャンネルはコンテンツの単位で、多くの場合は行と列で編成されます。また、チャンネル内にチャンネルを持つことができます。これは、コンテナチャンネルと呼ばれます。

### プロバイダとチャンネルのプロパティ定義

プロバイダとチャンネルのプロパティに値を指定します。プロバイダに定義されたプロパティは、通常はそのプロバイダに関連するチャンネルの、デフォルトの値を指定します。チャンネルの表示設定には、タイトル、説明、チャンネル幅などのプロパティが含まれます。チャンネルに定義するプロパティでは、通常、デフォルト値とは異なるそのチャンネル固有の値を指定します。

コンテナプロパティでは、コンテナに含まれるチャンネルの表示方法に関する表示定義を定義します。これには、コンテナのレイアウト(狭い-広い、広い-狭い、または狭い-広い-狭い)、コンテナ内のチャンネルのリスト、チャンネルの位置(行と列の番号)、コンテナ内のチャンネルのウィンドウ状態(最小または切り離し)などがあります。

ディスプレイプロファイルはチャンネルのプロパティ値のみを提供します。ユーザーのデスクトップに実際に表示されるコンテンツの全体的なレイアウトや構造を定義するものではありません。ただし、ディスプレイプロファイルは、テーブルコンテナの列レイアウトやテーブルコンテナがテーブル内にチャンネルを描画する方法など、チャンネル表示のいくつかの側面を間接的に制御します。

無効な XML を含むディスプレイプロファイルドキュメントを保存しようとする、システムがエラーを出力します。このエラーメッセージは、タイトル、メッセージ、およびサブメッセージとして表示されます。メッセージボックスのタイトルは、「無効な XML ドキュメント」です。メッセージは、次のいずれかの形式で表示されます。

- XML のパースに失敗しました。
- XML の doctype がありません。
- DP の保存に失敗しました。
- 無効な XML 入力です。

「無効な XML ドキュメント」エラーが表示された場合、エラーを修正して XML ドキュメントを保存可能にする必要があります。

ドキュメントを表示する構文は次のとおりです。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM " jar://resources/psdp.dtd">
```

```
<DisplayProfile version="1.0" priority="xxx">
  <Properties>
    ...
  </Properties>
</Channels>
  ...
</Channels>
  <Providers>
    ...
  </Providers>
</DisplayProfile>
```

## デスクトップ属性の概要

デスクトップは、ユーザーのディスプレイプロファイルマージャーセットですべてのドキュメントをマージし、ユーザーのデスクトップを構成するために使います。ディスプレイプロファイルのマージしたセットには、ユーザーに関連するすべてのディスプレイプロファイルドキュメントが含まれます。ディスプレイプロファイルは、Portal Server 組織ツリーの異なるレベルで定義されます。ツリーのさまざまなレベルのディスプレイプロファイルドキュメントをマージまたは結合して、ユーザーのディスプレイプロファイルを作成します。

たとえば、ユーザーのディスプレイプロファイルドキュメントをロールディスプレイプロファイルドキュメント (存在する場合)、組織のディスプレイプロファイルドキュメント、およびグローバルディスプレイプロファイルドキュメントとマージして、ユーザーのディスプレイプロファイルを形成します。

デスクトップディスプレイプロファイルとその他の設定データは、Sun Java System Access Manager サービス管理フレームワークで、ポータルデスクトップサービスの親コンテナ、デスクトップタイプ、編集コンテナなどのサービス属性として定義されます。組織が Sun Java System Access Manager 管理コンソールでポータルデスクトップサービスを追加すると、組織内のすべてのユーザーが、自分のユーザープロファイルでポータルデスクトップサービス属性を継承します。これらの属性はポータルデスクトップで照会され、情報を集約してポータルデスクトップに表示する方法が決まります。

71 ページの「[デスクトップ属性の管理](#)」を参照してください。

## Portal Server デスクトップコンテンツの管理

ここでは、デスクトップコンテンツの管理方法について説明します。デスクトップの詳細については、『Sun Java System Portal Server 7 Technical Overview』の「Understanding the Standard Desktop」を参照してください。

- 58 ページの「ポートレットの管理」
- 60 ページの「チャンネルおよびコンテナの管理」

### ポートレットの管理

ここでは、ポートレットの配備方法と配備解除方法、およびポートレットの設定の変更方法について説明します。

ポートレットは、ポータルコンテキストの範囲内で要求を処理し、コンテンツを生成する Web アプリケーションです。ポートレットは、ポートレットコンテナ (JSR 168 エキスパートグループによって定義されるポートレット仕様の実装) によって管理されます。

ポートレットは、選択した DN ノードに一度しか配備できません。同一の DN ノードにポートレットがすでに配備されている場合は、そのポートレットの配備を解除してから配備してください。1つのポートレットを複数のサブ組織またはロールに配備する必要がある場合は、ポートレットをポータルのグローバル DN または親組織に配備します。

- 58 ページの「ポートレットを配備する」
- 59 ページの「ポートレットの配備を解除する」
- 60 ページの「ポートレットの設定を変更する」

#### ▼ ポートレットを配備する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」からポータルサーバーを選択します。
- 4 「DN を選択」ドロップダウンメニューから任意の DN を選択します。
- 5 「ポートレットを配備」をクリックしてウィザードを起動します。
  - a. 選択したポータルと選択した DN がポートレットの配備先と一致することを確認し、「次へ」をクリックします。

- b. ポートレット **war** ファイル、ロールファイル、およびユーザーファイルを指定します。

---

注-ロールファイルとユーザーファイルは省略できます。war ファイル、ロールファイル、およびユーザーファイルは、ローカルマシン、またはリモートポータルサーバーシステムのいずれかに配置できます。

---

- c. ローカルシステムかリモートポータルサーバーシステムのいずれかのボタンを選択します。
- ローカルマシンからファイルをアップロードする場合は、参照ダイアログボックスを使用してローカルマシンからファイルを選択します。
  - リモートポータルサーバーシステムからファイルをアップロードする場合は、ファイルチューザダイアログを使用してリモートマシンからファイルを選択します。
- d. 指定した情報を確認し、「次へ」をクリックします。
- e. ポートレットが配備される際に情報ページが表示されます。
- 6 画面の指示に従ってポートレットを配備します。

#### 参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin deploy-portlet
```

### ▼ ポートレットの配備を解除する

- 1 **Portal Server 管理コンソールにログインします。**
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」からポータルサーバーを選択します。
- 4 「DNを選択」ドロップダウンメニューから任意のDNを選択します。
- 5 「ポートレットを配備解除」をクリックしてウィザードを起動します。
- 6 必要に応じて設定属性を変更します。
- 7 「配備解除」をクリックして変更を記録します。

## 参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin undeploy-portlet
```

### ▼ ポートレットの設定を変更する

- 1 **Portal Server 管理コンソール**にログインします。
- 2 「共通タスク」タブをクリックし、サブメニューから「コンテナとチャンネルを管理」を選択します。
- 3 ポートレットを配備するポータルおよびDNを選択します。  
使用できるチャンネルとポートレットがナビゲーションツリーに表示されます。
- 4 左のフレームのナビゲーションツリーからポートレットチャンネルを選択します。  
右のフレームには、設定テーブルとプロパティテーブルが表示されます。
- 5 設定テーブルで、変更する設定の「値を編集」リンクをクリックします。
- 6 設定ウィザードでテキストフィールドに新しい値を入力し、「了解」をクリックします。
  - 値を削除するには、リストからその値を選択して「削除」をクリックします。
- 7 設定の変更が終わったら「保存」をクリックします。
- 8 「閉じる」をクリックします。

## チャンネルおよびコンテナの管理

ここでは、ポータルサーバーのチャンネルとコンテナを管理コンソールから管理する方法について説明します。

この章では、次の内容について説明します。

- 61 ページの「チャンネルおよびコンテナの表示」
- 63 ページの「チャンネルおよびコンテナのプロパティの変更」
- 67 ページの「チャンネルおよびコンテナの作成と削除」
- 69 ページの「タブの作成」
- 70 ページの「チャンネルおよびコンテナの表示」

## チャンネルおよびコンテナの表示

ユーザー用のデスクトップは、デスクトップ親コンテナを起動することで描画されます。親コンテナ属性は、すべての組織、ロール、およびユーザー DN でカスタマイズできます。特定の DN でのデスクトップのコンテンツは、デスクトップ親コンテナ内で表示するように選択した子コンテナとチャンネルの反復によって生成されます。

通常、デスクトップ親コンテナには、少数のタブコンテナまたはテーブルコンテナが含まれます。親コンテナの選択済みノードのリストにあるタブコンテナごとに、1つのタブがユーザーデスクトップ上に表示されます。タブの下に表示されるチャンネルが、タブコンテナ内のチャンネルです。

ポータル管理コンソールの「チャンネルおよびコンテナ管理」の左下フレームには、次の2つのコンポーネントがあります。

- 「表示タイプ」メニュー
- チャンネルおよびコンテナツリー

「表示タイプ」メニューの項目およびツリーに表示されるノードは、マージされたディスプレイプロファイル XML のコンテンツに依存しています。

ツリーにはコンテナおよびチャンネルノードが含まれます。コンテンツをデスクトップに配信するチャンネルには、次の3つのタイプがあります。

- プロバイダ(ネイティブ)チャンネル
- ポートレットチャンネル
- リモートポートレットチャンネル

ツリー内のノードリンクをクリックして、右のフレームにプロパティーと操作を表示できます。

「表示タイプ」メニューの項目には、次の2つのタイプがあります。

- DP XML ツリー
- デスクトップ表示

62 ページの「[DP XML ツリーおよびデスクトップ表示を表示する](#)」を参照してください。

### DP XML ツリー

このツリーには、マージされたディスプレイプロファイル (DP) XML にあるチャンネルとコンテナの完全なセットが表示されます。DP XML ツリーのルート要素は DP\_ROOT で、ディスプレイプロファイルのすべてのチャンネルおよびコンテナの親になります。チャンネルは DP\_ROOT の直下にも、DP\_ROOT の下のコンテナ内にも作成することができます。

DP XML ツリーに一覧表示されているノードが常にデスクトップに表示されるとは限りません。ディスプレイプロファイル内には、デスクトップコンテナの階層で参照されたり、階層に含まれたりすることがまったくないノードもあります。

たとえば、デスクトップデフォルトコンテナ JSPTabContainer には2つのコンテナ、*tab1* と *tab2* があります。*tab1* に *ch1* と *ch2* が含まれ、*tab2* に *ch3* と *ch4* が含まれている場合、DP XML ツリーには5つのチャンネルが定義されます。DP XML ツリーでは、コンテナ階層内の *ch1* から *ch4* が参照されますが、*ch5* は参照されません。そのため、デスクトップに表示されるのは、*ch1* から *ch4* だけです。

## デスクトップ表示

デスクトップ表示は、マージされたディスプレイプロファイルで使用可能な最上位コンテナです。各デスクトップ表示は、DN にあるデスクトップの親コンテナとして設定できます。デスクトップ表示を選択すると、コンテンツをデスクトップに描画する役割を持つチャンネルとコンテナの階層がツリーに表示されます。

デスクトップ表示で表示されるチャンネルとコンテナには、次の2つの状態があります。

- デスクトップで選択され表示可能
- 選択可能

---

注-この状態の場合、チャンネルとコンテナのアイコンがグレーで表示されます。

---

右のフレームにあるタスクリンクをクリックして、デスクトップ表示内のチャンネルおよびコンテナの状態を変更することができます。コンテナまたはチャンネルアイコンの上にマウスを移動すると、状態のツールチップが表示されます。ツールチップでノードの完全修飾名も確認することができます。

## ▼ DP XML ツリーおよびデスクトップ表示を表示する

- 1 Portal Server 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」でポータルサーバーを選択し、「DN を選択」ドロップダウンメニューから任意の DN を選択します。
  - 「コンテナとチャンネルの管理」ページの「DN を選択」メニューから組織を選択することもできます。
- 4 「タスク」で「コンテナとチャンネルの管理」をクリックします。

- 5 「表示タイプ」ドロップダウンメニューから「DPXML ツリー」または「デスクトップ表示」を選択します。

## チャンネルおよびコンテナのプロパティの変更

ここでは、チャンネルとコンテナのプロパティ、およびその変更方法について説明します。

たとえば、次のような作業を行えます。

- 65 ページの「プロパティを作成する」
- 66 ページの「リストを編集する」
- 60 ページの「ポートレットの設定を変更する」
- 66 ページの「チャンネルおよびコンテナのプロパティを変更する」
- 75 ページの「ディスプレイプロファイルをアップロードする」

### プロパティの概要

ツリー内のノードをクリックして表示されるプロパティは、最上位のプロパティまたはチャンネルレベルのプロパティです。これらのプロパティはプロバイダレベルで定義され、チャンネルに合わせてカスタマイズできます。ただし、チャンネルに追加された新しいプロパティをプロバイダに追加することはできません。チャンネルレベルで新規プロパティを追加できないのは、このためです。

プロパティテーブルには、クライアントタイプとロケールが示されます。プロパティのタイプを示す列はありませんが、次の規約が適用されます。

文字列	「値」列が、最大 30 文字の広いテキストフィールドになります。
整数	「値」列が、最大 5 文字の狭いテキストフィールドになります。
ブール	「値」がラジオボタンになります。
マップ	「名前」がリンクになります。
リスト	「値」列が「値を編集」リンクになります。このリンクをクリックすると、値を追加および削除するウィザードが起動します。
空のコレクション	名前が「値の編集」リンクを表示するリンクになります。空のコレクションに名前と値のペアを追加して、対応表のように機能させることができます。追加すると「値の編集」が表示されなくなります。「値の編集」ウィザードを使用して空のコレクションに値を追加すると、コレクションはリストとして動作するので、名前のリンクは表示されません。

プロパティテーブルには、「名前」と「値」列に加えて2つの列があります。

**カテゴリ** プロパティが拡張か基本かを示します。拡張プロパティは、経験を積んだ管理者向けです。

**状態** どのプロパティも次の3つの状態のいずれかになります。

- デフォルト - プロバイダで値が割り当てられています。
- 継承 - 上位のいずれかのレベルで値が変更されています。たとえば、現在のノードがロールの場合、プロパティはロールの組織でカスタマイズされたと考えられます。この組織は、親組織または親組織の親の可能性があります。プロパティが継承される場合はリンクとなります。このリンクをクリックすると、このプロパティの継承元からの階層にある、可能性のあるすべての親ノードが表示されます。
- カスタマイズ - このノードで値が定義されました。

プロパティテーブルには次のボタンがあります。

**カスタマイズを削除** このノードで定義された値をディスプレイプロファイルから削除します。このとき、階層内のいずれかの親でプロパティがカスタマイズされていると、プロパティがそこから継承される場合があります。階層内のどの場所でも値がカスタマイズされていない場合、プロバイダで定義された値が表示され、状態が「デフォルト」として示されません。

**保存** 値の追加、削除、および変更を保存します。

**リセット** 変更を無視して、データストアから最後に保存された状態に値をリセットします。

**すべてのソートを解除** すべてのソートを解除します。

---

ヒント-テーブルは、任意の列タイトルをクリックしてソートすることができます。「名前」ボタンを最初にクリックして名前ですべてをソートすると、「カテゴリ」ボタンと「状態」ボタンの横に+が表示されます。この+をクリックすると、次のソート条件が適用されます。

---

**テーブルの設定** テーブルの設定を変更します。

変更しないかぎり、クライアントタイプおよびロケールはデフォルトに設定されます。

## ▼ プロパティを作成する

「新規プロパティ」ウィザードから、値の編集と保存を行うことができます。名前と値の新しいペアを追加することも可能です。

- 1 **Portal Server 管理コンソールにログインします。**
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」からポータルを選択します。
- 4 「DNを選択」ドロップダウンメニューから任意のDNを選択します。
- 5 「作業」で「コンテナとチャンネルを管理」をクリックします。
- 6 左のフレームのツリーからコンテナを選択して、右のフレームに「プロパティの編集」ページを表示します。
- 7 「テーブルの設定」ボタンをクリックして、クライアント属性とロケール属性を設定します。
- 8 「新規プロパティ」ボタンをクリックしてウィザードを起動します。
- 9 プロパティタイプを選択し、「次へ」をクリックします。
- 10 「名前」を入力し、「値」を選択し、拡張プロパティかどうかを指定します。

---

注-名前と値のペアを含むコレクションプロパティは、マップのように機能します。コレクションタイプのプロパティは入れ子にできます。テーブルの上のプロパティパスは現在の入れ子のレベルに応じて変化し、入れ子の外側に戻ることが可能です。

末尾に付加される値は省略できます。たとえば、en や en\_US は値として指定できますが、us のみを指定することはできません。ロケールを指定する標準 Java 形式が適用されます。

---

- 11 「完了」をクリックしてプロパティを作成します。
- 12 「閉じる」をクリックすると、テーブルに新しいプロパティが表示されます。

## ▼ リストを編集する

値のみを含むコレクションプロパティは、リストのように機能します。

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」からポータルを選択します。
- 4 「DNを選択」ドロップダウンメニューから任意のDNを選択します。
- 5 「作業」で「コンテナとチャンネルを管理」をクリックします。
- 6 左のフレームのツリーからコンテナを選択して、右のフレームに「プロパティの編集」ページを表示します。
- 7 プロパティの「値を編集」リンクをクリックしてウィザードを起動します。
- 8 変更します。
  - 値を追加する場合は、「新しい値」テキストボックスに値の名前を入力し、「追加」をクリックします。
  - 値を削除する場合は、「値」リストから値を選択し、「削除」をクリックします。
- 9 「閉じる」をクリックします。  
「プロパティの編集」ページのリスト内の値の数が更新されます。

## ▼ チャンネルおよびコンテナのプロパティを変更する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」からポータルを選択します。
- 4 「DNを選択」ドロップダウンメニューから任意のDNを選択します。
- 5 「作業」で「コンテナとチャンネルを管理」をクリックします。

- 6 左のフレームのツリーからチャンネルまたはコンテナを選択して、右のフレームに「プロパティの編集」ページを表示します。
- 7 プロパティを変更して「保存」をクリックします。

#### 参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin modify-dp
```

## チャンネルおよびコンテナの作成と削除

ここでは、チャンネルとコンテナをポータル管理コンソールから作成および削除する方法について説明します。

- 67 ページの「チャンネルまたはコンテナを作成する」
- 69 ページの「チャンネルまたはコンテナを削除する」

### ▼ チャンネルまたはコンテナを作成する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」からポータルを選択します。
- 4 「DN を選択」ドロップダウンメニューから任意の DN を選択します。
- 5 「作業」で「コンテナとチャンネルを管理」をクリックします。
- 6 左のフレームのツリーからコンテナを選択して、右のフレームに「プロパティの編集」ページを表示します。
- 7 「作業」で「新規チャンネルまたはコンテナ」をクリックして、ウィザードを起動します。

ウィザードで、選択したポータルと選択した DN がチャンネルまたはコンテナの作成先と一致することを確認し、「次へ」をクリックします。

- 8 ウィザードからコンテナまたはチャンネルを作成します。
  - コンテナを作成するには次の手順を実行します。
    - a. 「コンテナプロバイダ」ドロップダウンメニューからプロバイダを選択し、「次へ」をクリックします。
    - b. 「チャンネルまたはコンテナ名」テキストフィールドに名前を入力し、「次へ」をクリックします。
    - c. 選択内容を確認して「完了」をクリックします。  
コンテナの作成を確認するメッセージが表示されます。
    - d. 「閉じる」をクリックします。
  - チャンネルを作成するには次の手順を実行します。
    - a. チャンネルタイプを選択します。  
次の3つのタイプからチャンネルを選択します。
      - 「プロバイダチャンネル」を選択すると、プロバイダチャンネルのリストが表示されます。
      - 「JSR 168 ポートレットチャンネル」を選択すると、ポートレットチャンネルのリストが表示されます。
      - 「WSRP リモートポートレットチャンネル」を選択する場合は、ドロップダウンメニューから登録済みプロデューサとリモートポートレットを選択します。
    - b. 「チャンネルまたはコンテナ名」テキストフィールドに名前を入力し、「次へ」をクリックします。
    - c. 選択内容を確認して「完了」をクリックします。  
チャンネルの作成を確認するメッセージが表示されます。
    - d. 「閉じる」をクリックします。

#### 参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin add-dp
```

## ▼ チャンネルまたはコンテナを削除する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」からポータルを選択します。
- 4 「DNを選択」ドロップダウンメニューから任意のDNを選択します。
- 5 「タスク」で「コンテナとチャンネルを管理」をクリックします。
- 6 左のフレームのツリーからコンテナを選択して、右のフレームに「プロパティの編集」ページを表示します。
- 7 「タスク」で「削除するチャンネルまたはコンテナを選択」をクリックします。
- 8 「タイプ」で「チャンネルまたはコンテナ」を選択します。  
使用できるチャンネルおよびコンテナが表示されます。
- 9 チャンネルまたはコンテナを選択し、「削除」をクリックします。

参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin remove-dp
```

## タブの作成

ここでは、Portal Server 管理コンソールからタブを作成する方法について説明します。

## ▼ タブを作成する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」からポータルを選択します。
- 4 「DNを選択」ドロップダウンメニューから任意のDNを選択します。

- 5 「タスク」で「コンテナとチャンネルを管理」をクリックします。
- 6 左のフレームのツリーから、「JSPTabContainer」を選択します。
- 7 右のフレームの「タスク」で「新しいタブ」をクリックして、ウィザードを起動します。

## チャンネルおよびコンテナの表示

ここでは、エンドユーザーデスクトップにチャンネルとコンテナを表示する方法について説明します。エンドユーザーがデスクトップに表示するチャンネルとコンテナを選択できるように、それらをコンテンツページ上で使用可能にすることもできます。

### ▼ チャンネルとコンテナをデスクトップに表示する

- 1 [Portal Server 管理コンソールにログイン](#)します。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」からポータルを選択します。
- 4 「タスク」で「コンテナとチャンネルの管理」をクリックします。
- 5 左のフレームのツリーからコンテナを選択して、右のフレームに「プロパティの編集」ページを表示します。
- 6 「タスク」で「チャンネルおよびコンテナをポータルデスクトップ上に表示または非表示」をクリックします。
- 7 「使用可能」でチャンネルまたはコンテナを選択します。
- 8 「追加」ボタンを使用してチャンネルを移動し、コンテンツページまたはポータルデスクトップ上に表示されるようにします。
  - 「削除」ボタンを使用して、チャンネルまたはコンテナを「使用可能」に戻すことができます。
- 9 「保存」をクリックします。

## 参考 同等の psadmin コマンド

psadmin modify-dp。

# デスクトップ属性の管理

ここでは、デスクトップ属性の管理方法について説明します。詳しくは、57 ページの「[デスクトップ属性の概要](#)」を参照してください。

デスクトップ属性は、最上位の組織と組織ツリーの他のレベルとで異なります。ロケーションバーを「TopLevel」に変更すると、グローバルデスクトップ属性を表示できます。ほかの識別名を選択すると、組織またはロールのデスクトップ属性を表示できます。

## ▼ デスクトップ属性を設定する

- 1 [Portal Server 管理コンソール](#)にログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」でポータルサーバーを選択し、次に「デスクトップ」を選択します。
- 4 「DN を選択」ドロップダウンメニューから任意の DN を選択します。
- 5 「デスクトップ属性」で必要に応じて設定属性を変更します。

次のオプションを使用できます。

COS 優先順位

複数のデスクトップテンプレートをマージする際の競合の解決に使用する、デスクトップサービステンプレートの競合の解決レベルを設定します。この属性は組織とロールにのみ適用され、ユーザーとグローバル DN には適用されません。

親コンテナ

不特定のプロバイダでデスクトップが呼び出される場合に描画するデフォルトコンテナを指定します。「親コンテナ」の値には、ポータルページ上にヘッダーおよびフッターを描画可能な TopLevelContainer として定義されるいずれかのコンテナを指定できます。ディスプレイプロファイルのプロパティー

編集コンテナ	<p>TopLevelがtrueに設定されている場合、コンテナは最上位コンテナとなります。</p> <p>URLで編集コンテナが指定されていない場合にコンテンツのラップに使用する、デフォルト編集コンテナを指定します。このコンテナは、チャンネルのタイトルバーで編集リンクがクリックされたときに、親コンテナによって編集ページの描画に使用されます。</p>
デスクトップタイプ	<p>テンプレートおよびJSPの検索時にデスクトップの検索操作で使用されるコマンド区切ったリストです。検索はリストの最初の要素から開始されます。各要素は、デスクトップテンプレートベースディレクトリ下のサブディレクトリを表します。たとえば、"sampleportal,foo"というリストの場合、検索はsampleportalディレクトリ、fooディレクトリ、デフォルトディレクトリの順番で行われます。</p>
デスクトップ属性	<p>ロールに関連付けられたユーザーにデスクトップ属性を表示するかどうかを指定します。この動的な属性は、管理タグライブラリで主にロールに基づく委任管理に使用されます。この属性の表示を有効にすると、委任管理者が、親組織から継承されたチャンネルとコンテナを管理できるようになります。この属性は、組織およびロールにのみ適用されません。</p>
ディスプレイプロファイル優先順位	<p>ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位を設定します。ディスプレイプロファイルドキュメントは、低い優先順位から高い優先順位の順にマージされます。低い数値は低い優先順位を表します。たとえば、1は2よりも優先順位が低くなります。マージセマンティクスの結果、優先順位が低いドキュメントで設定された値は、優先順位が高いドキュメントによって無効になります。ただし、優先順位が低いドキュメントでオブジェクトのマージがロックされている場合を除きます。</p>

---

注-ディスプレイプロファイル優先順位は、デスクトップサービス属性として保存されません。

---

次の属性は、「TopLevel [グローバル]」DN にのみ適用されます。

XML パース検証	XML 構文解析の検証を有効にします。
連携	アイデンティティ連携を有効にし、ユーザーが複数のインターネットサービスプロバイダ、ローカルアイデンティティを関連付け、接続、またはバインドできるようにします。これにより、ユーザーのネットワークアイデンティティを1つにできます。
ホストプロバイダ ID	ユーザーのネットワークアイデンティティを提供するホストの一意の識別子を指定します。
セッションの取得間隔	セッションの取得間隔を秒単位で指定します。
セッションアイドル時間	セッションを終了するまでのアイドル時間を秒単位で指定します。
クライアントセッションの最大数	クライアントセッションの瞬間最大数を指定します。
匿名デスクトップ	有効にすると、選択したポータルで匿名デスクトップを使用できます。
連携ユーザーの匿名アクセス	ホストプロバイダ上にネットワークアイデンティティを持つユーザーが、ユーザー名とパスワードの入力によってポータルデスクトップにアクセスすることを禁止します。
匿名デスクトップで有効な UID	認証を受けずにデスクトップにアクセスする権限を持つユーザー ID のリスト。

- 6 「保存」をクリックして変更を記録します。  
 そうしない場合は、「リセット」をクリックして編集を取り消します。

---

注-グローバル属性を変更する場合は、ロケーションバードロップダウンの DN を「TopLevel」に変更します。

---

参考 同等の psadmin コマンド

psadmin undeploy-portlet

## ディスプレイプロファイルの管理

ここでは、Sun Java System Portal Server ディスプレイプロファイルの管理方法について説明します。詳しくは、55 ページの「ディスプレイプロファイルの概要」を参照してください。

ポータル管理コンソールから実行できるタスクは次のとおりです。

- 74 ページの「ディスプレイプロファイルをダウンロードする」
- 75 ページの「ディスプレイプロファイルをアップロードする」
- 75 ページの「ディスプレイプロファイルを削除する」

### ▼ ディスプレイプロファイルをダウンロードする

ディスプレイプロファイルをファイルにダウンロードできます。

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」でポータルサーバーを選択します。
- 4 「DN を選択」ドロップダウンメニューから任意の DN を選択します。
- 5 「タスク」で「ディスプレイプロファイルをダウンロード」をクリックします。ブラウザのダウンロードポップアップウィンドウが開きます。
- 6 場所を選択して「保存」をクリックします。

---

注 - この手順はブラウザによって異なる場合があります。

---

参考 同等の psadmin コマンド

psadmin get-attribute

## ▼ ディスプレイプロファイルをアップロードする

ディスプレイプロファイルをファイルにアップロードできます。

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」でポータルサーバーを選択します。
- 4 「DNを選択」ドロップダウンメニューから任意のDNを選択します。
- 5 「タスク」で「ディスプレイプロファイルをアップロード」をクリックします。
- 6 「参照」ボタンを使用して、アップロードするディスプレイプロファイルのファイルを選択します。

---

注- 目的のファイルは、ユーザーのブラウザの設定に従ってローカルマシン上にあります。

---

- 7 「アップロード」をクリックします。

### 参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin modify-dp。
```

## ▼ ディスプレイプロファイルを削除する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」でポータルサーバーを選択します。
- 4 「DNを選択」ドロップダウンメニューから任意のDNを選択します。
- 5 「タスク」で「ディスプレイプロファイルの削除」をクリックします。
- 6 削除を確認するダイアログボックスで「了解」をクリックします。

参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin remove-dp
```

# リモートポートレットの Web サービス

---

Sun Java™ System Portal Server はリモートポートレットの Web サービス (WSRP) をサポートします。この章では、WSRP を使用する際のガイドラインと最良の事例を示します。この章で説明する内容は次のとおりです。

- 77 ページの「WSRP 標準の概要」
- 78 ページの「プロデューサの管理」
- 83 ページの「コンシューマの管理」
- 90 ページの「WSRP プロデューサの管理」
- 94 ページの「WSRP コンシューマの管理」

## WSRP 標準の概要

WSRP 1.0 は OASIS 標準の 1 つで、これによって、リモートアプリケーションおよびコンテンツのポータルへの統合が簡単にできます。WSRP 標準は、プレゼンテーション指向の対話式 Web サービスを、一般的な定義済みのインタフェースおよびプロトコルとともに定義して、ユーザー対話を処理し、プレゼンテーションを、ポータルによる仲介と集約、およびそれらのサービスを発行、検索、バインドするための規約に適した形にフラグメント化します。

WSRP インタフェースは一般的で定義済みであるため、WSRP 標準を実装するすべての Web サービスは WSRP 標準のすべてのポータルに接続できます。すなわち、あらゆる WSRP サービスを統合するには、サービスに依存しない単一のアダプタがポータル側にあれば十分です。したがって、WSRP は、コンテンツおよびアプリケーションプロバイダが、ポータルを実行している組織に対して複雑なプログラミング作業なく各自のサービスを提供するための手段です。

詳細については、WSRP 1.0 標準を参照してください。

[http://www.oasis-open.org/committees/tc\\_home.php?wg\\_abbrev=wsrp](http://www.oasis-open.org/committees/tc_home.php?wg_abbrev=wsrp)

Portal Server における WSRP 1.0 標準の実装には、WSRP のコンシューマとプロデューサの両方が含まれます。WSRP プロデューサの実装は、リモートの WSRP コン

シューマによって使用される JSR 168 ポートレットの発行をサポートします。JSR 168 ポートレットは、ポータルサーバー上にローカルに配備されています。これらのポートレットは、WSRP プロデューサのインスタンスによって発行できます。

もう1つのポータルサーバーは、WSRP コンシューマを介してこれらのリモートポートレットに登録できます。ローカルポートレットがポータルの基本機能の大部分を提供すると予想される一方で、リモートポートレットは、インストール作業、あるいはコンシューマ側のポータルサーバーでコードをローカルに実行する必要もなく、各種のリモートポートレットをバインドする可能性を提供します。

## プロデューサの管理

この節では、次の項目について説明します。

- 78 ページの「登録をサポートするプロデューサの作成」
- 80 ページの「登録をサポートしないプロデューサの作成」
- 81 ページの「WSRP プロデューサプロパティの有効化と編集」
- 81 ページの「登録検証クラスのカスタマイズ」
- 82 ページの「登録ハンドルの生成」

ローカルに配備されたポートレットを、WSRP コンシューマとして動作する別のポータルへリモートで提供する場合は、プロデューサを作成します。ポータルは複数のプロデューサをホストできます。コンシューマは、プロデューサが提供するリモートのポートレットをインポートできます。WSRP コンシューマに提供するポートレットをベースにして、1つ以上のプロデューサを作成できます。プロデューサは登録をサポートできますが、登録が必須であるわけではありません。プロデューサが登録をサポートする場合、コンシューマをプロデューサと組み合わせて動作させるには、コンシューマを登録する必要があります。

## 登録をサポートするプロデューサの作成

登録は、コンシューマとプロデューサの間の技術的または業務上の関係を構築するために使用されます。プロデューサの作成時には、次の登録機構のいずれかを定義できます。すなわち、in-band 登録と out-of-band 登録です。

プロデューサが登録を必要とし、in-band 登録を有効とした場合、コンシューマは WSRP インタフェースを介して詳細を提供し、プロデューサに登録できます。また、コンシューマには out-of-band 通信を介した登録のオプションも提供されます。すなわち、コンシューマは out-of-band 通信を介して取得される登録ハンドルを提供できます。

プロデューサが登録を必要とし、out-of-band 登録を有効とした場合、コンシューマは out-of-band 通信を介して登録ハンドルを取得し、登録処理中に登録ハンドルを提供します。out-of-band 登録は、電話の呼び出しや電子メールなど手動の介入を

伴って発生します。out-of-band 登録をサポートするプロデューサは、out-of-band 通信を介してコンシューマに関する詳細を取得し、コンシューマの登録ハンドルを作成します。登録ハンドルは、out-of-band 通信を介してコンシューマに送られます。

## ▼ 登録をサポートするプロデューサを作成する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」からポータルサーバーを選択します。
- 4 「WSRP」タブをクリックします。
- 5 「DN を選択」ドロップダウンメニューでいずれかの DN を選択し、「プロデューサ」タブをクリックします。  
「WSRP プロデューサ」テーブルに作成済みのすべてのプロデューサが表示されます。

---

注 - Sun Java System Identity Server に組織が作成されます。ポートレットの利用度に基づいて組織またはサブ組織の DN を選択します。

---

- 6 「新規」をクリックして、新しいプロデューサを作成します。
- 7 プロデューサを識別する名前を入力します。
- 8 「登録」の「必須」を選択します。
- 9 「inband 登録」の「サポートする」を選択します。
- 10 登録プロパティを追加するには、「行を追加」をクリックします。値を入力します。登録プロパティの名前と説明を入力します。

---

注 - 登録プロパティとは、コンシューマを特定のプロデューサに登録するときにコンシューマから取得される詳細情報です。コンシューマによって入力された登録プロパティは、登録検証クラスを介して検証可能です。

---

- 11 コンシューマが電話の呼び出しや電子メールなど out-of-band 通信を介して詳細情報を提供する場合、「out-of-band 登録」の「サポートする」を選択します。

- 12 「次へ」をクリックします。  
「確認」画面に入力した詳細情報が表示されます。詳細情報を確認します。「戻る」をクリックすると、入力済みの詳細情報を変更できます。
- 13 「完了」をクリックします。

参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin create-producer
```

## 登録をサポートしないプロデューサの作成

登録を必要としないプロデューサに関しては、コンシューマは out-of-band 通信を介した情報の入力または取得を行う必要はありません。この場合、コンシューマはプロデューサによって提供されたポートレットをカスタマイズ (編集) することはできません。登録をサポートしないプロデューサは、読み取り専用のポータルをコンシューマに提供します。

### ▼ 登録をサポートしないプロデューサを作成する

- 1 **Portal Server 管理コンソールにログインします。**
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」からポータルサーバーを選択します。
- 4 「WSRP」タブをクリックします。
- 5 **DN**を選択します。  
「設定済みのプロデューサ」テーブルに、すでに設定済みのすべてのプロデューサが表示されます。
- 6 「新規」をクリックします。
- 7 プロデューサの名前を入力します。
- 8 「登録」の「不要」を選択します。
- 9 「完了」をクリックします。

参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin create-producer
```

## WSRP プロデューサプロパティの有効化と編集

プロデューサを無効にすることも可能です。ただし、無効にされたプロデューサに登録されたコンシューマはいずれも、そのプロデューサによって提供されるポートレットにアクセスできなくなります。

### ▼ プロデューサのプロパティを有効化および編集する

- 1 「プロデューサ」タブでプロデューサ名のリンクをクリックします。  
「プロパティの編集」画面が表示されます。この画面には WSDL (Web Services Definition Language) URL が表示されます。WSDL URL は、特定のプロデューサに固有の URL であり、コンシューマがプロデューサにアクセスする際に使用します。
- 2 1つ以上の発行済みポートレットをプロデューサに追加します。

---

注-プロデューサは少なくとも1つの発行済みポートレットを有効にする必要があります。画面には、プロデューサが作成されているポータルに関連付けられた発行済みポートレットがすべて表示されます。

---

- 3 ポートレットを選択し、「追加」をクリックします。
- 4 必要に応じて「登録検証クラス」フィールドを編集します。  
Registration Validator が、コンシューマによって入力された登録プロパティの検証に使用されます。必要に応じて、このクラスをカスタマイズすることも可能です。
- 5 「保存」をクリックします。これで、画面上の「有効」チェックボックスを編集できます。「有効」を選択し、「保存」をクリックします。

---

注-プロデューサのその他のプロパティを編集することもできます。

---

### 参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin set-attribute
```

## 登録検証クラスのカスタマイズ

登録検証クラスはカスタマイズ可能です。このクラスを使用すると、登録プロパティを扱うことができます。たとえば、顧客の郵便番号の検証などです。登録検証は、WSRP プロデューサの登録検証に使用する SPI です。検証クラスのカスタマイズ

ズの詳細については、<http://portal/portal/javadocs/> を参照してください。また、『Sun Java System Portal Server 7.2 Developer's Guide』の「WSRP: Validating Registration Data」も参照できます。

## 登録ハンドルの生成

登録をサポートするプロデューサでは、特定のコンシューマに対して登録ハンドルを生成する必要があります。登録ハンドルの生成後、out-of-band 通信を介してプロデューサに登録するためにコンシューマと通信する必要があります。プロデューサへの登録時に、コンシューマは登録ハンドルを入力する必要があります。

### ▼ 登録ハンドルを生成する

- 1 「コンシューマ登録」タブをクリックします。

特定のプロデューサにすでに登録されているすべてのコンシューマが画面に表示されます。

- 2 「新規」をクリックします。

- 3 名前、状態、コンシューマエージェント、メソッドなど詳細情報を入力します。

コンシューマ名

コンシューマを識別する一意の名前。

状態

有効または無効にすることができます。

コンシューマエージェント

コンシューマのベンダーの名前とバージョンを指定します。コンシューマエージェント名は `ProductName.MajorVersion.MinorVersion` の形式にしてください。ProductName はコンシューマが該当の配備にインストールした製品を識別します。majorVersion と minorVersion はベンダーが定義した製品バージョンの表示です。この文字列には、製品やコンシューマが提供する任意の文字や単語を追加できます。

メソッド

コンシューマが、get メソッドを持つフォームを含む HTML マークアップをサポートする形式でポートレット URL を実装しているかどうかを指定します。

- 4 「次へ」をクリックします。

プロデューサの作成時に指定する登録プロパティの値が画面に表示されます。

- 5 値を入力し、「次へ」をクリックします。「完了」をクリックします。

# コンシューマの管理

ここでは、コンシューマ側で実行する必要がある操作について説明します。

この章では、次の内容について説明します。

- 83 ページの「設定済みプロデューサの追加」
- 84 ページの「ID 伝播機構」
- 86 ページの「Web サービス SSO ポートレットを使用するユーザートークンプロフィールの作成」
- 86 ページの「ダイジェストパスワードの設定」
- 86 ページの「Web サービス SSO ポートレットを使用するユーザートークンプロフィールの作成」
- 87 ページの「サービスの説明の更新」
- 88 ページの「ユーザーカテゴリとロールのマッピング」
- 89 ページの「コンシューマ属性のマッピング」
- 89 ページの「プロキシの設定」

## 設定済みプロデューサの追加

プロデューサによって提供されたポートレットと通信するには、コンシューマは設定済みプロデューサを追加する必要があります。プロデューサが登録を必要とする場合は、次の方法を使用して設定済みプロデューサを追加します。

- 登録プロパティ値の入力 (in-band 登録)
- 登録ハンドルの入力 (out-of-band 登録)

プロデューサが登録を必要としない場合は、設定済みプロデューサの追加時にコンシューマは詳細情報を入力する必要はありません。

### ▼ 設定済みプロデューサを追加する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」からポータルサーバーを選択します。
- 4 「WSRP」タブをクリックします。
- 5 **DN**を選択し、「新規」をクリックします。

- 6 設定済みプロデューサーの名前を入力します。ID 伝播機構を選択します。デフォルトでは「なし」が選択されています。

---

注-ID 伝播機構によって、コンシューマポータルユーザーは自らの資格をプロデューサーポータルに示すことができます。これは、ユーザーが ID をコンシューマポータルからプロデューサーポータルに連携させることができる機構です。

---

- 7 **WSDL URL** を入力し、「次へ」をクリックします。
- 8 プロデューサーが登録を必要とする場合は、2つの方法でプロデューサーを登録できます。すなわち、登録プロパティ値を入力する方法 (**in-band** 登録) と登録ハンドルを入力する方法 (**out-of-band** 登録) です。「次へ」をクリックします。
- 9 手順7で1番目の方法を選択した場合は、登録プロパティ値を入力し、「次へ」をクリックします。2番目の方法を選択した場合は、**out-of-band** 通信を介して取得した登録ハンドルを入力し、「次へ」をクリックします。
- 10 詳細情報を確認し、「完了」をクリックします。

#### 参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin create-configured-producer
```

## ID 伝播機構

ID 伝播は、WSRP コンシューマがユーザーの ID を WSRP プロデューサー Web サービスに提供するために使用する機構です。これは、ユーザーがコンシューマとプロデューサーの間で ID を連携させるための連携機構です。連携に成功すると、コンシューマポータルはユーザー ID をプロデューサーポータルに伝播します。WSRP プロデューサーは、コンシューマからユーザー資格を受け取ると、資格を検証し、指定されたユーザーコンテキスト内のリソースへのアクセスを許可または拒否します。

ユーザーはポータルごとに2つの ID を持ちます。すなわち、1つはプロデューサーポータル用で、もう1つはコンシューマポータル用です。ユーザーは、提供された ID 伝播機構を使用して ID を連携させます。これによって、コンシューマポータルとプロデューサーポータルに対する機構にシングルサインオンが提供されます。ユーザーがコンシューマポータルを介してポータルにログインするときには、ユーザーはプロデューサーポータルに直接ログインするときに取得する内容を取得します。ユーザーがプロデューサーポータルにログインするときには、ユーザーは連携された ID を使用して変更を行うことができます。

Sun Java System WSRP プロデューサーは、次の ID 伝播をサポートします。

- SSO トークン: プロデューサポータルとコンシューマポータルの両方が同じ Access Manager インスタンスに接続されている場合に選択します。通常、プロデューサポータルとコンシューマポータルの両方が同じ組織内に配備されている構成で推奨されます。
- WSS UsernameToken プロファイル (ユーザー名のみ): ユーザー名が WS Security ヘッダーとしてコンシューマポータルからプロデューサポータルに伝播される WSS 仕様を使用します。
- WSS UsernameToken プロファイル (PasswordDigest 付き): WS Security ヘッダーが、プロデューサにおけるターゲットとされるユーザー ID をパスワードと共に Digest 形式で送信します。
- WSS UsernameToken プロファイル (PasswordText 付き): WS Security ヘッダーが、プロデューサにおけるターゲットとされるユーザー ID をパスワードと共に Text 形式で送信します。

上記のうち下の3つのオプションでは、OASIS WSS UsernameToken プロファイル仕様が実装されます。この仕様は、UsernameToken を Web サービスで使用方法を記述しています。WSS 仕様は、ユーザー名によって要求者を識別することによって、またオプションでパスワードを使用して ID を Web サービスプロデューサに対して認証することによって、Web サービスコンシューマがユーザー名トークンをどのように提供できるかを記述しています。

---

注 - 多くのポータルベンダーは、OASIS WSS UsernameToken プロファイル仕様をサポートおよび実装しています。相互運用性が必要とされる場合には、これら3つのオプションのいずれかを使用します。

---

Portal Server では ID 伝播機構に2つのレベルが存在します。まず、コンシューマポータルの管理者は、プロデューサポータルが上記で指定された ID 伝播機構のいずれかをサポートすることを発見します。管理者は、ユーザーに ID の送信を許可することができます。Portal Server コンシューマは、前述した ID 伝播機構のすべてをサポートします。

コンシューマの作成後、管理者はコンシューマがサポートする ID 伝播機構に基づいてリモートチャネルを作成する必要があります。チャネルがユーザーデスクトップで使用可能になると、ID 伝播を受け入れる準備が整います。

ID 伝播機構はプロデューサで自動的に設定されます。この機構は、Sun SSO、OASIS UsernameToken プロファイル、ID 伝播なしのモードの順に認証をチェックします。

## ダイジェストパスワードの設定

新しいユーザーのみが、`configuration` コマンドを実行して LDAP パスワードをプレーンテキストに格納したあとにダイジェストパスワード機能を使用できます。

コンシューマの作成には、ユーザー ID 伝播機構に対して WSSO UsernameToken プロファイル (PasswordDigest 付き) オプションの選択を含めるようにしてください。

Web サービス SSO ポートレットを編集して、適切な Web サービス URL (プロデューサ) を選択し、新しいユーザー名とパスワードを提供する必要があります。

### ▼ ダイジェストパスワードの受け入れを設定する

ダイジェストパスワードを受け入れるように Sun Java System WSRP プロデューサを設定するには、次の手順に従います。

- 1 コマンド `/opt/SUNWdsee/ds6/bin/dscfg set-server-prop pwd-storage-scheme:CLEAR` を実行して、プレーンテキストパスワードが格納されるように、**Directory Server** のパスワード格納方式を変更します。

---

注 - Directory Server のデフォルトのインストール場所が `/opt/SUNWdsee` であることを想定しています。

---

- 2 **UsernameToken** プロファイル (PasswordDigest 付き) を使用できるように、**AM** コンソールで新しいユーザーを作成します。

### 参考 推奨事項

- WSS UsernameToken プロファイル (PasswordDigest 付き) を使用する場合、パスワードがプレーンテキストで送信されるため、プロデューサポータルとコンシューマポータル間の通信をセキュリティー保護するようにしてください。
- 同じプロデューサ URL を指す2つの異なるコンシューマは、同じ種類の ID 伝播機構を使用するようにしてください。

## Web サービス SSO ポートレットを使用するユーザートークンプロファイルの作成

ユーザーが ID 伝播機構を使用する場合にユーザーの資格を認証するためのユーザートークンプロファイルを作成することができます。プロデューサが提供する特定の Web サービスに対するユーザー名とパスワードを定義できます。

## ▼ Web サービス SSO ポートレットを使用するユーザー資格を提供する

- 1 Portal Server デスクトップにログインします。
- 2 「Web サービス SSO ポートレット」で、「編集」ボタンをクリックします。
- 3 「新しいユーザートークンプロファイルを作成」セクションで、ユーザートークンプロファイルを作成する「Web サービスの URL」を選択します。
- 4 ユーザー名とパスワードを入力します。「追加」をクリックします。  
既存のユーザートークンプロファイルを編集および削除することも可能です。

## サービスの説明の更新

コンシューマによるプロデューサの設定後には、その後のプロデューサに対する変更をすべて更新するように、「サービスの説明の更新」オプションを使用します。たとえば、新しいポートレットの追加や、登録後の登録プロパティの変更などです。

## ▼ サービスの説明を更新する

- 1 Portal Server 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」からポータルサーバーを選択します。
- 4 「WSRP」タブをクリックします。
- 5 DN(識別名)を選択します。
- 6 設定済みプロデューサのリンクをクリックします。
- 7 「設定済みプロデューサを編集」画面で、「サービスの説明の更新」をクリックします。

### 参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin update-configured-producer-service-description
```

## ユーザーカテゴリとロールのマッピング

WSRP はユーザーカテゴリのコンセプトをサポートしています。これは、プロデューサのサービスの説明に含まれます。ユーザーカテゴリをロールにマッピングすると、ユーザーはコンシューマポータルで定義されているロールをポートレットで定義されているロールにマッピングすることができます。Sun Java System Portal Server は Java System Access Manager のロールをポートレットのロールにマッピングします。これらのロールを、対応する WSRP ユーザーカテゴリにマッピングすることができます。

たとえば、次のような作業を行えます。

- 88 ページの「ポートレットでロールを作成する」
- 89 ページの「ユーザーカテゴリをロールにマッピングする」

ロールの定義は、ポートレットの配備中に行うことができます。

---

注-ポートレットで定義されたロールは、プロデューサの Access Manger 内に存在しなければいけません。

---

### ▼ ポートレットでロールを作成する

次の作業では、Sun Java System Access Manager の amconsole とポートレットにロールが作成されます。

- 1 Access Manager コンソールにログインします。
- 2 ロールを作成し、そのロールにユーザーを追加します。
- 3 ポートレットアプリケーションの webxml に、次のコードを追加します。

```
<security-role>
<role-name>PS_TEST_DEVELOPER_ROLE</role-name>
</security-role>
```

- 4 ポータルの portlet.xml に次の行を追加します。

```
<security-role-ref>
<role-name>PS_TEST_DEVELOPER_ROLE</role-name>
<role-link>PS_TEST_DEVELOPER_ROLE</role-link>
</security-role-ref>
```

- 5 ポートレットアプリケーションの war ファイルを作成します。

- 6 次のエントリを含むロールファイルを作成します。

```
cn\=AM_TEST_DEVELOPER_ROLE,o\=DeveloperSample,dc\=india,dc\=sun,dc\=com=PS_TEST_DEVELOPER_ROLE
```

- 7 次のコマンドを使用して、ポートレットを配備します。

```
/opt/SUNWportal/bin/psadmin deploy-portlet -u amadmin -f ps_password -d "o=DeveloperSample,dc=india,dc=sun,dc=com" -p portal1 -i stockprice-8080 --rolesfile rolesfile TestPortlet.war
```

#### 参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin deploy-portlet
```

### ▼ ユーザーカテゴリをロールにマッピングする

ユーザーカテゴリをロールにマッピングするには、次の手順に従います。

- 1 「コンシューマ」タブでプロデューサ名のリンクをクリックします。  
「設定済みプロデューサを編集」画面に次の内容が表示されます。「ユーザーカテゴリ」：プロデューサポートレット内のロール。「ローカルロール」：コンシューマの Sun Java System Access Manager で定義されているロール。
- 2 「ユーザーカテゴリとロールのマッピング」セクションで、コンシューマで定義されているロールにユーザーカテゴリをマッピングし、「了解」をクリックします。

## コンシューマ属性のマッピング

Sun Java System Portal Server の WSRP コンシューマの実装は、Sun Java System Directory Server 上のユーザーエントリに格納されている共通ユーザー属性を、WSRP 仕様が要求するユーザー属性の標準セットにマッピングします。

コンシューマポートレットが LDAP スキーマで指定されていない属性を使用する場合は、それらの属性を格納するカスタムオブジェクトクラスを作成し、このオブジェクトクラスをユーザーエントリに追加します。属性の作成後に、Sun Java System Access Manager 管理コンソールを使用して、LDAP 属性を対応する WSRP 属性にマッピングします。

## プロキシの設定

コンシューマおよび Web コンテナ XML ファイルには、プロキシを設定する必要があります。

たとえば、次のような作業を行えます。

- 90 ページの「共通エージェントコンテナ内のコンシューマのプロキシを設定する」
- 90 ページの「Web コンテナ XML ファイルを設定する」

#### ▼ 共通エージェントコンテナ内のコンシューマのプロキシを設定する

- 1 `./cacaoadm get-param java-flags` を実行します。
- 2 値をコピーし、`./cacaoadm set-param java-flags` にペーストします。
- 3 次の内容をコマンドに追加します。`-Dhttp.proxyHost=webcache.canada.sun.com -Dhttp.proxyPort=8080 -Dhttp.proxyUser=Proxyuser -Dhttp.proxyPassword=Password`
- 4 **Enter** キーを押します。
- 5 共通エージェントコンテナサーバーを再起動します。

#### ▼ Web コンテナ XML ファイルを設定する

- 1 次のファイルを編集します。  
`vi /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1/config/domain.xml`
- 2 次の JVM オプションを設定します。
  - `Dhttp.proxyHost`
  - `Dhttp.proxyPort`
  - `Dhttp.proxyUser`
  - `Dhttp.proxyPassword`

## WSRP プロデューサの管理

ここでは、Sun Java System Portal Server WSRP (Web Services for Remote Portlets) サービスの管理方法について説明します。WSRP プロデューサの管理作業は次のとおりです。

- 91 ページの「WSRP プロデューサを作成する」
- 91 ページの「WSRP プロデューサを編集する」
- 92 ページの「コンシューマ登録を作成する」
- 93 ページの「コンシューマ登録を編集する」

## ▼ WSRP プロデューサを作成する

WSRP プロデューサの作成には、次の内容を使用します。

- プロデューサインスタンスの名前 (ポータルサーバー全体で一意でなければならない)
- 登録が必要かどうか。「登録が必要」を選択した場合、すべての WSRP コンシューマは要求を出す前に、このプロデューサインスタンスに登録する必要があります。登録されていない WSRP コンシューマからの要求は拒否されます。
- in-band 登録がサポートされているかどうか。in-band 登録によって、WSRP コンシューマのプログラムでの登録が可能になります。一方、out-of-band 登録では、登録ハンドルへのアクセス権の設定および交換のために、WSRP コンシューマ管理者と WSRP プロデューサ管理者の間で手動による連絡 (電子メール、電話など) が必要です。

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」からポータルサーバーを選択します。
- 4 「WSRP」をクリックし、サブメニューから「プロデューサ」をクリックします。
- 5 「DN を選択」ドロップダウンメニューから任意の DN を選択します。
- 6 「WSRP プロデューサ」から「新規」をクリックしてウィザードを起動します。
- 7 指示に従って、指定したプロデューサを作成します。  
属性の詳細については、『Sun Java System Portal Server 7.2 Technical Reference』を参照してください。

参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin create-producer
```

## ▼ WSRP プロデューサを編集する

次の手順に従って、WSRP プロデューサを編集できます。

- 発行済みリストからポートレットを追加または削除します。
- 登録の要件を変更します。



注意- このオプションの変更は既存のプロデューサに対して行ってください。

- in-band 登録を有効または無効にします。
- 登録検証クラスを指定します。登録検証クラスは、WSRP プロデューサが WSRP コンシューマが送信した値を受諾できるかどうかを検証するために使用します。
- 新しい登録プロパティを追加します。プロパティの変更は、その後のプロデューサへのコンシューマの登録にすべて適用されます。

1 **Portal Server 管理コンソールにログインします。**

2 「ポータル」タブを選択します。

3 「ポータル」からポータルサーバーを選択します。

4 「WSRP」をクリックし、サブメニューから「プロデューサ」をクリックします。

5 「DN を選択」ドロップダウンメニューから任意の DN を選択します。

6 **WSRP** プロデューサを選択し、必要に応じて設定属性を変更します。

属性の詳細については、『Sun Java System Portal Server 7.2 Technical Reference』を参照してください。

7 「保存」をクリックして変更を記録します。

参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin set-attribute
```

## ▼ コンシューマ登録を作成する

各コンシューマ登録は、WSRP プロデューサとの関係を確立したりリモートの WSRP コンシューマを表します。サポートする WSRP プロデューサには、複数の WSRP コンシューマを登録できます。この登録機構によって、WSRP コンシューマは自身の機能を WSRP プロデューサに説明できます。

WSRP コンシューマは out-of-band で追加されます(電子メールや電話などによって)。コンシューマ登録を追加するときに入力される情報は、登録ハンドルを与えられる WSRP コンシューマの機能と一致する必要があります。コンシューマ登録を行うと、WSRP プロデューサは、WSRP コンシューマが WSRP プロデューサ上に作成する成果物(ポートレット設定など)をスコープできます。

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」からポータルサーバーを選択します。
- 4 「WSRP」をクリックし、サブメニューから「プロデューサ」をクリックします。
- 5 「DNを選択」ドロップダウンメニューから任意のDNを選択します。
- 6 WSRP プロデューサを選択し、「コンシューマ登録」を選択します。
- 7 「新規」をクリックしてウィザードを起動します。
- 8 指示に従って、指定したコンシューマ登録を作成します。  
属性の詳細については、『Sun Java System Portal Server 7.2 Technical Reference』を参照してください。

参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin create-consumer-registration
```

## ▼ コンシューマ登録を編集する

既存のコンシューマ登録を手動で編集できます。これは、WSRP コンシューマ側から in-band 登録によって行うことも可能です。out-of-band と in-band の登録を同時に使用することはできません。

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」からポータルサーバーを選択します。
- 4 「WSRP」をクリックし、サブメニューから「プロデューサ」をクリックします。
- 5 「DNを選択」ドロップダウンメニューから任意のDNを選択します。
- 6 プロデューサ、WSRP プロデューサ、「コンシューマ登録」の順に選択します。

- 7 コンシューマ登録を選択し、必要に応じて設定属性を変更します。  
属性の詳細については、『Sun Java System Portal Server 7.1 Technical Reference』を参照してください。
- 8 「保存」をクリックして変更を記録します。

## WSRP コンシューマの管理

ここでは、WSRP コンシューマを管理する作業について説明します。

- 94 ページの「設定済みプロデューサを追加する」
- 95 ページの「設定済みプロデューサを編集する」
- 95 ページの「コンシューマ名を指定する」
- 96 ページの「WSRP チャンネルの問題を解決する」

### ▼ 設定済みプロデューサを追加する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」からポータルサーバーを選択します。
- 4 「WSRP」をクリックし、サブメニューから「プロデューサ」をクリックします。
- 5 「DN を選択」ドロップダウンメニューから任意の DN を選択します。
- 6 「設定済みプロデューサ」の下の「新規」をクリックしてウィザードを起動します。
- 7 指示に従って、指定した設定済みプロデューサを作成します。  
属性の詳細については、『Sun Java System Portal Server 7.1 Technical Reference』を参照してください。

#### 参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin create-configured-producer
```

## ▼ 設定済みプロデューサを編集する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」からポータルサーバーを選択します。
- 4 「WSRP」をクリックし、サブメニューから「コンシューマ」をクリックします。
- 5 「DNを選択」ドロップダウンメニューから任意のDNを選択します。
- 6 設定済みプロデューサを選択し、必要に応じて設定属性を変更します。

---

注- 「サービスの説明の更新」オプションを使用して、プロデューサに対する変更をすべて更新します。87 ページの「サービスの説明の更新」を参照してください。

---

属性の詳細については、『Sun Java System Portal Server 7.1 Technical Reference』を参照してください。

- 7 「保存」をクリックして変更を記録します。

### 参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin set-attribute
```

## ▼ コンシューマ名を指定する

WSRP コンシューマは、登録作業中にコンシューマ名をプロデューサに送信します。ここでコンシューマ名として指定された値は、組織またはサブ組織レベルではかの値がコンシューマ名として指定されないかぎり、デフォルトとして使用されません。

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」からポータルサーバーを選択します。
- 4 「WSRP」をクリックし、サブメニューから「コンシューマ」をクリックします。
- 5 「DNを選択」ドロップダウンメニューから任意のDNを選択します。

- 6 「WSRP コンシューマ」の下の「編集」をクリックします。
- 7 コンシューマ名を指定します。
- 8 「了解」をクリックします。

参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin set-attribute
```

## ▼ WSRP チャンネルの問題を解決する

WSRP チャンネルにアクセスできない場合は、Derby が動作しているかどうかを確認してください。Derby が動作していない場合は、再起動します。Derby を再起動しても WSRP チャンネルにアクセスできない場合は、次の手順を実行して WSRP チャンネルにアクセスしてください。

- 1 **Application Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 左側のパネルの「リソース」をクリックします。
- 3 JDBC に移動して、「接続プール」をクリックします。
- 4 「WSRPDataSourcePool」をクリックします。  
右側のパネルに「接続プールの編集」ページが表示されます。
- 5 「必須」を選択して「接続の検証」を有効にしてから、「保存」をクリックします。
- 6 ポータルデスクトップを更新して WSRP チャンネルを表示します。

# Portal Server エンドユーザー動作の追跡の管理

---

この章では、Sun Java™ System Portal Server ユーザー動作の追跡方法について説明します。

この章で説明する内容は次のとおりです。

- 97 ページの「Portal Server ユーザー動作の追跡の概要」
- 99 ページの「Portal Server ユーザー動作の追跡のセットアップ」

## Portal Server ユーザー動作の追跡の概要

Portal Server ユーザー動作の追跡 (UBT) により、Portal Server アプリケーション上のエンドユーザー動作を追跡する手段が提供されます。ポータルデスクトップ上のユーザー操作は ubt ログファイルに収集されます。ubt ログファイルは、W3C 標準の拡張ログファイル形式で記録されます。このログファイルを元に、Portal Server コンソールまたは `psadmin generate-ubt-report` コマンドを使用して、さまざまなエンドユーザー動作の追跡レポートを作成できます。また、AWStats などのサードパーティーのツールを使用して、UBT レポートを生成することもできます。

UBTConfig.properties ファイルでも UBT を有効にすることができます。  
`/var/opt/SUNWportal/portals/portalID/config/UBTConfig.properties` で  
`com.sun.portal.ubt.enable=true` を設定します。

次の表は、UBT レポート、その説明、および有効なレポート形式の一覧です。

表 6-1 ユーザー動作の追跡レポート

レポート名	レポートの説明	レポートの形式
Portal ユーザー ID レポート	このレポートには、各ユーザーの最終ポータルアクセス時刻が表示されます。ユーザーは、アクセスしたサーバー、所属するドメイン、および相対 DN ごとにグループ化されます。	HTML または PDF
Portal ユーザーログイン率	このレポートには、ポータルへのログイン率が表示されます。	
Portal チャネル表示レポート	このレポートには、チャネルを表示中の各ユーザーが当該チャネルを表示した回数が表示されます。チャネルは、所属するコンテナごとにグループ化されます。	HTML または PDF
Portal コンテナのユーザーカスタマイズ	このレポートには、Portal コンテナのカスタマイズが表示されます。通常、コンテナのカスタマイズでは、デスクトップ上の「コンテンツ」、「レイアウト」、または「テーマ」の変更点を参照します。	HTML または PDF
Portal 要求率	このレポートには、一定期間における各最上位コンテナの 1 時間ごとの要求率が表示されません。最上位コンテナの要求をページ要求と見なすことができます。	HTML または PDF
Portal チャネルのユーザーカスタマイズ	このレポートには、各エンドユーザーがチャネル上で実行したアクションが表示されます。ユーザーは、アクセスしたコンテナ、およびアクションを実行したチャネルごとにグループ化されます。	HTML または PDF
Portlet アクションレポート	このレポートには、Portal でのポートレットアクション要求率が表示されます。	HTML または PDF

表 6-1 ユーザー動作の追跡レポート (続き)

レポート名	レポートの説明	レポートの形式
ポートレットレンダリングレポート	このレポートには、特定のウィンドウ状態中にポートレットがポートレットモードで表示される回数が表示されます。ウィンドウ「最小化」状態では、ポートレットはレンダリングされません。したがって、この状態での回数は表示されません。	HTML または PDF
Portal ユーザーログイン率レポート	このレポートには、ポータルへのログイン率が表示されます。	HTML または PDF

## Portal Server ユーザー動作の追跡のセットアップ

ここでは、ユーザー動作の追跡を有効にする方法とレポートの生成方法について説明します。

Portal Server 管理コンソールで次の作業を行うことができます。

- 99 ページの「ユーザー動作の追跡ログを有効にする」
- 100 ページの「ユーザー動作の追跡レポートを生成する」

### ▼ ユーザー動作の追跡ログを有効にする

デフォルトでは、Portal Server アプリケーション上の UBT ログは有効になっていません。

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「共通タスク」タブを選択します。
- 3 「レポートおよびログ」の下の「ポータル使用状況レポート」をクリックしてウィザードを起動します。
- 4 「ポータルを選択」ドロップダウンメニューでポータルインスタンスを選択し、「了解」をクリックします。  
「ユーザー動作の追跡」ページが表示されます。

- 5 「設定」サブメニューをクリックし、「共通プロパティ」の下の「UBT ログ」を有効にします。

共通プロパティ、ハンドラプロパティ、およびイベント設定の詳細については、『Sun Java System Portal Server 7.2 Technical Reference』を参照してください。

---

注-その他すべてのプロパティについては、UBTを動作させるのに適切なデフォルト値があらかじめ設定されています。Portal Server のすべてのインスタンスに対する変更を適用するには、「すべてのインスタンスに適用」ボタンをクリックします。一部のインスタンスの場合は、「選択したインスタンスに適用」ボタンをクリックします。

---

- 6 ポータルデスクトップにアクセスし、ユーザー動作の追跡ログファイルが生成されていることを確認します。

デフォルトでは、ユーザー動作の追跡ログは  
/PortalData-Dir/portals/PortalID/logs/instanceID/ubt.0.0.log ファイルに書き込まれます。

## ▼ ユーザー動作の追跡レポートを生成する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「共通タスク」タブを選択します。
- 3 「レポートおよびログ」の下の「ポータル使用状況レポート」をクリックしてウィザードを起動します。
- 4 「ポータルを選択」ドロップダウンメニューでポータルインスタンスを選択し、「了解」をクリックします。  
「ユーザー動作の追跡」ページが表示されます。
- 5 「レポート」サブメニューをクリックします。  
8種類のレポートが一覧表示されます。これらすべてのレポートをPDFまたはHTMLの形式で生成できます。詳細については、[表 6-1](#)を参照してください。

### 参考 同等の psadmin コマンド

```
psadmin generate-ubt-report
```

## Portal Server の動作の監視

---

この章では、Sun Java™ System Portal Server 監視の設定方法について説明します。

この章で説明する内容は次のとおりです。

- 101 ページの「Portal Server 監視について」
- 102 ページの「Portal Server 監視の設定」
- 103 ページの「Portal Server 監視データの収集」

### Portal Server 監視について

監視によって、ポータルサーバーに関する実行時リソース情報を記録できます。デスクトップ監視は、ポータルサーバーから受信した要求に基づいてコンテンツ、編集、プロセスタイプの情報を記録し続けます。また、ポータルサーバーのさまざまなチャンネルの各タイプの要求に対して、最短、最長、平均応答時間についての情報を記録します。

ポータルの動作の監視によって収集された情報は、より長い応答時間が必要なチャンネルを別のセカンダリタブに移動するか、キャッシュヒットに基づいてデスクトップチャンネルのタイムアウトプロパティを設定することによって、ポータルの応答時間を最適化するために役立ちます。

ポータルサーバーの Java 仮想マシン (JVM) は、デスクトップの監視データを収集します。監視情報は、Portal Server 管理コンソールで表示するか、psadmin 監視サブコマンドを使用してアクセスできます。『Sun Java System Portal Server 7.1 Command Line Reference』を参照してください。

監視には、Java Management Extensions (JMX™ テクノロジ) を使用し、ポータルサーバーデスクトップとポータルデスクトップチャンネルを示すポータルサーバーインスタンスの MBeansServer で Management Beans (MBeans) を登録します。各 MBean 属性は、各リソースに対して収集した監視データを示します。ポータル管理コンソールと psadmin 監視サブコマンドは、MBeans と通信し、ポータルサーバーインスタンスの監視データを収集し、表示します。

## Portal Server 監視の設定

監視は、

`/var/opt/SUNWportal/portals/portalID/config/instanceID/monitoring.properties` ファイルに保存された監視プロパティにアクセスして設定できます。監視はデフォルトで有効になっています。監視を無効にするには、`com.sun.portal.monitoring.MonitoringContext.monitoring.disable` プロパティを「true」に設定します。JVM が再起動すると、監視は無効になります。

ポータル管理コンソールで監視を有効または無効にすることもできます。

- 102 ページの「ポータル監視を有効または無効にする」
- 102 ページの「デスクトップ統計を表示する」
- 103 ページの「チャンネル統計を表示する」

### ▼ ポータル監視を有効または無効にする

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」でポータルサーバーを選択します。
- 4 「監視」タブをクリックします。
- 5 「設定」サブメニューをクリックします。
- 6 ポータルサーバーインスタンスを選択します。
- 7 「監視を有効」ボタンまたは「監視を無効」ボタンをクリックします。

### ▼ デスクトップ統計を表示する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」でポータルサーバーを選択します。
- 4 「監視」タブをクリックします。
- 5 サブメニューから「デスクトップ要求/応答統計」をクリックします。

## ▼ チャネル統計を表示する

- 1 Portal Server 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」でポータルサーバーを選択します。
- 4 「監視」タブをクリックします。
- 5 サブメニューの「チャネルアクション統計」をクリックします。
- 6 「DNを選択」ドロップダウンメニューで組織を選択します。
- 7 「サーバーインスタンス」ドロップダウンメニューからサーバーを選択します。

## Portal Server 監視データの収集

監視によって、デスクトップから受信する7種類のデータ要求を収集できます。どのタイプの要求も、要求タイプとしてタイプ `DesktopRequestStatistic` と名前 MBean プロパティを持つ MBean として表示されます。たとえば、`type=DesktopRequestStatistics,name=Content` 名前プロパティは、デスクトップコンテンツ要求統計を特定するために役立ちます。

## デスクトップ統計

次のリストは7種類の要求を説明しています。

Content	デスクトップがコンテンツ要求を正常に処理した回数と、それにかかった時間。
Edit	デスクトップが編集要求を正常に処理した回数と、それにかかった時間。
Exception	要求処理中のいくつかの例外によって、デスクトップが要求を処理できなかった回数。例外情報は、ポータルサーバーログファイルに記録されます。
LocalAuth	デスクトップがローカル認証要求に応答した回数。
Logout	ユーザーがポータルサーバーからログアウトした回数と、ログアウトにかかった時間。
PreLogin	デスクトップが PreLogin 要求に応答した回数。

**Process** デスクトップが編集要求を処理した回数と、それにかかった時間。

チャンネル統計は、ポータル管理コンソールから表示できます。

## チャンネル統計

各タイプのチャンネル動作は、チャンネルを特定する追加の名前プロパティーとともに、タイプ `ChannelActionStatistic` の MBean として示されます。完全な MBean 名を知るには、コマンド `psadmin get-monitoring-mbean-names` を使用します。

ポータルデスクトップは、タイムアウトチャンネルプロパティーに基づいてキャッシュされたチャンネルのコンテンツ表示を表示します。

次のリストは、各デスクトップチャンネルで監視されるチャンネル動作のタイプを説明しています。

**Content** チャンネルプロバイダがコンテンツ表示を正常に生成した回数とその応答時間。

**Edit** チャンネルプロバイダが編集表示を正常に行った回数とその応答時間。

**Process** チャンネルプロバイダが編集表示を処理した回数。

チャンネル統計は、ポータル管理コンソールから表示できます。

## Portal Server のロギングの管理

---

この章では、Sun Java™ System Portal Server ログ情報の取得方法について説明します。

この章で説明する内容は次のとおりです。

- 105 ページの「Portal Server のロギングについて」
- 105 ページの「Portal Server のロギングの管理」

### Portal Server のロギングについて

Portal Server は、すべてのコンポーネントのロギングをサポートします。ログとログ設定はすべてのポータルコンポーネントで同一です。簡単なものから詳細なものまで7つの標準のログレベルがあります。ログは、異なるファイルや受信端末装置に配信でき、1つのファイル、または各コンポーネントに1つずつの複数のファイルで構成できます。

ログレベルは、モジュールとサブモジュールごとに設定でき、ログは各コンポーネント内の各モジュールとサブモジュールに対して個別のファイルに配信できます。

### Portal Server のロギングの管理

次のコンポーネントを使用して、Portal Server のロギングを設定および管理できます。

- ログビューア
- 共通ロガーの設定
- 個別ロガーの設定

ポータルのロギングはポータル管理コンソールから管理できます。

- 106 ページの「ログビューアを管理する」
- 107 ページの「ログ表示をカスタマイズする」

- 107 ページの「共通ロガーの設定を管理する」
- 109 ページの「個別ロガーの設定を管理する」

## ▼ ログビューアを管理する

- 1 32 ページの「管理コンソールにログインする」の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」でポータルサーバーを選択します。
- 4 「ロギング」をクリックして、サブメニューから「ログビューア」をクリックします。
- 5 「インスタンス名」ドロップダウンメニューからポータルインスタンスを選択します。  
ログビューアの「検索条件」および「検索結果」ページが表示されます。

- 6 「検索条件」の値を入力して、「検索」をクリックします。

次の検索オプションが使用できます。

ログファイル名      ログコンテンツを含むファイル名。

ログレベル            選択したレベルかそれ以上のレベルのメッセージがログに表示されます。使用可能なレベルは、SEVERE、警告、情報、設定、FINE、FINER、およびFINESTです。デフォルトレベルは、情報です。このため、ログには、情報、警告、またはSEVEREレベルのメッセージが含まれます。

表示したいメッセージがログに必ず表示されるように、「個別ロガーの設定」ページで最初に適切なログレベルを設定します。

タイムスタンプ      特定の期間のログメッセージを表示します。

100 の最新のログエントリが表示できます。または「開始日」および「終了日」テキストボックスに期間を入力します。

「範囲」を選択した場合、次のように設定します。

- 「開始日」と「終了日」の両方の値が必要です。
- 「開始日」の値は「終了日」より遅い日付にできません。
- 「終了日」の値は今日より遅い日付にできません。

- 「開始日時刻」と「終了日時刻」の値はオプションです。「開始日時刻」が指定されている場合、「終了日時刻」を指定する必要があります。時刻の値は、構文を hh:mm:ss.SSS の形式にする必要があります。SSS はミリ秒を示します。たとえば、18:20:10.000 のようになります。

#### 参考 同等の psadmin コマンド

『Sun Java System Portal Server 7.2 Command-Line Reference』の「psadmin set-logger」

## ▼ ログ表示をカスタマイズする

次の手順で「検索結果」ページをカスタマイズできます。

- 1 32 ページの「管理コンソールにログインする」の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」の下の **Portal Server** を選択します。
- 4 「ロギング」をクリックしてから、「インスタンス名」ドロップダウンメニューでポータルサーバーを選択します。
- 5 「ログビューアの結果」テーブルで「タイムスタンプ」列ヘッダをクリックし、メッセージをソートします。
- 6 詳細リンクをクリックして、新しいウィンドウに書式化したログメッセージを表示します。

## ▼ 共通ロガーの設定を管理する

- 1 32 ページの「管理コンソールにログインする」の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」の下の **Portal Server** を選択します。
- 4 「ロギング」をクリックし、サブメニューから「共通ロガーの設定」をクリックします。

- 5 「インスタンス名」ドロップダウンメニューからポータルインスタンスを選択します。
- 6 必要に応じて設定属性を変更します。  
次のオプションを使用できます。

## 一般

ログレベル — ログレベル設定を選択して、ログファイルに表示する情報を選択できます。

ログレベルの選択肢は次のとおりです。

- Severe - ユーザーに表示されるエラー
- 警告 - ユーザー警告
- 情報 - ユーザーに対する情報
- 設定 - 開発者に対する静的な設定情報
- Fine - 基本的なトレース情報
- Finer - 詳細なトレース情報
- Finest - 完全なトレース情報
- Off - ロギングをオフにする場合に使用できる
- すべて - すべてのメッセージをログ記録することを意味します

## ファイルハンドラのプロパティー

- 制限 — ログファイルのサイズをバイト数で指定します。ログファイルのサイズがこの値を超えると、ログファイルはファイル数に応じてローテーションされます。デフォルト値は5Mバイトです。
- ファイル数 — ログファイルがバイトで指定されたサイズに達すると、世代番号(ファイルパターンの %g) が1つ増えた新しい空のファイルが作成されます。デフォルト値は2です。ログファイルのローテーションをオフにするには、値を0に設定します。
- 追加 — 新しいメッセージを既存のファイルに追加するかどうかを指定します。デフォルトは true です。
- フィルター — ポータルログのような宛先やカスタムログハンドラによって指定された宛先に送られるログ記録をフィルタするために、カスタムログフィルタプラグインを使用できます。カスタムフィルタは、インタフェース `java.util.logging.Filter` を実装

する必要があります。フィールドにフィルタの絶対クラス名を入力します。また、アプリケーションサーバークラスパスにフィルタクラスを含めて、フィルタがサーバーの起動中にインストールされるようにします。

## その他

- カスタムハンドラー ポータルログ以外の宛先にログを送るために、カスタムログハンドラーに接続できます。カスタムハンドラーはクラス `java.util.logging.Handler` を拡張する必要があります (JSR 047 準拠 API)。フィールドにハンドラーの絶対クラス名を入力します。また、アプリケーションサーバークラスパスにハンドラークラスを含めて、ハンドラーがサーバーの起動中にインストールされるようにします。複数のハンドラーを指定できます。複数の名前を区切るには、コンマを使用します。
  - Web コンテナログファイルを使用 — ポータルロギング管理を無効にして、すべてのログを Web コンテナログファイルに配信するには、「はい」を選択し、それ以外の場合は「いいえ」を選択します。デフォルトは、「いいえ」です。
- 7 「選択したインスタンスに適用」または「すべてのインスタンスに適用」をクリックして、変更を記録します。

## 参考 同等の psadmin コマンド

『Sun Java System Portal Server 7.2 Command-Line Reference』の「psadmin set-logger」

## ▼ 個別ロガーの設定を管理する

- 1 32 ページの「管理コンソールにログインする」の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」から **Portal Server** を選択します。

- 4 「ロギング」をクリックし、サブメニューから「個別ロガーの設定」をクリックします。
- 5 「インスタンス名」ドロップダウンメニューからポータルインスタンスを選択します。
- 6 必要に応じて設定属性を変更します。  
次のオプションを使用できます。

#### ロガー設定

- ロガー名 - ロガー名をクリックして、ロガーの設定詳細を表示します。
- ログレベル - ログレベル設定を選択してロガーのログファイルに表示する情報を選択するか、親ロガーからログレベルを継承できます。たとえば、`debug.com.sun.portal` のログレベルが「情報」で、`debug.com.sun.portal.desktop` のログレベルが「親ロガーのレベルを継承」である場合、この値も「情報」になります。
- ログファイルのマージ方針 - ロガーに対して、親と同じログファイルにメッセージをログ記録するか(「親ログファイルにログを記録」)、ログを別のファイルに記録するか(「個別ログファイルにログを記録」)を選択できます。
- 親ハンドラ - ロガーに対して、「ログファイルのマージ方針」が「個別ログファイルにログを記録」に設定されている場合、個別ログファイルと親ログファイルの両方にメッセージをログ記録するか(「親ハンドラを継承する」)、個別のファイルのみにログ記録するか(「親ハンドラを継承しない」)を選択できます。
- 親ハンドラ - ロガーに対して、「ログファイルのマージ方針」が「個別ログファイルにログを記録」に設定されている場合、個別ログファイルと親ログファイルの両方にメッセージをログ記録するか(「親ハンドラを継承する」)、個別のファイルのみにログ記録するか(「親ハンドラを継承しない」)を選択できます。
- スタックトレース - ロガーに対して、スタックトレースをすべてのレベルで記録するか(「すべてのレベルのスタックトレースを出力」)、警告ログレベルまでのみを記録するか(「警告レベルまでスタックトレースを出力」)を選択できます。

---

注- 「ログファイルのマージ方針」の値が「親ログファイルにログを記録」の場合、「親ハンドラ」と「スタックトレース」の値は無視されます。「ログファイルのマージ方針」の値が「個別ログファイルにログを記録」で、「親ハンドラ」の値が「親ハンドラを継承する」の場合、「すべてのレベルのスタックトレースを出力」という「スタックトレース」の値は無効です。

---

- 7 「選択したインスタンスに適用」または「すべてのインスタンスに適用」をクリックして、変更を記録します。

参考 同等の `psadmin` コマンド

『Sun Java System Portal Server 7.2 Command-Line Reference』の「`psadmin set-logger`」



## Portal Server コミュニティの管理

---

この章では、コミュニティとそのユーザーの管理について説明します。この機能は、コミュニティ情報ポートレットを通してコミュニティ所有者に提供されます。システム管理者には、Portal Server 管理コンソールおよび `psadmin` コマンド行インタフェースを通して同様の機能が提供されます。コミュニティを管理するためのコマンド行インタフェースについては、『*Technical Note: Managing Sun Java System Portal Server 7.2 Update 1 Communities*』を参照してください。

---

注-ポータルにコミュニティ属性を設定する必要がある場合は、リンク [http://docsview.sfbay/app/docs/doc/820-0043/gdsbd?1=en\[amp \]a=view](http://docsview.sfbay/app/docs/doc/820-0043/gdsbd?1=en[amp ]a=view) 内の「*To Add the Community Sample*」で説明されている手順に従ってください。

---

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 113 ページの「Portal Server コミュニティの概要」
- 118 ページの「コミュニティテンプレートについて」
- 126 ページの「Portal Server コミュニティの管理」

## Portal Server コミュニティの概要

この節の内容は、次のとおりです。

- 114 ページの「アクセス制御の管理」
- 115 ページの「メンバーシップの管理」
- 117 ページの「コミュニティ状態の管理」
- 118 ページの「カテゴリの管理」

## アクセス制御の管理

「コミュニティ」の概念は、広く公開されていてすべての人が情報にアクセスできる、というように一般的には理解されていますが、コミュニティの周辺にアクセス制御を確立することへのニーズは大きなものがあります。企業ベースのコミュニティの場合のように、特定のコミュニティへの参加に制限を設けることが必要な場合があります。また、このようなコミュニティに投稿されるデータについて、非公開でセキュリティー保護された状態を維持することが必要な場合もあります。この節では、使用可能なアクセス制御設定と、それらの設定の一般的な構成について説明します。

### 使用可能な設定

次に示すコミュニティの3つの側面には、コミュニティの要件に応じてアクセス制御を設定することができます。

#### メンバーシップアクセス

- 制限なしのメンバーシップ (公開): メンバーシップ制限のないコミュニティには、すべての人が自由に参加できます。
- 制限付きメンバーシップ (非公開): メンバーシップ制限付きのコミュニティでは、ユーザーは(コミュニティの所有者に) 参加要求を出し、メンバーシップの付与または拒否の判断を受ける必要があります。また、1人以上のユーザーを所有者がコミュニティに招待、または明示的に追加することもできます。

#### コミュニティリスト

- リスト対象 (公開): コミュニティーはコミュニティカテゴリに登録され、すべての人が参照および検索できます。
- リスト対象外 (非公開): コミュニティーは検索できず、コミュニティカテゴリで参照されません。

#### セキュリティー保護コンテンツ

- セキュリティー保護なし (公開): コミュニティーに投稿されるデータは、メンバー以外にも検索およびアクセスされる可能性があります。

- セキュリティー保護 (非公開): コミュニティーに投稿されるすべてのデータは厳重に保護され、メンバーのみが検索およびアクセス可能です。

## 一般的な構成

コミュニティ所有者またはシステム管理者は、コミュニティの作成中または作成後に、アクセス制御のさまざまな側面を制御できます。114 ページの「[使用可能な設定](#)」で説明されている各設定は互いに独立しています。ある設定に対して何らかのオプションを選択しても、ほかの設定の動作または選択には影響が及びません。たとえば、(制限なしの)メンバーシップを持つコミュニティをリスト対象外にしたり、そのコンテンツをセキュリティ保護したりすることができます。コミュニティの所有者は、コミュニティの性質に基づいてアクセス制御をカスタマイズできます。ここでは、最も一般的な2つの構成について説明します。

## 公開コミュニティ

公開コミュニティは、すべての人が自由に参加したり、メンバーシップを取得したりできます。コミュニティはコミュニティカテゴリにリストされ、すべての人が参照および検索できます。コミュニティに投稿されたコンテンツも、すべての人が検索およびアクセス可能です。

以前のリリースの Portal Server ソフトウェアで作成されたコミュニティは公開コミュニティとみなされ、システムをこのリリースの Portal Server ソフトウェアにアップグレードしたとき、公開コミュニティと同様に扱われます。

## 非公開コミュニティ

非公開コミュニティは、セキュリティ保護が最も強固なコミュニティです。非公開コミュニティはコミュニティカテゴリに表示されないため、参照も検索もできません。非公開コミュニティは、リスト対象外で、セキュリティ保護され、制限付きのメンバーシップを持つコミュニティです。コミュニティ所有者はユーザーをコミュニティに招待、または手動で追加できます。コミュニティのコンテンツはメンバー以外から保護され、メンバー以外は投稿されたコンテンツを表示または検索できません。

## メンバーシップの管理

ユーザーにはコミュニティ内で複数の異なるロールを割り当てることができます。2つの主要ロールは OWNER (所有者) と MEMBER (メンバー) です。MEMBER ロールのユーザーは、通常のメンバー権限のすべてを持ちます。そのユーザーに OWNER ロールをさらに割り当てた場合、ユーザーにはコミュニティを管理する

ための追加権限も付与されます。権限およびユーザーに表示されるコンテンツは、ユーザーに割り当てられたロールのそれぞれに対応するディスプレイプロファイルをマージすることによって制御されます。各コミュニティロールのディスプレイプロファイルテンプレートを設計する際、システム管理者は細心の注意を払う必要があります。詳細については、コミュニティテンプレートに関する章を参照してください。

メンバー以外のユーザーに対しては VISITOR ロールが暗黙的に想定され、結果として、メンバー以外のユーザーが特定のコミュニティページを訪れるたびに visitor.xml がマージされます。ユーザーが明示的ロールを持っていない、または BANNED、INVITED、PENDING、REJECTED などの一時的ロールを持っているとき、そのユーザーはメンバーでないとみなされます。

## 制限付きメンバーシップのワークフロー

非公開またはメンバーシップ制限付きのコミュニティにユーザーが参加するためには、そのコミュニティに興味のあるユーザーがメンバーシップ要求を出す必要があります。要求を受けたコミュニティ所有者は、その要求を承認または拒否します。要求が承認されると、ユーザーはただちにコミュニティのメンバーになります。一方、要求が拒否されたユーザーは、ポータルにログインしたときに拒否の通知を受け取り、拒否を確認した時点でビジター状態に戻ります。拒否されたユーザーは、あとで再び要求を送信することができます。ユーザーがメンバーシップ要求を送信することも望ましくない場合、所有者は特定のユーザーを禁止することができます。

```

VISITOR --メンバーシップを要求--> PENDING/VISITOR--> 承認--> MEMBER
VISITOR --メンバーシップを要求--> PENDING/VISITOR--> 拒否
                                                    |
                                                    -->REJECTED/VISITOR --確認--> V
                                                    ISITOR

```

## ユーザーの招待

コミュニティの所有者は、コミュニティへの参加招待をユーザーに送信できます。招待を受けたユーザーは、ポータルにログインしたときに招待を確認できます。その時点で、招待を受け入れるか拒否するかを選択できます。

```

VISITOR--> 招待--> INVITED/VISITOR--> 承認--> MEMBER
VISITOR--> 招待--> INVITED/VISITOR--> 拒否--> VISITOR

```

システムが適切に設定されていれば、招待メッセージは、招待を受けるユーザーに電子メールで送信されます。ユーザーが電子メールで招待を受け取るためには、そのユーザーのポータルで適切に設定された電子メールアドレスが必要です。

## ユーザーの禁止

禁止とは、特定のユーザーによるコミュニティへのアクセスを所有者が禁止できるプロセスのことです。メンバーおよびメンバー以外のユーザーに加えて、所有者についてもコミュニティへの参加を禁止することができます。メンバーシップ制限付きのコミュニティの場合、禁止されたユーザーはコミュニティへの参加要求を送信することもできません。

所有者は禁止されたユーザーの禁止状態を取り消すことができ、その際にそのユーザーの以前の権限が回復されます。禁止される前にユーザーがコミュニティのメンバーであった場合、ユーザーは禁止を取り消されたあとでメンバーになります。同様に、コミュニティから禁止されていた所有者が禁止を取り消されると、再びそのコミュニティの所有者になります。

MEMBER-->	禁止-->	BANNED/VISITOR-->	禁止取り消し-->	MEMBER
OWNER/MEMBER-->	禁止-->	BANNED/VISITOR-->	禁止取り消し-->	OWNER/MEMBER

## コミュニティ状態の管理

この節では次の内容について説明します。

- [117 ページの「コミュニティの有効化と無効化」](#)
- [117 ページの「コミュニティの削除と復元」](#)

### コミュニティの有効化と無効化

ポータル管理者は、Portal Server 管理コンソールまたは psadmin CLI を使用して、コミュニティを無効にすることができます。同様に、ポータル管理者だけが、無効にされたコミュニティを有効にできます。無効化されたコミュニティには、メンバーおよび所有者を含めすべてのユーザーがアクセスできなくなります。無効化されたコミュニティに投稿されたコンテンツを検索しても、結果は返されません。デフォルトでは、新しく作成されたコミュニティは有効な状態です。

無効化されたコミュニティのユーザーへの表示形式を指定するには、`disabled.xml` テンプレートを使用します。コミュニティテンプレートのディスプレイプロファイルについて理解するには、[118 ページの「コミュニティテンプレートについて」](#)を参照してください。

### コミュニティの削除と復元

コミュニティ所有者またはシステム管理者はコミュニティを削除できます。コミュニティが削除されると、コミュニティ自体、およびそのコミュニティに付随するデータにアクセスできなくなります。ただし、バックエンドの記憶領域にはまだデータが残っているため、必要に応じてコミュニティを復元することがで

きます。削除したコミュニティの復元タスクはポータル管理者が実行します。この復元機能は、悪意による、または意図しないコミュニティの削除を取り消す目的で提供されています。削除は永続的なものではないため、同じ名前で新しいコミュニティを作成することはできません。現時点で、コミュニティの永続的かつ持続的な削除はサポートされていません。ただし、`psadmin` サブコマンド `destroy-community` を使用することでコミュニティを永続的に削除できます。

削除されたコミュニティのユーザーへの表示形式を指定するには、`deleted.xml` テンプレートを使用します。コミュニティテンプレートのディスプレイプロファイルについて理解するには、[118 ページの「コミュニティテンプレートについて」](#)を参照してください。

## カテゴリの管理

コミュニティの作成および参照で使用されるカテゴリツリーは、検索サーバーの分類によって提供されます。カテゴリの管理方法については、[223 ページの「カテゴリの管理」](#)を参照してください。

## コミュニティテンプレートについて

この節の内容は、次のとおりです。

- [118 ページの「コミュニティテンプレートの概要」](#)
- [121 ページの「テンプレートの構文とセマンティクス」](#)
- [122 ページの「テンプレート記述子ファイル」](#)
- [123 ページの「テンプレートの作成と変更」](#)

## コミュニティテンプレートの概要

この節では次の内容について説明します。

- [118 ページの「コミュニティテンプレートとは」](#)
- [119 ページの「テンプレートの格納形式」](#)
- [121 ページの「テンプレートの管理方法」](#)

### コミュニティテンプレートとは

コミュニティテンプレートは、サービス(チャンネル)の集合と視覚レイアウトで構成されます。ただし、レイアウトは常にコミュニティテンプレートによって指定されるとは限りません。たとえば、`wiki` コミュニティテンプレートの場合、レイアウトは `wiki` 自体によって指定されます。コミュニティテンプレートは、コ

コミュニティで利用可能なサービスの種類、各サービスのデフォルト設定、および、各種のサービスを束ねるコンテナを(ロールのディスプレイプロファイルドキュメントで)定義します。

物理的には、コミュニティテンプレートは1つのプロパティファイル、画像、および1つ以上のディスプレイプロファイルドキュメントで構成されます。OWNER、VISITOR、MEMBERなどのコミュニティロールごとに1つのディスプレイプロファイルドキュメントが存在します。各ロールテンプレートは、特定のロールと関連付けられるサービスおよびレイアウトを定義します(これらのロールの詳細については、[115 ページの「メンバーシップの管理」](#)を参照)。ロールテンプレートの内容はディスプレイプロファイルドキュメントに表現されます。基本的には、コミュニティテンプレートには各種のロールを処理するためのロジックが含まれ(ロールごとに1つのディスプレイプロファイルドキュメント)、1つ以上のロールに応じて、得られるサービスの集合およびレイアウトが異なります。コミュニティに削除マークが付いている(`deleted.xml`)、またはコミュニティが無効なとき(`disable.xml`)のコンテンツをカスタマイズするためのディスプレイプロファイルドキュメントも存在します。

コミュニティはコミュニティテンプレートから作成されます。システムで保持できるコミュニティテンプレートの数に制限はありません。エンタープライズサンプルでは、エンドユーザーがコミュニティの作成時にコミュニティテンプレートを選択します。

## テンプレートの格納形式

コミュニティテンプレートはファイルシステム上に格納されます。コミュニティテンプレートは `PortalServer-DataDir/portals/portal-URI/communitytemplates` ディレクトリに格納されます(このディレクトリを `communityTemplateBaseDir` と表記する)。このことが意味するのは、複数ポータル配備環境では、各ポータルがそれぞれ独自のコミュニティテンプレートの集合を保持する、またその必要があるということです。`communityTemplateBaseDir` 内のリソースバンドルは、各テンプレートと関連付けられるメタデータを定義します。加えて、各テンプレートには、ロールテンプレートが格納される個別のディレクトリがあります。

例 9-1 *communityTemplateBaseDir* の例

```

communityTemplateBaseDir  -+-- template1 -+-- deleted.xml
                          |                |
                          |                +-- disabled.xml
                          |                |
                          |                +-- member.xml
                          |                |
                          |                +-- owner.xml
                          |                |
                          |                +-- visitor.xml
                          |
                          -+-- template2 -+-- deleted.xml
                          |                |
                          |                +-- disabled.xml
                          |                |
                          |                +-- member.xml
                          |                |
                          |                +-- owner.xml
                          |                |
                          |                +-- visitor.xml
                          |
                          -+-- template3 -+-- deleted.xml
                          |                |
                          |                +-- disabled.xml
                          |                |
                          |                +-- member.xml
                          |                |
                          |                +-- owner.xml
                          |                |
                          |                +-- visitor.xml
                          |
                          +-- template1.properties
                          |
                          +-- template1_en.properties
                          |
                          +-- template1_fr.properties
                          |
                          +-- template2.properties
                          |
                          +-- template3.properties
                          |
                          +-- template3_en_US.properties
                          |
                          +--      ...
    
```

ディスプレイプロファイルの `disabled.xml` および `deleted.xml` ファイルは、コミュニティが無効なとき、または削除マークが付いているときのコンテンツを制御します。詳細については、117 ページの「[コミュニティ状態の管理](#)」を参照してください。

## テンプレートの管理方法

ポータル管理者は、新しいコミュニティテンプレートの追加、既存のコミュニティテンプレートの更新、システム上のコミュニティテンプレートのアーカイブと復元、および、ポータルインスタンス間でのコミュニティテンプレートのエクスポートや同期を実行できます。

## テンプレートの構文とセマンティクス

個々のテンプレートは、XML 形式の 1 つ以上のロールテンプレート (`member.xml`、`owner.xml`、`visitor.xml`、`deleted.xml`、`disabled.xml`) で構成されます。テンプレートディレクトリには、そのテンプレートで提供するロールに対応した XML ファイルが含まれます。たとえば、コミュニティのメンバーには `member.xml` が、所有者には `owner.xml` が、ビジターには `visitor.xml` がそれぞれ対応します。

個々のロールテンプレートは、そのロールを持つコミュニティユーザーに対するディスプレイプロファイルドキュメントです。ファイルはディスプレイプロファイル DTD に基づいている必要があります。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<DisplayProfile version="1.0" priority="%COMMUNITY_DP_PRIORITY%">
  <Properties/>
  <Channels>
    <Container name="%COMMUNITY_CONTAINER%" provider="JSPTableContainerProvider">
      <Properties>
        <String name="title" value="%COMMUNITY_NAME%"/>
        <String name="description" value="%COMMUNITY_DESCRIPTION%"/>
        <Boolean name="compileToRealPath" value="true"/>
      </Properties>
      <Available>...</Available>
      <Selected>...</Selected>
      <Channels>...</Channels>
    </channels>
  <Providers/>
</DisplayProfile>
```

次に示すのは、ディスプレイプロファイル内の(%で囲まれた)トークンの説明です。これらはコミュニティの作成時に、テンプレートエンジンによって実際の値に動的に置き換えられます。

<code>%COMMUNITY_NAME%</code>	コミュニティに付ける(ユーザーにわかりやすい)名前を指定します。例: <code>tourists</code>
<code>%COMMUNITY_ID%</code>	コミュニティを識別する一意の文字列を指定します。この名前はあくまで内部表現であり、ユーザーインタフェースに表示されることはありません。例: <code>jdo__tourists</code>
<code>%COMMUNITY_DESCRIPTION%</code>	コミュニティの説明です。
<code>%COMMUNITY_CONTAINER%</code>	コミュニティの最上位コンテナを指定します。例: <code>jdo__touristsContainer</code>
<code>%COMMUNITY_DP_PRIORITY%</code>	結果のコミュニティディスプレイプロファイルに付与される、ディスプレイプロファイルのマージ優先順位を指定します。付与される値はロールごとに異なります。デフォルトでは、 <code>visitor</code> ロールには 1000、 <code>member</code> ロールには 1005、 <code>owner</code> ロールには 1010 が付与されます。
<code>%COMMUNITY_SEARCH_URL%</code>	コミュニティの検索サーバー URL を指定します。
<code>%COMMUNITY_CONTENTS_SEARCH_DB%</code>	コミュニティコンテンツの検索データベースを指定します。
<code>%COMMUNITY_DISCUSSIONS_SEARCH_DB%</code>	ディスカッションデータベースを指定します。
<code>%PORTAL_ID%</code>	ポータルの ID を指定します。例: <code>portal1</code>

## テンプレート記述子ファイル

各テンプレートには、そのテンプレートと関連付けられるメタデータを定義するリソースバンドルファイルが含まれます。リソースバンドルは、ローカライズ可能な記述子ファイルと呼ばれます。個々のテンプレート記述子ファイルでは、次のプロパティを定義します(定義する必要がある)。

<code>id</code>	テンプレートの一意な ID を指定します。ID はテンプレートディレクトリ名と一致する必要があります。たとえば、サポートする 3 つのロールのすべてに対するロールテンプレート (XML
-----------------	--

	ファイル)を持つ、Baseballという名前のテンプレートディレクトリの場合、IDはBaseballです。
name	ユーザーインタフェース(ポータルデスクトップ)でテンプレートを識別するために使用される、ユーザーにわかりやすい名前を指定します。値の例は「Baseball Template」です。
description	テンプレートが提供するサービスなど、テンプレートの詳細な説明。値の例は「Baseball-themed template containing the following services: Player Statistics, Game Discussions, TV Schedule, and OnLine Chat」です。
tokens	テンプレートロールファイルで使用されるトークンのリスト。これは情報提供のみを目的とし、必須ではありません。値の例は「%COMUNITY_ID% %COMMUNITY_DESCRIPTION% %COMMUNITY_CONTAINER%」です。
previewImageURI	ポータルコンテキストの絶対または相対URIを指定します。値の例は「http://images.domain.com/images/baseball.jpg」です。相対URIは、ポータルのweb-appコンテキストパスに対する相対アドレスである必要があります。

#### 例9-2 サンプルの記述子ファイル

```
id=Baseball
name=Baseball Template
description=Baseball-themed template containing the following services:
  Player Statistics, Game Discussions, TV Schedule, and Online Chat
tokens=%COMUNITY_ID% %COMMUNITY_DESCRIPTION% %COMMUNITY_CONTAINER%
previewImageURI=http://images.domain.com/images/baseball.jpg
```

## テンプレートの作成と変更

テンプレートを新規作成する、または既存のテンプレートを変更するには、この節で説明する手順に従います。次の3つの方法のいずれかでテンプレートを作成できます。

- psadminユーティリティを使用して、テンプレートのエクスポート、コンテンツの追加、およびコンテンツのインポートを行う。
- コンテンツを作成し、そのコンテンツをインポートして既存のテンプレートを上書きする。
- 既存のテンプレートに新しいファイルを追加する。

## ▼ 単一ポータル環境用の新しいテンプレートを作成する

- 1 *communityTemplateBaseDir* に移動します。

次の手順を実行します。

- 新しいテンプレート用の新しいディレクトリを作成する
- 新しいテンプレートディレクトリに既存のテンプレートをコピーする

たとえば、次のように入力します。

```
cd PortalServer-DataDir/portals/portal-URI/communitytemplates
mkdir NewTemplate
cp 2column/* NewTemplate/
```

- 2 新しいテンプレートディレクトリ内の、ロールに基づくディスプレイプロファイルドキュメントを必要に応じて変更します。

ロールに基づくディスプレイプロファイルドキュメントの詳細については、[121 ページ](#)の「テンプレートの構文とセマンティクス」を参照してください。

- 3 プロパティファイルを作成し、「テンプレート記述子ファイル」で説明したプロパティが含まれるようにファイルを編集し、ファイルを保存します。

たとえば、新しいテンプレート用の新しいプロパティファイルを作成するには、次のように入力します。

```
cp 2column.properties NewTemplate.properties
```

または

```
touch NewTemplate.properties
```

---

注-新しく追加したテンプレートを確認するために、現在のポータルセッションをすべてログアウトし、再ログインして変更を確認します。

---

## ▼ 単一ポータル環境用の既存のテンプレートをカスタマイズまたは変更する

- 1 *communityTemplateBaseDir/ template* ディレクトリに移動し、変更を加えるファイルを開きます。

- 2 現在のポータルセッションをすべてログアウトし、再ログインして変更を確認します。



- 4 psadmin import サブコマンドを使用して、すべてのポータルにまたがって PAR の内容をインポートします。

すべてのデスクトップデータをエクスポートした場合は、psadmin export サブコマンドですべてのデスクトップデータがエクスポートされることに注意してください。コミュニティーテンプレートのみを含む完全新規の PAR 構造を作成する場合は、このコマンドによってコミュニティーテンプレートのみがエクスポートされます。

---

ヒント - 詳細については、『Sun Java System Portal Server 7.2 Command-Line Reference』の「psadmin export」を参照してください。

---

## Portal Server コミュニティーの管理

この節では、Sun Java™ System Portal Server 管理コンソールを使用して行う、コミュニティーとコミュニティーユーザーの作成および管理についての情報を示します。

- [127 ページの「コミュニティーとユーザーの管理」](#)
- [131 ページの「コミュニティー Web サービス URL の管理」](#)

「コミュニティー管理」ページでは、ポータル内のコミュニティーがテーブル形式で一覧表示されます。ユーザーはコミュニティーを検索して、コミュニティーおよびコミュニティーユーザーを管理できます。

「コミュニティー管理」テーブルに含まれる情報は次のとおりです。

- コミュニティーの名前
- コミュニティー内のユーザー数
- コミュニティーが有効か無効かの区別
- コミュニティーがアクティブか、削除マークが付いているかの区別
- コミュニティーがリスト対象か対象外かの区別
- コミュニティーがメンバーシップを持つ制限付きのコミュニティーか、制限なしのコミュニティーかの区別
- コミュニティーがセキュリティー保護されたコミュニティーか、そうでないかの区別

コミュニティーおよびユーザーを管理するための手順については、[127 ページの「コミュニティーとユーザーの管理」](#)を参照してください。

## コミュニティとユーザーの管理

この節では、Sun Java System Portal Server 管理コンソールからコミュニティおよびユーザーを管理する方法についての情報を示します。

コミュニティおよびユーザーを管理するには、次の手順を使用します。

- 127 ページの「コミュニティを検索する」
- 127 ページの「コミュニティを作成する」
- 128 ページの「コミュニティユーザーを管理する」
- 129 ページの「保留状態のユーザーを管理する」
- 129 ページの「コミュニティを有効にする」
- 130 ページの「コミュニティを無効にする」
- 130 ページの「コミュニティの削除マークを解除する」
- 130 ページの「コミュニティに削除マークを付ける」
- 131 ページの「コミュニティを編集する」

### ▼ コミュニティーを検索する

- 1 「ポータル」タブ内でポータルをクリックします。
- 2 「コミュニティ」タブをクリックします。  
「コミュニティ管理」ページが表示されます。
- 3 「コミュニティの検索」テキストボックスにコミュニティの名前を入力して「検索」をクリックします。  
検索条件に一致するコミュニティが一覧表示されます。

---

ヒント-ワイルドカード検索を実行できます。たとえば、検索条件が「\*blog」の場合、名前のどこかに「blog」という単語が含まれるすべてのコミュニティが一覧表示されます。「\*」を入力するとすべてのコミュニティが一覧表示されます。

---

### ▼ コミュニティーを作成する

- 1 「ポータル」タブ内でポータルをクリックします。
- 2 「コミュニティ」タブをクリックします。  
「コミュニティ管理」ページが表示されます。
- 3 「新規」ボタンをクリックします。  
「コミュニティの作成」ページが表示されます。

- 4 テキストボックスに値を入力し、ドロップダウンメニューで選択を行います。
- 5 「了解」をクリックして終了します。

## ▼ コミュニティーユーザーを管理する

- 1 「ポータル」タブ内でポータルをクリックします。
- 2 「コミュニティ」タブをクリックします。  
「コミュニティ管理」ページが表示されます。
- 3 コミュニティーを選択します。

---

注-一度に管理できるのは1つのコミュニティだけです。

---

- 4 「現在のユーザーの管理」ボタンをクリックします。  
「ユーザーを管理」ページが表示されます。
- 5 「追加」ボタンをクリックします。  
「コミュニティユーザーの追加」ページが表示されます。

---

注-既存のユーザーのステータスを変更する場合は、手順7に進みます。

---

- 6 「ユーザー DN」テキストボックスにユーザー名を入力して「追加」をクリックします。
  - a. ユーザー名がわからない場合は「選択」をクリックします。  
「ユーザーの選択」ページが表示されます。
  - b. 「ユーザーの検索」テキストボックスに検索条件を入力して「検索」をクリックします。

---

ヒント-ワイルドカード検索を実行できます。たとえば、検索条件が「\*user」の場合、名前のどこかに「user」という単語が含まれるすべてのユーザー ID が一覧表示されます。「\*」を入力するとすべてのユーザーが一覧表示されます。

---

- c. ユーザーを指定して「選択」をクリックします。  
「コミュニティユーザーの追加」ページの「ユーザー DN」テキストフィールドに、選択したユーザー名が表示されます。

- d. 「追加」をクリックします。
- 7 既存のユーザーのステータスを変更するには、ユーザーを選択します。
- 8 使用可能なオプションボタンのいずれかをクリックします。  
次のオプションを使用できます。
  - 削除 - ユーザーをコミュニティから削除する
  - 所有権の割り当て - 所有者権限をコミュニティユーザーに割り当てる
  - 所有権の割り当て解除 - 所有者権限を削除する
  - 禁止 - コミュニティーへの参加を禁止する
  - 禁止の削除 - コミュニティーへの参加禁止を取り消す
- 9 「コミュニティ管理」ページに戻るには「戻る」をクリックします。

## ▼ 保留状態のユーザーを管理する

- 1 「ポータル」タブ内でポータルをクリックします。
- 2 「コミュニティ」タブをクリックします。  
「コミュニティ管理」ページが表示されます。
- 3 コミュニティーを選択して「保留状態のユーザーの管理」ボタンをクリックします。  
「保留状態のユーザーの管理」ページが表示されます。
- 4 「メンバーシップ承認の待機」テーブルからユーザーを選択して「承認」または「拒否」ボタンをクリックします。
- 5 「コミュニティ管理」ページに戻るには「戻る」をクリックします。

## ▼ コミュニティーを有効にする

- 1 「ポータル」タブ内でポータルをクリックします。
- 2 「コミュニティ」タブをクリックします。  
「コミュニティ管理」ページが表示されます。
- 3 コミュニティーを選択します。

---

注 - 複数のコミュニティを選択できます。

---

- 4 「有効」 ボタンをクリックします。

### ▼ コミュニティーを無効にする

- 1 「ポータル」 タブ内でポータルをクリックします。
- 2 「コミュニティ」 タブをクリックします。  
「コミュニティ管理」 ページが表示されます。
- 3 コミュニティーを選択します。

---

注- 複数のコミュニティを選択できます。

---

- 4 「無効」 ボタンをクリックします。

### ▼ コミュニティーの削除マークを解除する

- 1 「ポータル」 タブ内でポータルをクリックします。
- 2 「コミュニティ」 タブをクリックします。  
「コミュニティ管理」 ページが表示されます。
- 3 「名前」 の下でコミュニティを選択します。

---

注- 複数のコミュニティを選択できます。

---

- 4 「削除のマーク解除」 ボタンをクリックします。

### ▼ コミュニティーに削除マークを付ける

- 1 「ポータル」 タブ内でポータルをクリックします。
- 2 「コミュニティ」 タブをクリックします。  
「コミュニティ管理」 ページが表示されます。
- 3 「名前」 の下でコミュニティを選択します。

---

注- 複数のコミュニティを選択できます。

---

- 4 「削除のマーク付け」 ボタンをクリックします。

---

注 - コミュニティーを永続的に削除するには、コマンド `psadmin remove-community -u amadmin -f password_file -p portal --name community_name` を使用します。

---

## ▼ コミュニティーを編集する

- 1 「ポータル」 タブ内でポータルをクリックします。
- 2 「コミュニティ」 タブをクリックします。  
「コミュニティ管理」 ページが表示されます。
- 3 コミュニティーをクリックします。  
編集ページが表示されます。
- 4 コミュニティーに関する設定値および選択内容を変更します。
- 5 「保存」 をクリックします。

## コミュニティ Web サービス URL の管理

コミュニティの検索および管理機能には、コミュニティ Web サービスが関係します。デフォルトでは、コミュニティ Web サービスの URL には、最初のポータルインスタンスと同じホストが含まれます。ロードバランサを使用する複数ノードインストールでは、ロードバランサのホストを使用するようにコミュニティ Web サービスの URL を変更できます。

## ▼ コミュニティー Web サービスの URL を取得および設定する

- 端末ウィンドウで次のように入力します。

```
./psadmin get-attribute -u amadmin -p portal-URI -m communities -a WebServicesURL
```

```
./psadmin set-attribute -u amadmin -p portal-URI -m communities -a WebServicesURL URL
```

*amadmin*                    管理者の識別名を指定します。

*portal-URI*                ポータル ID を指定します。

*WebServicesURL*        *WebServicesURL* 属性の値を指定します。たとえば、URL は「`http://foo.com:8080/communitymanagerwebservices/community`」

managerwebservices」のような形式で指定できます。URL  
の「communitymanagerwebservices/communitymanagerwebservices  
」の部分は変更してはならないことに注意してください。

---

注 - WebServicesURL 属性のデフォルト値はありません。デフォルトでは、空の値は最初のポータルインスタンスのホストが使用されることを示します。

---

## Portal Server 登録の管理

---

この章では、Sun Java™ System Portal Server 登録コンポーネントとその管理方法について説明します。この章には、次のトピックが含まれています。

- 133 ページの「Portal Server 登録の概要」
- 134 ページの「登録のセットアップ」
- 139 ページの「Portal Server ディスカッションの管理」

### Portal Server 登録の概要

登録を使用することで、エンドユーザーはカテゴリ、ディスカッション、検索可能なドキュメントなど多くの情報ソースを網羅するプロファイルを作成できます。エンドユーザーが登録チャンネルにアクセスするたびに、プロファイルは最新の情報で更新されます。登録チャンネルは、エンドユーザーが定義するカテゴリ別ドキュメントやディスカッションのプロファイル項目と一致する関連情報の項目数を要約します。

検索サーバーを使用して、次のタイプのコンテンツを一致させることができます。

- 指定日数の範囲内でターゲットカテゴリに属する新規ドキュメント
- 指定日数の範囲内のディスカッションに含まれる新規関連コメント
- 保存済み検索に対するドキュメントのヒット

結果は、一致情報の数を示すリンクとしてプロファイルエントリに表示されます。エンドユーザーがこのリンクをクリックすると、その一致自体の詳細が表示されます。

カテゴリ登録では、エンドユーザーがリンクをクリックすると検索チャンネルが表示されます。ここには、興味対象の特定のドキュメントが標準のカテゴリ検索結果の形式で要約されます。登録チャンネルは、より詳細な情報への入り口として機能します。

プロファイラ機能により、指定した興味対象のコンテンツが変更された場合に、メールで通知できます。プロファイラは、Access Manager からエンドユーザーの登録情報を入手し、検索サーバーから結果を取り込んで、電子メール通知をエンドユーザーに送信します。プロファイラをスケジュール設定することで、組織レベルで特定の時間に実行できます。

## 登録のセットアップ

管理者は登録を有効または無効にすることができます。登録は次のレベルでセットアップ可能です。

- ルートレベル
- 組織レベル
- エンドユーザーレベル

### ▼ 登録をセットアップする

- 1 32 ページの「[管理コンソールにログインする](#)」の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」でポータルサーバーを選択します。
- 4 「登録」タブをクリックします。
- 5 次のいずれかを選択して登録レベルを設定し、デフォルト値を設定します。
  - 「DN を選択」ドロップダウンメニューから「**TopLevel**[グローバル]」を選択します。

---

注-登録をトップレベルで管理する場合、システム全体を対象に、カテゴリ、ディスカッション、および保存済み検索の各タイプごとに登録のデフォルト最大数を設定します。

---

カテゴリ登録の最大数	ユーザーが登録できるカテゴリの最大数を指定します。
ディスカッション登録の最大数	ユーザーが登録できるディスカッションの最大数を指定します。
保存済み検索の最大数	保存できる検索の最大数を指定します。

- 「DNを選択」ドロップダウンメニューから任意の組織を選択します。

---

注-登録を組織レベルで管理する場合、システム全体を対象に、タイプ別(カテゴリ、ディスカッション、保存済み検索)の登録のデフォルト最大数を上書きします。

---

プロファイラ SMTP	電子メール通知をエンドユーザーに配信するSMTPサーバーとして動作するホストシステム。
プロファイラの電子メール	ユーザーが受信する電子メール通知の発信元となる登録プロファイラの電子メールアドレス。電子メールは、ID@domain の形式にしてください。
プロファイラプロバイダ	ユーザーへの電子メール通知の内容をレンダリングするために使用されるプロファイラチャンネルのURL。これは次の形式にしてください。 http://HOST:PORT/portal/dt?  provider=profiler&desktop.suid=UID_OF_AUTHLESSANONYMOUS_USER
プロファイラのデフォルト検索	デフォルトの検索サーバーのURL。プロファイラのデフォルト検索が使用されるのは、Portal Server 6.3.x によって作成されたユーザープロファイルとの下位互換を目的とする場合だけです。これは次の形式にしてください。 http://HOST:PORT/search1/search
プロファイラの最大ヒット数	ユーザーに送信された電子メール通知で見つかる組織内のエンドユーザー登録の結果ヒット数の最大値。たとえば、値が5の場合、「*」などの広範囲の保存済み検索は、もっとも関係のある5つの結果に制限されます。
カテゴリ登録の最大数	ユーザーが登録できるカテゴリの最大数。
ディスカッション登録の最大数	ユーザーが登録できるディスカッションの最大数。
保存済み検索の最大数	エンドユーザーが保存できる検索の最大数。

- 「DNを選択」ドロップダウンメニューから任意のユーザーを選択します。

注-組織ユーザーレベルで登録を管理する場合、ユーザーの登録設定を編集します。管理者は、ユーザーのサービスデータを管理できます。

- ユーザーの登録の更新
- ユーザーの登録の削除

プロファイラが有効になっている登録 「有効」を選択することで、ユーザーは電子メール通知を受け取ることができます。

登録のタイプごとに、登録を追加または消去します。形式は次のとおりです。

カテゴリ登録

label | target category | scope | lapsed time | rating | server | database | status

次に、各引数について説明します。

label 編集される登録に与えられる論理参照で、文字列として指定する必要があります。必須フィールド。

target category ABC:DEF:GHI という形式の文字列で指定する必要があります。

scope 検索クエリー。検索演算子を含む有効な検索文字列として指定する必要があります。

lapsed time 次のいずれかの値を指定する必要があります。

- 0 = すべて
- 1 = 1 日以内
- 7 = 1 週間以内
- 30 = 1 ヶ月以内
- 180 = 6 ヶ月以内
- 365 = 1 年以内

rating これは、一致するドキュメントが登録の一致として選択される最小の重要度です。

値は次の数値です。

- -1 = 重要でない
- 0 = 普通
- 1 = 興味あり
- 2 = 重要

	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 3 = 必読</li> </ul>
server	これは、登録の条件に一致する内容を見つける際にクエリー対象となる検索サーバーの URL です。
database	登録が一致を検索するターゲットの検索サーバーデータベース。これは単一値のデータベースです。
status	登録がアクティブであるかアクティブでないかを示すブール値。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ アクティブとは、登録が評価されることを意味します。</li> <li>■ アクティブでないとは、登録が休止していることを意味します。</li> </ul>

### ディスカッション登録

label | target discussion | scope | lapsed time | rating | server | database | status

各表記の意味は次のとおりです。

label	編集される登録に与えられる論理参照で、文字列として指定する必要があります。必須フィールド。
target discussion	登録がほかに定義された条件に対して一致する内容を検索する対象となるディスカッションスレッドの親ノード。
scope	検索クエリー。scope は、検索演算子を含む有効な検索文字列として指定する必要があります。
lapsed time	次のいずれかの値を指定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 0 = すべて</li> <li>■ 7 = 1 週間以内</li> <li>■ 30 = 1 ヶ月以内</li> <li>■ 180 = 6 ヶ月以内</li> <li>■ 365 = 1 年以内</li> </ul>

rating	<p>これは、一致するドキュメントが登録の一致として選択される最小の重要度です。</p> <p>値は次の数値です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ -1 = 重要でない</li> <li>▪ 0 = 普通</li> <li>▪ 1 = 興味あり</li> <li>▪ 2 = 重要</li> <li>▪ 3 = 必読</li> </ul>
server	<p>これは、登録の条件に一致する内容を見つける際にクエリー対象となる検索サーバーの URL です。</p>
database	<p>登録が一致を検索するターゲットの検索サーバーデータベース。これは単一値のデータベースです。</p>
status	<p>登録がアクティブであるかアクティブでないかを示すブール値。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ アクティブとは、登録が評価されることを意味します。</li> <li>▪ アクティブでないとは、登録が休止していることを意味します。</li> </ul>

### 保存済み検索

label | scope | lapsed time | rating | server | database | status

次に、各引数について説明します。

label	<p>編集される登録に与えられる論理参照で、文字列として指定する必要があります。必須フィールド。</p>
scope	<p>検索クエリー。検索演算子を含む有効な検索文字列として指定する必要があります。</p>
lapsed time	<p>次のいずれかの値を指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 0 = すべて</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 1 = 1 日以内</li> <li>▪ 7 = 1 週間以内</li> <li>▪ 30 = 1 ヶ月以内</li> <li>▪ 180 = 6 ヶ月以内</li> <li>▪ 365 = 1 年以内</li> </ul>
rating	<p>これは、一致するドキュメントが登録の一致として選択される最小の重要度です。</p> <p>値は次の数値です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ -1 = 重要でない</li> <li>▪ 0 = 普通</li> <li>▪ 1 = 興味あり</li> <li>▪ 2 = 重要</li> <li>▪ 3 = 必読</li> </ul>
server	これは、登録の条件に一致する内容を見つける際にクエリー対象となる検索サーバーの URL です。
database	登録が一致を検索するターゲットの検索サーバーデータベース。これは単一値のデータベースです。
status	<p>登録がアクティブであるかアクティブでないかを示すブール値。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ アクティブとは、登録が評価されることを意味します。</li> <li>▪ アクティブでないとは、登録が休止していることを意味します。</li> </ul>

## 6 「保存」をクリックします。

### 参考 同等の psadmin コマンド

『Sun Java System Portal Server 7.2 Command-Line Reference』の「psadmin set-attribute」

## Portal Server ディスカッションの管理

ここでは、ディスカッションチャンネルとその管理方法について説明します。

この節では次の内容について説明します。

- [140 ページの「DiscussionProvider の概要」](#)
- [141 ページの「DiscussionProvider の管理」](#)
- [143 ページの「DiscussionLite チャンネル」](#)

## DiscussionProvider の概要

ディスカッションチャンネルは DiscussionProvider に基づいていて、検索チャンネルの JavaServer Pages™ (JSP™) ファイルに似ています。ディスカッションチャンネルにはクエリー部分と表示部分があります。また、デスクトップテーマを使用します。

DiscussionProvider の特徴は次のとおりです。

- デスクトップテーマを使用します
- JSP テクノロジーに基づいています
- 検索タグライブラリと API を使用して、バックエンドの検索サービスからデータを取得します

ディスカッションとコメントは、異なるリソースディスクリプタ (RD) としてディスカッションデータベースに格納されます。DiscussionProvider がサポートする内容は次のとおりです。

- 次の機能を持つ完全ビュー (ディスカッションチャンネルを使用) と省略ビュー (DiscussionLite チャンネルを使用)
- ディスカッションチャンネルから新しいディスカッションを開始する。
- 既存のディスカッションに返信する。
- 検索チャンネルからの Web ドキュメントに基づく新しいディスカッションを開始する。
- 次の機能を持つディスカッションリスト
  - 最終更新日でソートされた主要送信を取得する。
  - ユーザーが古いディスカッションにアクセスできるようにページ付けを行う。
- ディスカッションの各サブツリーを表示するディスカッション表示。主要項目は詳細に表示され、サブツリーは主要項目の下に表示されます。ここに表示される内容には、次の項目が含まれます。
  - ページ上の複数のフィルタ。ドキュメントの重要度 (「重要でない (irrelevant)」、「普通 (routine)」、「興味 (interesting)」、「重要 (important)」、「必読 (must read)」) などのフィルタに基づいてドキュメントを表示できます。
  - スレッド表示とフラット表示の表示設定を選択できます。
  - 展開しきい値を使用すると、サブツリー内の表示を制御しやすくなります。ユーザーは、評価の高いドキュメントだけを展開したり、すべてのドキュメントを展開したり閉じたりすることを選択できます。デフォルト値は「すべて縮小」です。「すべて展開」を選択した場合、フィルタ条件を満たすすべてのコメントが表示されます。また、ディスカッションの説明およびディスカッション評価用メニューが表示されるほか、返信を投稿する仕組みも提供されます。

- ディスカッション内の検索に対応しています。ユーザーは、チャンネル編集ページからこれらの設定を編集することもできます。
- ディスカッションに対してコメント追加し、重要度を設定する。たとえば、ユーザーは次の操作が可能です。
  - 既存のディスカッションにコメントを追加する。
  - すべてのディスカッションとコメントに重要度を設定する。ユーザーが設定する重要度はただちには適用されません。重要度の計算はアルゴリズムに基づいています。コメントの重要度は段階的に上下します。たとえば、コメントの重要度を「重要」に引き上げるには、「重要」という設定を3回行う必要があります。
  - ディスカッション内のすべてのディスカッションを検索する。これらの機能は、検索プロバイダにルーティングされます。ユーザーは、詳細検索機能を使用して、重要度による検索も実行できます。
  - 登録。認証されたユーザーは、登録のリンクを選択することで、特定のディスカッションを選択的に登録できます。この要求は、SubscriptionProvider によって処理されます。

## DiscussionProvider の管理

DiscussionProvider チャンネルを作成し、ポータルサーバーの管理コンソールで管理できます。

- 141 ページの「DiscussionProvider からチャンネルを作成する」
- 142 ページの「DiscussionProvider チャンネルを削除する」
- 143 ページの「DiscussionProvider チャンネルを設定する」

エンドユーザーは、チャンネルの編集ページを使用して、ディスカッションチャンネルを設定できます。

### ▼ DiscussionProvider からチャンネルを作成する

- 1 32 ページの「管理コンソールにログインする」の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」でポータルサーバーを選択します。
- 4 「DN を選択」ドロップダウンメニューから任意の DN を選択します。

- 5 チャンネルを作成するコンテナを選択します。  
コンテナの「作業」と「プロパティ」が右側のパネルに表示されます。
- 6 「作業」で「新規チャンネルまたはコンテナ」をクリックして、ウィザードを起動します。
  - a. 「ポータルを選択」ドロップダウンメニューからポータルサーバーを選択します。
  - b. 「DNを選択」ドロップダウンメニューから任意のDNを選択します。
  - c. 「タイプ」からチャンネルを選択して、「次へ」をクリックします。
  - d. 「チャンネルタイプ」から「プロバイダチャンネル」を選択し、「次へ」をクリックします。
  - e. 「プロバイダ」ドロップダウンメニューから「DiscussionProvider」を選択し、「次へ」をクリックします。
  - f. テキストボックスにチャンネルの名前を入力し、「次へ」をクリックします。
  - g. チャンネルの情報を確認し、「完了」をクリックします。
  - h. 「閉じる」をクリックします。DiscussionProvider に基づいたチャンネルが作成されます。

## ▼ DiscussionProvider チャンネルを削除する

- 1 [32 ページの「管理コンソールにログインする」](#)の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」でポータルサーバーを選択します。
- 4 「DNを選択」ドロップダウンメニューから DiscussionProvider チャンネルが存在する DN を選択します。

---

ヒント- 「DP\_ROOT」 の下のチャンネルとコンテナをすべて一覧表示するには、このドロップダウンメニューから「DP XML ツリー」を「表示タイプ」として選択します。

---

- 5 チャンネルが存在するコンテナを選択します。  
コンテナの「タスクおよびプロパティ」ページが表示されます。
- 6 「削除するチャンネルまたはコンテナを選択」をクリックします。
- 7 **DiscussionProvider** チャンネルを選択します。
- 8 「削除」をクリックします。

## ▼ DiscussionProvider チャンネルを設定する

- 1 32 ページの「[管理コンソールにログインする](#)」の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」でポータルサーバーを選択します。
- 4 「DN を選択」ドロップダウンメニューから **DiscussionProvider** チャンネルが存在する DN 組織を選択します。

---

ヒント- 「DP\_ROOT」 の下のチャンネルとコンテナをすべて一覧表示するには、このドロップダウンメニューから「DP XML ツリー」を「表示タイプ」として選択します。

---

- 5 設定する **DiscussionProvider** チャンネルを選択します。  
属性の詳細については、『Sun Java System Portal Server 7.1 Technical Reference』を参照してください。

## DiscussionLite チャンネル

DiscussionLite チャンネルには、最新のディスカッションタイトルと日付が 20 個表示されます。ディスカッションは、作成日 (最終更新日) でソートされ、もっとも新しいディスカッションが先頭に表示されます。タイトルは、再設定可能です。

DiscussionLite チャンネルの表示には次のリンクがあります。

- 各ディスカッションの表示。
- ディスカッションチャンネルをターゲットとするすべてのディスカッションの表示。
- ディスカッションの開始。

デフォルトでは、チャンネルは単一のコンテナ内に表示され、すべてのリンクは `JSPDynamicSingleContainer` に持ち込まれます。

プロパティは、管理コンソールから設定できます。デフォルトでは、このチャンネルのプロパティをエンドユーザーが編集することはできません。

# Portal Server シングルサインオンアダプタの管理

---

この章では、SSO(シングルサインオン)アダプタを設定して、エンドユーザーが利用できるオプションを調節する方法について説明します。この章で説明する内容は次のとおりです。

- 145 ページの「シングルサインオンアダプタの概要」
- 146 ページの「メタアダプタの管理」
- 148 ページの「アダプタの管理」
- 149 ページの「匿名ユーザーの作成」

## シングルサインオンアダプタの概要

シングルサインオンアダプタサービスを使用することで、エンドユーザーは Portal Server プロバイダやその他の Web アプリケーションなどのアプリケーションを使用し、1回のサインオンだけで各種リソースサーバーに認証アクセスすることができます。アクセスできるリソースサーバーは、システムに実装されている SSO アダプタインタフェースによって異なります。

Portal Server は、次のリソースサーバーの SSO アダプタを提供しています。アドレス帳、カレンダー、およびメール。Instant Messaging チャネルのシングルサインオンは、SSO アダプタ経由では利用できませんが、Sun Java System Portal Server 認証方法経由で利用できます。この方法については、Instant Messaging チャネルの `authMethod` プロパティを参照してください。アドレス帳、カレンダー、メールの各サービスは、次の製品で利用できます。

- Sun Java System Calendar Server 5.1.1、6.0、6 2006Q2
- Sun Java System Messaging Server 5.2、6.0、6 2006Q2

リソースサーバーには、通常はメールサーバー用の JavaMail™ API など、標準的な API (アプリケーションプログラミングインタフェース) を使用して、アプリケーションによってアクセスされます。API を使用して認証接続を作成するには、API に

接続の設定データを提供する必要があります。SSO アダプタの目的は、この設定データを供給することであり、データの格納には SSO アダプタサービスが使用されます。

SSO アダプタサービスは、メタアダプタとアダプタという2つのレベルのデータを定義します。メタアダプタは、ユーザーが利用することになる接続のクラスを定義します。複数のユーザーが1つのメタアダプタを使用できます。メタアダプタは、そのメタアダプタを使用するすべてのユーザーに同一のデータ値を定義します。これには、デフォルト値と、ユーザーが編集できる値に関する情報が含まれます。このため、メタアダプタは、グローバルサービスレベルで定義されます。

アダプタは、メタアダプタの設定に加えて、組織、ロール、またはユーザーに固有のデータ値を提供します。アダプタはメタアダプタを参照し、ユーザーが編集できないプロパティのデータ値をメタアダプタから取得します。エンドユーザーが、アダプタの編集可能なプロパティを変更すると、そのアダプタは、そのエンドユーザーだけに適用されます。

SSO アダプタサービスを使用する Sun Java System Portal Server の通信チャンネルは、メタアダプタまたはアダプタのいずれかを参照し、リソースサーバーとの接続に必要なデータ値を取得します。チャンネルがメタアダプタを参照する場合、ユーザーが設定情報を保存すると、チャンネルはアダプタを参照ようになります。参照されたアダプタは、メタアダプタを参照します。

SSO アダプタの管理はすべて、Portal Server のコンソール Web アプリケーションか psadmin コマンド行インタフェースで行います。Portal Server コンソールのデフォルトの配備 URI は、/psconsole です。psadmin CLI のデフォルトの場所は、Solaris の場合、/opt/SUNWportal/bin です。

## メタアダプタの管理

メタアダプタは、ユーザーが利用することになる接続のクラスを定義します。複数のユーザーが1つのメタアダプタを使用できます。

メタアダプタを使用して次のタスクを実行できます。

- [146 ページの「メタアダプタを表示する」](#)
- [147 ページの「メタアダプタを作成する」](#)
- [147 ページの「アダプタを表示する」](#)

### ▼ メタアダプタを表示する

- 1 [32 ページの「管理コンソールにログインする」](#) の手順に従って、管理コンソールにログインします。

- 2 「SSO アダプタ」タブを選択します。  
メタアダプタのリストがテーブルに表示されます。

参考 同等の psadmin コマンド

『Sun Java System Portal Server 7.2 Command-Line Reference』の「psadmin list-ssoadapters」

## ▼ メタアダプタを作成する

- 1 32 ページの「管理コンソールにログインする」の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 「SSO アダプタ」タブを選択します。
- 3 「メタアダプタのリスト」から「新しいメタアダプタ」をクリックしてウィザードを起動します。
- 4 手順に従った後、「了解」をクリックし、指定されたメタアダプタを作成します。

参考 同等の psadmin コマンド

『Sun Java System Portal Server 7.2 Command-Line Reference』の「psadmin create-ssoadapter-template」

## ▼ アダプタを表示する

- 1 32 ページの「管理コンソールにログインする」の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 「SSO アダプタ」タブを選択します。
  - DN のアダプタを表示するには、「アダプタを場所ごとに表示」をクリックします。
    - a. 「DN を選択」ドロップダウンメニューで任意の DN を選択します。  
選択した DN のアダプタが一覧表示されます。
  - メタアダプタのアダプタを表示するには、「メタアダプタのリスト」でメタアダプタを選択します。
    - a. 「選択したメタアダプタのアダプタを表示」をクリックします。

参考 同等の psadmin コマンド

『Sun Java System Portal Server 7.2 Command-Line Reference』の「psadmin list-ssoadapters」

---

注 - CLI に許可されるアダプタのリストは、DN によるリストのみです。

---

## アダプタの管理

アダプタは、メタアダプタの設定に加えて、組織、ロール、またはユーザーに固有のデータ値を提供します。アダプタはメタアダプタを参照し、ユーザーが編集できないプロパティのデータ値をメタアダプタから取得します。エンドユーザーが、アダプタの編集可能なプロパティを変更すると、そのアダプタは、そのエンドユーザーだけに適用されます。

SSO アダプタ設定を使用して次のタスクを実行できます。

- [148 ページの「アダプタを作成する」](#)
- [149 ページの「アダプタの設定プロパティを編集する」](#)

### ▼ アダプタを作成する

- 1 [32 ページの「管理コンソールにログインする」](#) の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 「SSO アダプタ」タブを選択します。
- 3 「メタアダプタのリスト」からメタアダプタを選択します。
- 4 「選択したメタアダプタのアダプタを表示」をクリックします。
- 5 「新しいアダプタ」をクリックします。  
「新しいアダプタ」ページが表示されます。
- 6 必要に応じて設定属性を指定します。
- 7 「了解」をクリックします。

参考 同等の psadmin コマンド

『Sun Java System Portal Server 7.2 Command-Line Reference』の「create-ssoadapter-config」

## ▼ アダプタの設定プロパティを編集する

- 1 32 ページの「[管理コンソールにログインする](#)」の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 「SSO アダプタ」タブを選択します。
- 3 「アダプタを場所ごとに表示」をクリックします。
- 4 「DN を選択」ドロップダウンメニューで任意の DN を選択します。アダプタのリストが表示されます。
- 5 アダプタを選択し、必要に応じて設定属性を変更します。
- 6 「了解」をクリックします。

### 参考 同等の psadmin コマンド

『Sun Java System Portal Server 7.2 Command-Line Reference』の「psadmin set-ssoadapter-property」

## 匿名ユーザーの作成

エンドユーザーは、管理者が設定した読み取り専用通信チャンネルにログインなしでアクセスすることができます。ただし、通常はエンドユーザーがこれらのチャンネルを編集することはできません。

## ▼ 匿名ユーザーのリストを作成する

- 1 32 ページの「[管理コンソールにログインする](#)」の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 「SSO アダプタ」タブを選択します。
- 3 「SSO アダプタの作業」から「SSO アダプタに認証なしでアクセスできるユーザーのリストを編集」をクリックします。
- 4 「ユーザーの場所」から「ユーザーを追加」をクリックします。
- 5 「見つかったユーザー」テーブルからユーザーを選択します。

- 6 「選択したユーザーを追加」をクリックします。

---

注 - 匿名ユーザー機能は、Portal Server 管理コンソールでのみ使用できます。

---

# ◆◆◆ 第 12 章

## Portal Server Mobile Access の管理

---

この章では、Portal Server 7.2 での Mobile Access の設定方法と、ログイン成功時の URL を変更する方法についての情報を示します。

この章では、次の内容について説明します。

- 151 ページの「[Mobile Access の概要](#)」
- 152 ページの「[Mobile Access の設定](#)」
- 155 ページの「[モバイル機器の管理](#)」
- 169 ページの「[モバイル認証の設定](#)」
- 171 ページの「[モバイルポータルデスクトップの管理](#)」

### Mobile Access の概要

Mobile Access は、Sun Java System Portal Server プラットフォームのサービスおよび機能を、携帯電話や PDA などのモバイル機器に拡張します。

Mobile Access ソフトウェアにより、ポータルサイトユーザーは、ハイパーテキストマークアップ言語 (HTML) を必要とするブラウザを使用してアクセスするときと同じコンテンツを取得できます。このソフトウェアでは、Sun Java System Portal Server Secure Remote Access ソフトウェアがサポートされ、Sun Java System Access Manager ソフトウェアの管理コンソールが使用されます。

Mobile Access 製品の機能は、Portal Server ソフトウェアとシームレスに統合されます。Portal Server ソフトウェアの管理方法を知っていれば、Mobile Access ソフトウェアの管理方法を理解することは難しくありません。

## Mobile Access の設定

### ▼ Portal Server 7.2 で Mobile Access を設定する

- 1 Portal Server 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブをクリックします。
- 3 利用可能なポータルのリストから **portal1** ポータルをクリックします。
- 4 「DN を選択」ドロップダウンリストから「EnterpriseSample」を選択します。
- 5 「デスクトップ属性」で利用可能な親コンテナフィールドの値を **WirelessDesktopDispatcher** に変更します。

### ▼ Mobile Access 匿名デスクトップを有効にする

- 1 Portal Server 管理コンソールにログインします。
- 2 「ポータル」タブをクリックします。
- 3 利用可能なポータルのリストからポータルをクリックします。
- 4 「DN を選択」リストから「TopLevel」を選択します。
- 5 匿名デスクトップで有効な *UID* の中から、ポータルの匿名配備のためのデフォルトユーザー DN を設定します。  
ポータルユーザーがモバイルデバイスを使用して「エンタープライズサンプル」匿名モバイルデスクトップにアクセスできるようにするには、デフォルトユーザー DN を「*anonymousenterprise*」に設定します。

### ▼ ログイン成功時の URL を変更する

- 1 Access Manager コンソールにログインします。
- 2 「サービス設定」タブを選択します。
- 3 「認証モジュール」の下で「コア」をクリックします。

- 4 ログイン成功時に返すデフォルトの URL を「/portal/dt」に編集します。

## Mobile Access ソフトウェア

この節では、Mobile Access ソフトウェアの次の機能を理解し、これらの機能により Portal Server ソフトウェアの機能を拡張する方法について説明します。

### ポータルデスクトップ

ポータルサイトでは、標準のポータルデスクトップに加えてモバイルポータルデスクトップが提供されます。それらのデスクトップは、Mobile Access ソフトウェアのコンポーネントであるワイヤレスデスクトップディスプレイパッチャーによって制御されます。Portal Server デスクトップサブレットによって、ワイヤレスデスクトップディスプレイパッチャーに要求が転送されます。ワイヤレスデスクトップディスプレイパッチャーでは、ディスプレイプロファイル設定データを使用して、ユーザー要求の配信先として適切なポータルデスクトップ(標準またはモバイル)が決定されます。ユーザーのポータルサイトへのアクセス方法にかかわらず、ポータルデスクトップはユーザーのポータルサイトのインタフェースになります。

デフォルトでは、次のチャンネルをモバイルポータルデスクトップ上でデフォルトで利用および表示できます。

- ユーザー情報
- ブックマーク
- 個人ノート

モバイルポータルデスクトップの詳細については、171 ページの「モバイルポータルデスクトップの管理」を参照してください。

### クライアントタイプ

Mobile Access ソフトウェアは、市販されているほとんどすべてのモバイル機器をサポートしています。各モバイル機器(クライアント)は、クライアントプロファイルを使用して識別されます。機器のブラウザで使用される機器マークアップ言語に基づいて、クライアントタイプと呼ばれる一意な識別子が各クライアントに割り当てられます。

モバイル機器で使用されるマークアップ言語には、次のようなものがあります。

- HDML (Handheld Device Markup Language)
- cHTML (compact Hypertext Markup Language)
- iHTML (i-mode Hypertext Markup Language)
- JHTML (J-Sky Hypertext Markup Language)
- XHTML (Extensible Hypertext Markup Language)

- WML(Wireless Markup Language)
- VoiceXML (Voice eXtensible Markup Language) および HTML (Hypertext Markup Language)

ユーザーはこれらのマークアップ言語のいずれかを使用する任意のモバイル機器でポータルコンテンツにアクセスできますが、Mobile Access ソフトウェアでは、Nokia 6310i クライアント用の WML サポートおよび Handspring Treo 180 クライアント用の cHTML サポートが検証されています。

クライアントプロファイルの管理には、Access Manager の管理コンソールの一部である「クライアントマネージャー」が使用されます。モバイルクライアントタイプおよび機器の検出の詳細については、第 2 章を参照してください。

## Mobile Access 認証モジュール

Mobile Access ソフトウェアでは、Portal Server ソフトウェアによって提供される認証モジュールのサポートに加え、ユーザーに次のことを許可することも可能です。

- モバイルポータルデスクトップへのログイン時にパスワードプロンプトを省略する。
- 匿名ユーザーとしてログインする。

これらの認証モジュールの使用については、[169 ページの「モバイル認証の設定」](#)を参照してください。

## チャンネル、コンテナ、プロバイダ

Mobile Access ソフトウェアでは、プロバイダ、チャンネル、およびコンテナを使用して、コンテンツをモバイルポータルデスクトップに表示します。

この節では、次の事項に関する情報を示します。

- [154 ページの「チャンネル」](#)
- [154 ページの「コンテナチャンネル」](#)
- [155 ページの「プロバイダ」](#)

### チャンネル

チャンネルによって、コンテンツがモバイルポータルデスクトップに表示されます。チャンネルは、プロバイダオブジェクト、設定、およびチャンネルをサポートするために必要なデータファイル(テンプレートなど)から構成されています。

### コンテナチャンネル

コンテナ(コンテナチャンネル)は、ほかのチャンネルのコンテンツを集めることにより、コンテンツをモバイルポータルデスクトップに表示するチャンネルです。Mobile Access ソフトウェアを使用すると、Portal Server ソフトウェアに含まれているコンテナチャンネルに次のデフォルトコンテナチャンネルが追加されます。

- JSPNativeContainer
- WirelessDesktopDispatcher

## プロバイダ

プロバイダは、モバイルポータルデスクトップ上でユーザーにチャンネルコンテンツを提供するための基盤の実装です。プロバイダは、汎用リソースのインタフェースを適合させます。

プロバイダのコンテンツソースには、次のものが含まれます。

- ファイル内のコンテンツ
- アプリケーションからの出力
- サービスからの出力

プロバイダは、モバイル機器のタイプごとに適切な形式でコンテンツを配信する Java クラスファイルです。モバイルポータルデスクトップが作成されると、関連するチャンネルのコンテンツについて各プロバイダにクエリーが実行されます。

次の新しいプロバイダがデフォルトコンテナに追加されます。

- WirelessDesktopDispatcherProvider
- WirelessJSPDesktopProvider

モバイルポータルデスクトップを設定するためのチャンネル、コンテナ、およびプロバイダの使用については、[171 ページの「モバイルポータルデスクトップの管理」](#)を参照してください。

# モバイル機器の管理

Sun Java System Portal Server Mobile Access 7.1 ソフトウェアでは、Sun Java System Access Manager クライアントディテクションモジュールを使用して、ポータルサイトのユーザーがポータルサイトへのアクセスに使用するさまざまなクライアント、つまりモバイル機器を識別および管理します。

この節では、次のトピックに関する情報を示します。

- [156 ページの「クライアントディテクションの理解」](#)
- [157 ページの「クライアントデータベースの管理」](#)
- [157 ページの「「クライアントマネージャー」の使用」](#)
- [161 ページの「クライアントタイプデータの管理」](#)

## クライアントディテクションの理解

クライアントディテクションは、ポータルサイトへのアクセスに使用される各モバイル機器の機能および特徴を確認します。これを実行するために、CC/PP (Composite Capability and Preference Profiles) 仕様、UAProf、または事前設定データが使用されます。Mobile Access ソフトウェアでは、各クライアントに対して次の3つのプロパティが定義されている必要があります。それらを次に示します。

- `clientType` — クライアントデータの固有のインデックスを提供する名前。Nokia 6310i 携帯電話の `clientType` の値は、`Nokia6310i_1.0` です。
- `parentId` — 機器の直接の親の ID (親がないオブジェクトの場合、値は `clientType` と同じ)。Nokia 6310i 携帯電話の `parentId` の値は、`Nokia` です。
- `userAgent` — HTTP ユーザーエージェント文字列。ベースおよびスタイル情報の場合は、この値を空にすることができます。Nokia 6310i 携帯電話の `userAgent` の値は、`Nokia6310/1.0` です。

また、Mobile Access ソフトウェアでは、クライアントタイプの特定のプロパティ値の保存および取得に条件プロパティが使用されます。たとえば、`desktopContainer` 条件プロパティがこれに該当します。ワイヤレスデスクトップディスプレイパッチャーは、このプロパティを読み取って、要求されたクライアントタイプのデスクトップコンテナを決定します。

Mobile Access ソフトウェアは、クライアントタイプデータをファイル `/var/opt/SUNWam/config/ldif/sunAMClient_data.ldif` から LDAP ディレクトリにインポートし、Access Manager ソフトウェアの API を使用して `clientType` プロパティの一致を識別します。一致は、次の順序で決定されます。

1. 完全一致
2. 部分一致
3. キーワード一致

ベースプロファイルに対して、UAProf プロファイルを動的に適用することもできます。ユーザーは `FEDIClientDetector` を保持し、次のいずれかを行う必要があります。

- 選択した Mobile Access システムから、一般のインターネットまたは選択したハンドセットベンダーサイトへのアクセスを許可するようにファイアウォールを設定する
- 一般のインターネットまたは選択したハンドセットベンダーサイトへのアクセスを、プロキシサーバーを使用してアクセスするように Mobile Access システムの JVM を設定する
- Mobile Access システムにアクセス可能な内部 Web サーバー上に UAProf プロファイル (RDF ファイル) を発行し、すべての UAProf 要求を受け付ける一般のインターネットの代わりに内部 Web サーバーを使用するように Mobile Access システム上で DNS を設定する

---

注—一般のインターネットに選択的にアクセスするようにプロキシサーバーを設定する

JVMには、Web コンテナからの外部プロキシを使用した外部接続のために、プロキシサーバーの詳細を指定するオプションが用意されています。JVMでは、指定されたプロキシを使用しないホストを指定することもできます。一般のインターネットへのアクセスにプロキシサーバーを使用するように、Mobile Access システム JVM を設定できます。

Web コンテナで次の JVM オプションを使用します。

```
Dhttp.proxyHost=your-proxy-server-host
```

```
Dhttp.proxyPort=your-proxy-server-port
```

特定のドメインまたはホストのプロキシサーバーを回避するには、次のオプションを使用します。Dhttp.nonProxyHosts="*\*. domain-name | hostname | localhost*"

---

## クライアントデータベースの管理

クライアントデータは、次の2つの場所に保存されます。

- すべてのデフォルトクライアントデータ定義が含まれた内部ライブラリまたはデータベース。内部ライブラリは、Access Manager ソフトウェアによって定義およびサポートされます。
- カスタマイズされたクライアントデータ定義が含まれた外部ライブラリ。このライブラリのデータは、内部ライブラリ内のクライアントデータよりも優先されます。

Mobile Access ソフトウェアをインストールすると、すべてのクライアントデータは内部ライブラリに保存されます。デバイスをカスタマイズすると、デバイスの優先バージョンが作成され、外部ライブラリに保存されます。これらのライブラリのデータは、サーバーの起動時にマージされます。

## 「クライアントマネージャー」の使用

Access Manager 管理コンソールには、モバイル機器のプロパティを管理するために使用できる「クライアントマネージャー」が用意されています。

この節では、「クライアントマネージャー」によって提供される、クライアントタイプに関する次の情報について説明します。

この節では、クライアントタイプを作成およびカスタマイズする方法についても説明します。

## マークアップ言語

Mobile Access ソフトウェアは、モバイルクライアントブラウザで使用される次のマークアップ言語をサポートしています。

- HDML (Handheld Device Markup Language) — Openwave ブラウザを使用するモバイル機器用の Openwave の専用言語。Openwave の Handheld Device Transport Protocol (HDTP) を使用します。このカテゴリの機器には、RIM 950 および UP.Browser 3.0 以前を使用する機器などが含まれます。
- JHTML (J-Sky Hypertext Markup Language) — 日本語 J-Sky 機器向けの Vodafone の独自言語。このカテゴリの機器には、J-Phone 2.0、J-Phone 3.0、Mitsubishi V101D などが含まれます。
- WML (Wireless Markup Language) — XML (eXtensible Markup Language) をベースとしており、WAP (Wireless Application Protocol) の一部です。このカテゴリの機器には、Motorola i95、Nokia 6310i、および Siemens S40 などが含まれます。
- XHTML (Extensible Hypertext Markup Language) — HTML 4.0 を再定義した言語であり、新しい要素を追加したり新しい属性を定義したりすることによって誰もが拡張できます。このカテゴリの機器には、Motorola T720、Nokia 3560、Sony Ericsson T68 などが含まれます。
- cHTML (compact Hypertext Markup Language) — HTML (Hypertext Markup Language) をモバイル機器向けに簡素化したバージョン。このカテゴリの機器には、Handspring Treo 180、Palm i705 Handheld、Toshiba e400 シリーズなどが含まれます。
- iHTML (inline Hypertext Markup Language) — NTT DoCoMo の日本語 i-mode サービスに使用されるマークアップ言語。この言語は cHTML と似ていますが、独自の拡張機能が用意されています。このカテゴリの機器には、NTT DoCoMo の電話などが含まれます。

## スタイル

スタイルは、マークアップ言語の関連機器グループのプロパティセットです。たとえば、Nokia スタイルは、Nokia で製造されるすべての WML 機器に適用されます。

各マークアップ言語に1つ以上の「スタイル」が存在します。マークアップ言語によっては複数のスタイルを持つ場合もあります。

「スタイル」プロパティを無効にすることはできません。新しいデバイスを作成するときに既存のクライアントを新しいデバイスのテンプレートとして使用する場合、新しいクライアントは既存のクライアントの「スタイル」プロパティを継承します。

## デバイス情報

デバイス情報は機器固有のクライアントタイプデータであり、更新が可能です。

デフォルトクライアントタイプのデバイス情報を変更する場合は、デフォルトクライアントタイプの新しいバージョンを別個に作成します。このカスタム情報は外部ライブラリに保存されますが、デフォルトデバイス情報は内部ライブラリに残されます。各カスタム機器のクライアントタイプ名には、内部ライブラリ内の機器と区別するために、2つのアスタリスクが付加されます。

## フィルタオプション

フィルタオプションは、特定のスタイルに割り当てられた特定のクライアントタイプのグループを検索および一覧表示するために使用できる検索フィールドです。

## クライアントエディタ

クライアントエディタでは、クライアントタイプの作成およびカスタマイズと、クライアントプロパティの管理を実行できます。

クライアントエディタでは、プロパティは次のグループにまとめられます。

- 一般
- ハードウェアプラットフォーム
- ソフトウェアプラットフォーム
- Network Characteristics
- Browser UA
- WapCharacteristics
- PushCharacteristicsNames
- 追加プロパティ

## ▼ 「クライアントマネージャー」を起動する

- 1 **Access Manager** 管理コンソールに管理者としてログインします。デフォルトでは、上部の水平フレームの「ヘッダー」フレームで「アイデンティティ管理」が表示され、左側の垂直フレームの「ナビゲーション」フレームで「組織」が表示されます。
- 2 「サービス設定」タブをクリックします。
- 3 左側の「サービス設定」フレームで、「**Access Manager** 設定」ヘッダーの下にある「クライアントディテクション」の矢印をクリックします。「クライアントディテクション」のグローバル設定が右側の「データ」フレームに表示されます。
- 4 「クライアントタイプ」ラベルに続く「編集」リンクをクリックします。「クライアントマネージャー」のインタフェースが表示されます。デフォルトでは、**HTML** デバイスの詳細が表示されます。

## ▼ スタイルプロパティを表示する

- 1 **Access Manager** 管理コンソールに管理者としてログインします。デフォルトでは、上部の水平フレームの「ヘッダー」フレームで「アイデンティティ管理」が表示され、左側の垂直フレームの「ナビゲーション」フレームで「組織」が表示されます。
- 2 「サービス設定」タブをクリックします。
- 3 左側の「サービス設定」フレームで、「**Access Manager** 設定」ヘッダーの下にある「クライアントディテクション」の矢印をクリックします。「クライアントディテクション」のグローバル設定が右側の「データ」フレームに表示されます。
- 4 「クライアントタイプ」ラベルに続く「編集」リンクをクリックします。「クライアントマネージャー」のインターフェースが表示されます。デフォルトでは、**HTML** デバイスの詳細が表示されます。
- 5 最上部のタブから、プロパティを表示するデバイスのマークアップ言語（「**WML**」など）をクリックします。選択したマークアップ言語を使用するクライアントタイプがデータベースにある場合は、それらのクライアントタイプがアルファベット順で表示されます。
- 6 「スタイル」プルダウンメニューから、目的のスタイル（「**Nokia**」など）を選択します。選択したスタイルについて、データベースにすでに存在するクライアントタイプのリストが表示されます。
- 7 「現在のスタイルのプロパティ」リンクをクリックします。スタイルの編集ページが表示されます。デフォルトでは、「一般」プロパティのスタイルが表示されます。
- 8 「プロパティ」プルダウンメニューから、表示するプロパティタイプ（「ソフトウェアプラットフォーム」など）をクリックします。

---

注-プロパティタイプには、「一般」、「ハードウェアプラットフォーム」、「ソフトウェアプラットフォーム」、「Network Characteristics」、「Browser UA」、「WapCharacteristics」、「PushCharacteristicsNames」、および「追加プロパティ」があります。

---

- 9 「クライアントマネージャー」ページに戻るには、「取消し」をクリックします。

## クライアントタイプデータの管理

クライアントタイプデータを管理するには、管理コンソールで「クライアントマネージャー」を使用します。

クライアントタイププロパティーの変更、新しいデバイスに対応した新しいクライアントタイプの作成、サイトに合わせてカスタマイズされる名前やその他のプロパティーを持つクライアントタイプの設定、および、カスタムのクライアントタイプの削除を実行できます。

既存のデバイスをベースにして新しいデバイスを作成する(このプロセスを継承と呼びます)ことを選択する場合、新しいデバイスのベースとして、既存のデバイスのスタイルまたはプロパティーのどちらかを指定する必要があります。新しいデバイスと既存のデバイスを調べて、より適したオプション(スタイルまたはプロパティー)を決定します。どちらを選択する場合でも、デバイス定義をカスタマイズする必要があります。

---

注-クライアントタイプデータベースは、内部ライブラリと外部ライブラリから構成されています。内部ライブラリのデフォルトクライアントタイプ情報を変更したり、この情報にデータを追加したりすると、更新されたデータは外部ライブラリに保存されます。クライアントタイプ名に追加された2つのアスタリスクは、カスタマイズされたクライアントタイプであることを示しています。

---

この節では、次の手順について説明します。

- 161 ページの「クライアントタイプを編集する」
- 163 ページの「スタイルを継承した新しいデバイスを作成する」
- 164 ページの「プロパティーを継承した新しいデバイスを作成する」
- 166 ページの「カスタムデバイスを削除する」
- 167 ページの「ポータルユーザーが選択したクライアントタイプを Portal Server コンソールから識別する」

### ▼ クライアントタイプを編集する

- 1 **Access Manager** 管理コンソールに管理者としてログインします。デフォルトでは、上部の水平フレームの「ヘッダー」フレームで「アイデンティティ管理」が表示され、左側の垂直フレームの「ナビゲーション」フレームで「組織」が表示されます。
- 2 「サービス設定」タブをクリックします。
- 3 左側の「サービス設定」フレームで、「**Access Manager** 設定」ヘッダーの下にある「クライアントディテクション」の矢印をクリックします。「クライアントディテクション」のグローバル設定が右側の「データ」フレームに表示されます。

- 4 「クライアントタイプ」ラベルに続く「編集」リンクをクリックします。「クライアントマネージャー」のインタフェースが表示されます。デフォルトでは、HTMLデバイスの詳細が表示されます。
- 5 最上部のタブから、編集するデバイスのマークアップ言語(「WML」など)をクリックします。選択したマークアップ言語を使用するクライアントタイプがデータベースにある場合は、それらのクライアントタイプがアルファベット順で表示されます。
- 6 「スタイル」プルダウンメニューから、目的のスタイル(「Nokia」など)を選択します。選択したスタイルについて、データベースにすでに存在するクライアントタイプのリストが表示されます。
- 7 「クライアントタイプ」リストで、スクロールダウンして、編集するクライアント(「Nokia6310i\_1.0」など)を見つけます。  
クライアントはアルファベット順に表示されます。
- 8 特定のクライアントタイプまたはクライアントタイプのグループに直接移動するには、「フィルタ」オプションを使用します。「フィルタ」テキストボックスに、表示するクライアントタイプの最初の文字または最初の数文字を入力して、「フィルタ」ボタンをクリックします。(例:Sで始まるクライアントタイプを検索するには、「S\*」と入力する。)
- 9 特定のページに移動するには、一番下までスクロールし、矢印または「ジャンプ」オプションを使用します。
- 10 編集するクライアントの「アクション」列にある「編集」リンクをクリックします。クライアントタイプの編集ページが表示されます。デフォルトでは、「一般」プロパティが表示されます。
- 11 「プロパティ」プルダウンメニューから、変更するプロパティのタイプ(「ソフトウェアプラットフォーム」など)を選択します。
- 12 変更するプロパティごとに値を変更または追加します。

---

ヒント-変更を消去して最初からやり直すには、「リセット」をクリックします。変更しないで、クライアントタイプの表示に戻るには、「取消し」をクリックします。

---

- 13 「保存」をクリックして、これらの変更を反映します。  
「保存」をクリックしないと、変更内容は反映されません。プロパティタイプは一度に1つずつ変更し、別のプロパティタイプを変更する前にそれらの変更内容を保存する必要があります。

このデバイスのプロパティが変更され、このスタイルのクライアントタイプのリストが表示されます。

- 14 プロパティが変更されていることを確認するには、「クライアントタイプ」リストでクライアントタイプを検索します。クライアントタイプ名に追加された2つのアスタリスクは、このクライアントタイプがカスタマイズされていることを示しています。

---

注-デフォルトクライアントタイプを変更すると、「デフォルト」リンクが「アクション」列に追加されます。「デフォルト」リンクのリンク先は、内部ライブラリです。

変更内容を削除して、クライアントタイプのプロパティをデフォルト値にリセットするには、このリンクをクリックします。この操作を実行するかどうかを確認するプロンプトは表示されません。

---

## ▼ スタイルを継承した新しいデバイスを作成する

- 1 **Access Manager** 管理コンソールに管理者としてログインします。デフォルトでは、上部の水平フレームの「ヘッダー」フレームで「アイデンティティ管理」が表示され、左側の垂直フレームの「ナビゲーション」フレームで「組織」が表示されます。
- 2 「サービス設定」タブをクリックします。
- 3 左側の「サービス設定」フレームで、「**Access Manager** 設定」ヘッダーの下にある「クライアントディテクション」の矢印をクリックします。「クライアントディテクション」のグローバル設定が右側の「データ」フレームに表示されます。
- 4 「クライアントタイプ」ラベルに続く「編集」リンクをクリックします。「クライアントマネージャー」のインタフェースが表示されます。デフォルトでは、**HTML** デバイスの詳細が表示されます。
- 5 最上部のタブから、設定するデバイスのマークアップ言語（「**WML**」など）をクリックします。選択したマークアップ言語を使用するクライアントタイプがデータベースにある場合は、それらのクライアントタイプがアルファベット順で表示されます。
- 6 「スタイル」プルダウンメニューから、目的のスタイル（「**Nokia**」など）を選択します。選択したスタイルについて、データベースにすでに存在するクライアントタイプのリストが表示されます。
- 7 「新規デバイス」ボタンをクリックして、「新規デバイスを作成」ページを表示します。

- 8 「デバイスユーザーエージェント」の値を入力します。
- 9 「次へ」をクリックします。入力した「デバイスユーザーエージェント」の値が「クライアントタイプ名」および「HTTPユーザーエージェント文字列」フィールドに表示されます。  
必要な場合は、これらの値を変更します。
- 10 「OK」をクリックして、これらのプロパティを保存します。新しいデバイスが定義され、スタイルの編集ページが表示されます。このページには、割り当てた親スタイルから継承されたデフォルトプロパティが表示されます。
- 11 「プロパティ」プルダウンメニューから、変更するプロパティタイプ(「ソフトウェアプラットフォーム」など)を選択します。

---

注-プロパティタイプには、「一般」、「ハードウェアプラットフォーム」、「ソフトウェアプラットフォーム」、「Network Characteristics」、「Browser UA」、「WapCharacteristics」、「PushCharacteristicsNames」、および「追加プロパティ」があります。

---

- 12 「保存」をクリックして、これらの値に加えた変更を保存します。

---

ヒント-変更を消去して最初からやり直すには、「リセット」をクリックします。変更しないで、クライアントタイプの表示に戻るには、「取消し」をクリックします。

---

- 13 「クライアントタイプ」リストを検索して、作成したクライアントタイプが利用できることを確認します。クライアントタイプ名に追加された2つのアスタリスクは、このクライアントタイプがカスタマイズされていることを示しています。

---

注-クライアントタイプを追加すると、「削除」リンクが「アクション」列に追加されます。「削除」リンクのリンク先は、外部ライブラリです。

---

- 14 追加したクライアントタイプを削除するには、このリンクをクリックします。この操作を実行するかどうかを確認するプロンプトは表示されません。

## ▼ プロパティを継承した新しいデバイスを作成する

- 1 **Access Manager** 管理コンソールに管理者としてログインします。デフォルトでは、「ヘッダー」フレームで「アイデンティティ管理」が選択され、「ナビゲーション」フレームで「組織」が選択されます。
- 2 「サービス設定」タブをクリックします。

- 3 左側の「サービス設定」フレームで、「Access Manager 設定」ヘッダーの下にある「クライアントディテクション」の矢印をクリックします。「クライアントディテクション」のグローバル設定が右側の「データ」フレームに表示されます。
- 4 「クライアントタイプ」ラベルに続く「編集」リンクをクリックします。「クライアントマネージャー」のインタフェースが表示されます。デフォルトでは、HTML デバイスの詳細が表示されます。
- 5 最上部のタブから、コピーするデバイスのマークアップ言語(「WML」など)をクリックします。選択したマークアップ言語を使用するクライアントタイプがデータベースにある場合は、それらのクライアントタイプがアルファベット順で表示されます。
- 6 「スタイル」プルダウンメニューから、目的のデフォルトスタイル(「Nokia」など)を選択します。選択したスタイルについて、データベースにすでに存在するクライアントタイプのリストが表示されます。
- 7 「クライアントタイプ」リストで、スクロールダウンして、新しいクライアントタイプのテンプレートとして使用する特定のクライアント(「Nokia6310i\_1.0」など)を見つけます。

---

ヒント-クライアントはアルファベット順に表示されます。

---

- 8 特定のクライアントタイプまたはクライアントタイプのグループに直接移動するには、「フィルタ」オプションを使用します。「フィルタ」テキストボックスに、表示するクライアントタイプの最初の文字または最初の数文字を入力して、「フィルタ」ボタンをクリックします。(例:Sで始まるクライアントタイプを検索するには、「S\*」と入力する。)
- 9 特定のページに直接移動するには、一番下までスクロールし、矢印または「ジャンプ」オプションを使用します。
- 10 新しいクライアントタイプのテンプレートとして使用するクライアントタイプの「アクション」列で「複製」リンクをクリックします。「デバイスを複製」ページが表示されます。コピーしているデバイスの「クライアントタイプ」および「デバイスユーザーエージェント」プロパティが表示され、デバイスの名前にプレフィックス Copy\_of\_ が追加されます。(たとえば、Copy\_of\_Nokia6310i\_1.0)
- 11 必要な場合は、これらのプロパティの新しい名前を入力します。
- 12 「複製」をクリックして、これらの変更を反映します。クライアントタイプの編集ページが表示されます。デフォルトでは、「一般」プロパティが表示されます。ここで表示されるすべてのプロパティの値は、この新しいクライアントタイプのマスターとして使用したクライアントタイプから継承されます。

---

ヒント-変更しないで、クライアントタイプの表示に戻るには、「取消し」をクリックします。「プロパティ」プルダウンメニューから、変更するプロパティのタイプ(「ソフトウェアプラットフォーム」など)を選択します。

---

- 13 変更するプロパティごとに値を変更または追加します。

---

ヒント-値を消去して最初からやり直すには、「リセット」をクリックします。変更しないで、クライアントタイプの表示に戻るには、「取消し」をクリックします。

---

- 14 「保存」をクリックして、これらの変更を反映します。

---

注-「保存」をクリックしないと、変更内容は反映されません。プロパティタイプは一度に1つずつ変更し、別のプロパティタイプを変更する前にそれらの変更内容を保存する必要があります。このデバイスのプロパティが変更され、このスタイルのクライアントタイプのリストが表示されます。

---

- 15 「クライアントタイプ」リストを検索して、クライアントタイプの複製が利用できることを確認します。クライアントタイプ名に追加された2つのアスタリスクは、このクライアントタイプがカスタマイズされていることを示しています。(たとえば、**Copy\_of\_Nokia6310i\_1.0\*\***)

---

注-クライアントタイプを追加すると、「削除」リンクが「アクション」列に追加されます。「削除」リンクのリンク先は、外部ライブラリです。

---

- 16 追加したクライアントタイプを削除するには、このリンクをクリックします。この操作を実行するかどうかを確認するプロンプトは表示されません。

## ▼ カスタムデバイスを削除する

カスタムデバイスを間違えて設定したときに、設定を変更したくない場合は、次の手順を使用してデバイスを完全に削除することができます。

- 1 **Access Manager** 管理コンソールに管理者としてログインします。デフォルトでは、上部の水平フレームの「ヘッダー」フレームで「アイデンティティ管理」が表示され、左側の垂直フレームの「ナビゲーション」フレームで「組織」が表示されます。
- 2 「サービス設定」タブをクリックします。
- 3 左側の「サービス設定」フレームで、「**Access Manager** 設定」ヘッダーの下にある「クライアントディテクション」の矢印をクリックします。「クライアントディテクション」のグローバル設定が右側の「データ」フレームに表示されます。

- 4 「クライアントタイプ」ラベルに続く「編集」リンクをクリックします。「クライアントマネージャー」のインタフェースが表示されます。デフォルトでは、HTMLデバイスの詳細が表示されます。
- 5 最上部のタブから、削除するデバイスのマークアップ言語(「WML」など)をクリックします。選択したマークアップ言語を使用するクライアントタイプがデータベースにある場合は、それらのクライアントタイプがアルファベット順で表示されます。
- 6 「スタイル」プルダウンメニューから、目的のスタイル(「Nokia」など)を選択します。選択したスタイルについて、データベースにすでに存在するクライアントタイプのリストが表示されます。
- 7 「クライアントタイプ」リストで、スクロールダウンして、削除するカスタムクライアント(「Copy\_of\_Nokia6310i\_1.0」など)を見つけます。

---

ヒント-クライアントはアルファベット順に表示されます。

---

- 8 特定のクライアントタイプまたはクライアントタイプのグループに直接移動するには、「フィルタ」オプションを使用します。「フィルタ」テキストボックスに、表示するクライアントタイプの最初の文字または最初の数文字を入力して、「フィルタ」ボタンをクリックします。(例:Sで始まるクライアントタイプを検索するには、「S\*」と入力する。)
- 9 特定のページに直接移動するには、一番下までスクロールし、矢印または「ジャンプ」オプションを使用します。
- 10 削除するカスタムクライアントの「アクション」列にある「削除」リンクをクリックします。このスタイルのクライアントタイプの変更されたリストが表示されます。
- 11 「クライアントタイプ」リストを検索して、削除したクライアントタイプが利用できなくなっていることを確認します。

#### ▼ ポータルユーザーが選択したクライアントタイプを Portal Server コンソールから識別する

- 1 Portal Server 管理コンソールに管理者としてログインします。デフォルトでは、「共通タスク」タブが選択され、「共通管理タスク」ページが表示されます。
- 2 「ポータル」タブをクリックします。「ポータル」ページが表示されます。利用可能なポータルが「ポータル」テーブルに表示されます。

- 3 管理するポータルの名前をクリックします。「デスクトップのタスクと属性」ページが表示されます。このページには、**Portal Server** デスクトップのタスクおよび属性のうち編集可能なものが一覧表示されます。
- 4 「DN を選択」オプションから、「**username (ユーザー) DN**」を選択します。  
「**username (ユーザー) DN**」オプションが利用できない場合、「DN を選択」リストにこの DN を追加する必要があります。次の手順に従って、「**username (ユーザー) DN**」を追加します。
  - a. 「DN の追加」ボタンをクリックします。「DN リストに追加」ウィンドウが表示されます。
  - b. 「検索」オプションから「ユーザー」オプションを選択します。
  - c. 「ユーザー」オプションの後ろにあるテキストボックスにユーザー名を入力します。
  - d. 「検索」をクリックします。ユーザー名が利用可能な場合、その名前が「検索結果」テーブルに表示されます。
  - e. 追加するユーザー名の前にあるチェックボックスを選択して「追加」をクリックします。「**username (ユーザー) DN**」が「DN を選択」オプションに追加されます。
- 5 「作業」リストから「コンテナとチャネルを管理」をクリックします。「コンテナ & チャネルを管理:ポータル名」ページが表示されます。このページでは、利用可能な「表示タイプ」が左フレームに、選択した「表示タイプ」のプロパティが右フレームに表示されます。
- 6 「表示タイプ」オプションから「**WirelessDesktopDispatcher**」オプションを選択します。**WirelessDesktopDispatcher** のタスクおよびプロパティが右フレームに表示されます。
- 7 「プロパティ」テーブルで、**selectedClients** プロパティの前にあるチェックボックスを選択します。
- 8 クライアントタイプおよびロケール設定を変更する必要がある場合、「テーブルの設定」ボタンをクリックします。クライアントタイプの設定はポータルのクライアントタイプを設定するために必要であり、ロケールの設定は言語属性を設定するために必要です。  
「プロパティ」テーブルの最上部に「テーブルの設定」ボックスが表示されます。

- 9 「クライアントタイプ」および「ロケール」フィールドに、適切なクライアントタイプおよびロケール情報を入力します。
- 10 「了解」をクリックします。
- 11 「保存」をクリックします。  
クライアントタイプに追加されます。

## モバイル認証の設定

Portal Server Mobile Access ソフトウェアは、Sun Java System Portal Server ソフトウェアによって提供される認証モジュールをサポートします。この章では、モバイルアクセスを提供するポータルサイトに使用できる、次の3つの認証モジュールについて説明します。

- 169 ページの「NoPassword 認証」
- 170 ページの「匿名認証」
- 171 ページの「MSISDN 認証」

### NoPassword 認証

サイトの仕様でこの認証を必要とする場合は、ユーザー ID の入力を求めることなく、ユーザーにモバイルポータルデスクトップへのログインを許可することができます。

#### ▼ Access Manager コンソールから NoPassword モジュールを有効にするには

- 1 Sun Java System Access Manager 管理コンソールに、管理者としてログインします。デフォルトでは、「アクセス制御」タブが選択され、「レルム」ページが表示されます。「レルム」テーブルで、利用可能な「レルム名」を確認できます。
- 2 たとえば、India レルムをクリックします。「india のプロパティ」ページが表示され、india レルムの「レルム属性」がその下に一覧表示されます。
- 3 「認証」タブをクリックします。「india の認証」プロパティが表示されます。「モジュールインスタンス」テーブルで、「NoPasswordModule」インスタンスが利用可能かどうかを確認します。
- 4 「認証連鎖」テーブルで「IdapService」認証連鎖をクリックします。「IdapService プロパティ」ページが表示されます。利用可能なインスタンスが表示されます。

---

注-IldapServiceが「デフォルト認証連鎖」または「管理者認証連鎖」として存在しない場合、NoPassword認証は実行されません。NoPassword認証が必要な場合、それぞれの設定済み認証チェーンにNoPasswordを追加します。「デフォルト認証連鎖」については、それぞれの設定済み認証チェーンにNoPasswordを追加します。デフォルトのインストールシナリオでは、両方がIldapService用に設定されます。

---

- 5 **NoPassword** インスタンスを選択します。
- 6 「追加」ボタンをクリックします。**NoPassword** インスタンスが「インスタンス」リストに追加されます。
- 7 「保存」ボタンをクリックします。認証チェーンのプロパティが更新されたことが表示されます。
- 8 「ログアウト」ボタンをクリックします。
- 9 **Sun Java System Access Manager** 管理コンソールにもう一度ログインを試みます。このサーバーで**NoPassword** 認証を使用するというメッセージが表示されます。

## 匿名認証

認証されたユーザーになるとサイトをどのように利用できるかを知ってもらうために、ユーザーにポータルサイトにアクセスさせたい場合は、モバイルポータルデスクトップへの匿名ユーザーとしてのログインを許可することができます。この機能では、認証されたセッションでモバイルポータルデスクトップおよび音声ポータルデスクトップのスナップショットをユーザーに公開します。

---

注-匿名ユーザーは、ステートフルデータが含まれるチャンネルのコンテンツや設定を変更、保存、または修正することはできません。匿名認証をサポートする場合は、匿名ユーザーがこれらのチャンネルを利用できないことを確認してください。

---

匿名実装の実装方法については、『Sun Java System Portal Server 7.1 管理ガイド』を参照してください。

匿名認証用のポータルデスクトップでは、JavaServer Pages (JSP) ソフトウェアとテンプレートの両方に対して、デバイス固有のコンテナのほかにWirelessDesktopDispatcherが使用されます。これらのコンテナには、認証されたユーザーの場合と同様に、匿名ユーザーに表示されるすべてのチャンネルが含まれている必要があります。

- ▼ 匿名ユーザーに対してクライアント固有のモバイルポータルデスクトップまたは音声ポータルデスクトップが必要になる可能性がある新しいデバイスをサポートするには、次の手順に従います。

- 1 適切なデバイス固有コンテナを作成します。
- 2 匿名ユーザーのディスプレイプロファイルで、その特定のデバイスタイプに対して新しいコンテナを使用するように **WirelessDesktopDispatcher** を変更します。

## MSISDN 認証

MSISDN (Mobile Station ISDN) を使用した認証を行うように、組織のユーザーを設定できます。MSISDN は、特定の利用者を識別するために使用される標準の国際電話番号です。これにより、ユーザーは認証資格情報を渡さなくてもモバイルポータルデスクトップにログインできるようになります。この機能ではログイン URL の形式が制限されます。推奨される URL 形式は次のとおりです。

`http://access-manager-host: port/service-deploy-URI/UI/Login?module-MSISDN&org-name`

MSISDN 認証の実装および設定方法については、『Sun Java System Access Manager 7 2005Q4 管理ガイド』を参照してください。

# モバイルポータルデスクトップの管理

Portal Server Mobile Access ソフトウェアでは、Portal Server 管理コンソールを使用してモバイルポータルデスクトップを管理します。

---

注- この章で提供される情報を理解し、モバイルポータルデスクトップを管理するためには、Portal Server 管理コンソールについての知識が必要です。

---

この節では、次の項目について説明します。

- 171 ページの「ワイヤレスデスクトップディスパッチャーの理解」
- 172 ページの「ワイヤレスデスクトップディスパッチャーのプロパティー」
- 173 ページの「条件プロパティー」
- 174 ページの「チャンネルの状態プロパティー」

## ワイヤレスデスクトップディスパッチャーの理解

Mobile Access ソフトウェアをインストールすると、Portal Server サイトでモバイルポータルデスクトップおよび標準ポータルデスクトップが提供されます。ユーザーが Portal Server にログインするときに、ワイヤレスデスクトップディスパッチャー

(Mobile Access ソフトウェアのコンポーネント)では、ユーザー要求の配信先として適切なポータルデスクトップが決定されます。ワイヤレスデスクトップディスプレイパッチャーでは、XML形式のディスプレイプロファイル設定を使用して、ユーザー要求の配信先として適切なポータルデスクトップ(標準またはモバイル)が決定されます。

ワイヤレスデスクトップディスプレイパッチャーは、次の処理を行います。

- デスクトップ要求のクライアントタイプを決定する
- ディスプレイプロファイル設定を使用してクライアントを適切なコンテナに一致させる
- 要求を適切なコンテナに配信する

モバイルポータルデスクトップのデフォルトチャネルは、WirelessDesktopDispatcherです。特定のデバイスのほかのコンテナをサポートするには、Portal Server 7.2 管理コンソールから WirelessDesktopDispatcher コンテナを編集するための手順に従います。

## ▼ Portal Server 7.2 管理コンソールで親コンテナを編集する

- 1 Portal Server 7.2 管理コンソールに管理者としてログインします。
- 2 「ポータル」タブをクリックします。利用可能なポータルが表示されます。
- 3 管理するポータルの名前をクリックします。
- 4 「DNを選択」ドロップダウンリストから「組織」オプションを選択します。「デスクトップのタスクと属性」ページが表示されます。「デスクトップ属性」では「親コンテナ」属性が利用可能です。選択したDNのディスプレイプロファイルの最上位コンテナの値が「親コンテナ」テキストボックスに表示されます。
- 5 特定のデバイスのほかのコンテナをサポートするように、「親コンテナ」テキストボックスの値を編集します。
- 6 「保存」をクリックします。

## ワイヤレスデスクトップディスプレイパッチャーのプロパティー

この節では、WirelessDesktopDispatcher コンテナに対して一覧表示されるプロパティーについて説明します。

ワイヤレスデスクトップディスプレイパッチャーのプロパティーには、次のものがあります。

- `desktopContainer` — `desktopContainer` プロパティは、モバイル機器を適切なコンテナにマッピングします。このマッピングによって、要求の配信方法が識別されます。デフォルトでは、ネイティブコンテンツを表示するデバイス (WML を使用する Nokia 製の機器など) からの HTTP 要求は、`JSPNativeContainer` に配信されません。
- `selectedClients` — `selectedClients` プロパティは、ポータルサイトへのアクセスに使用されるモバイル機器を追跡します。ユーザーが新しいデバイスを使用してポータルサイトにアクセスすると、そのデバイスのクライアントタイプが `selectedClients` プロパティのコレクションに追加されます。

このプロパティは、標準ポータルデスクトップの「モバイルデバイス」編集ページにデバイスのリストを表示するためにも使用されます。各ユーザーは、他のデバイスでモバイルポータルデスクトップにログインすることにより、使用しているデバイスを表示し、リストに簡単に追加することができます。

## ▼ **WirelessDesktopDispatcher** コンテナのプロパティページに移動する

- 1 **Portal Server 7.1** 管理コンソールに管理者としてログインします。「共通管理タスク」ページが表示されます。
- 2 「設定」で、「チャンネルおよびコンテナを管理」ボタンをクリックします。「データコレクション」ポップアップウィンドウが表示されます。
- 3 「ポータルを選択」ドロップダウンリストから、管理するポータルを選択します。
- 4 「DNを選択」ドロップダウンリストから **DN** を選択します。
- 5 「了解」をクリックします。**WirelessDesktopDispatcher** コンテナのタスクとプロパティが右フレームに一覧表示されます。このページで、これらのプロパティの値を変更できます。
- 6 「`editContainerName`」テキストボックスで、適切なデバイスに合わせて値を編集します。

## 条件プロパティ

管理者は、クライアントタイプの条件プロパティを使用して、クライアントタイプに固有のチャンネルまたはコンテナチャンネルのプロパティを指定することができます。クライアントデータと同様に、クライアントタイプの条件プロパティも階層型にすることができます。

条件プロパティの構文は、`client=clientType` です。たとえば、`client=WML` は、WML クライアントタイプの条件プロパティの名前です。

たとえば、クライアントタイプ `client=WML` の条件プロパティには、`WirelessDesktopDispatcher` の `desktopContainer` プロパティがあります。

Nokia デバイスのデフォルト `desktopContainer` プロパティの階層表現は、次のようになります。

`client=Nokia` → `desktopContainer=JSPNativeContainer`

ただし、Nokia クライアントスタイルによって定義された WML クライアントのサブセットでは、別の `desktopContainer` 定義が使用されます。これらのクライアントでは、`JSPNativeContainer` が使用されます。

## チャンネルの状態プロパティ

これらのプロパティは、ともに `JSPNativeContainer` へのチャンネルの状態を示します。これにより、エンドユーザーはチャンネルのコンテンツをインラインで読み込まずに、チャンネルのタイトルバーのみをモバイルポータルデスクトップに表示することができます。

---

注- 標準ポータルデスクトップでは、チャンネルにボタンを提供してユーザーがチャンネルのコンテンツを最小化または最大化できるようにすることができます。ただしこれは、モバイルポータルデスクトップでは現在サポートされていません。

---

これらのプロパティには次のものが含まれます。

- `defaultChannelIsMinimizable` および `defaultChannelIsMaximizable` これらのプロパティは、標準ポータルデスクトップで、ユーザーのモバイルデバイス編集ページに「チャンネルをデスクトップに読み込む」チェックボックスが表示されるかどうかを決定します。これらのプロパティのデフォルト値は、`true` です。したがって、チェックボックスは表示されます。どちらかのプロパティが `false` の場合、チェックボックスは表示されません。

---

注- 「表示するチャンネル」をデスクトップチェックボックス付きで表示するには、両方の値が `true` である必要があります。どちらかが `false` の場合、チェックボックスは表示されません。

---

- `defaultChannelIsMinimized` このプロパティは、標準ポータルデスクトップで、ユーザーのモバイルデバイス編集ページ上の「チャンネルをデスクトップに読み込む」チェックボックスにチェックマークを付けるかどうかを決定します。このプロパティのデフォルト値は、`true` です。したがって、チェックボックスに

チェックマークは付かず、コンテナ内のすべてのチャンネルは最小化されたウィンドウ状態になります。このプロパティが `false` に設定されている場合、チェックボックスにチェックマークが付き、コンテナ内のすべてのチャンネルは通常のウィンドウ状態になります。



パート II

## デスクトップの設計

- 第13章デスクトップテーマとレイアウトの管理
- 第14章ページレイアウトの設計
- 第15章タブの管理とカスタマイズ
- 第16章チャンネルの管理とカスタマイズ
- 第17章Google ガジェット統合の管理



# ◆◆◆ 13

## 第 13 章

# デスクトップテーマとレイアウトの管理

---

Portal Server 管理コンソールに含まれるデスクトップ設計ツール (DDT) は、新しいデスクトップを作成したり、既存のデスクトップを編集したりするための使いやすい GUI を提供します。この章で説明する内容は次のとおりです。

- 179 ページの「デスクトップ設計ツールの概要」
- 180 ページの「デスクトップ設計ツールを使用したデスクトップのカスタマイズ」
- 183 ページの「デスクトップ設計ツールへのアクセス」

## デスクトップ設計ツールの概要

ここで説明する内容は、次のとおりです。

- 179 ページの「DDT の配備環境」
- 180 ページの「サンドボックス組織とは」
- 180 ページの「DDT を使用してできること」

## DDT の配備環境

デスクトップ設計ツールは、2 とおりの配備状況に対応します。

- 白紙状態から作業を開始する
- コンテナとチャンネルがすでに含まれているノードから作業を開始する

白紙状態から開始する場合、識別ノード (DN) にあらかじめデスクトップサービスが割り当てられている必要があります。新しいノードを作成してデスクトップサービスをそのノードに割り当てたあとで、Portal Server 管理コンソールから新しいノードを選択し、デスクトップ設計ツールのリンクをクリックすることができます。「タイトルなし」という名前のタブがこのノード内に自動的に作成され、このタブ上で作業を開始できます。

## サンドボックス組織とは

サンドボックスサンプルをインストールする場合、サンドボックス組織がインストーラによって作成されます。また、サンドボックス組織の下にデスクトップユーザー `sandbox` が作成されます。`sandbox` は、ユーザー `sandbox` のパスワードです。この組織を使用して、デスクトップの構築を開始できます。サンドボックス組織には1つのメインタブがあり、このメインタブの下に2つのサブタブがあります。レイアウトへのポートレットの追加を開始できます。ユーザー `sandbox` としてログインすると、デスクトップ設計ツールを使用して構築した実際のデスクトップを表示できます。

サンドボックス組織 DN を利用することで、新しい組織やユーザーを個別に作成する必要なしに、デスクトップ設計ツールで新しいデスクトップをすばやく作成できます。

## DDT を使用してできること

デスクトップ設計ツールでは、デスクトップレイアウトを作成または編集したあとで、そのレイアウトにテーマを適用できます。デスクトップ設計ツールは大きく2つの領域に分けることができます。レイアウトとテーマです。デスクトップ設計ツールを使用すると、ディスプレイプロファイルドキュメントが読み込まれていない DN を作業対象として選択し、完全に新規のデスクトップを作成することができます。デフォルトテーマ (Look & Feel) が使用されますが、デスクトップの共通タスク領域から「テーマの管理」リンクを使用して別のテーマに切り替えることができます。

デスクトップ設計ツールで新しいデスクトップを作成するとき、デスクトップタイプの値は `theme_support` です。白紙状態から開始して新しい組織を作成するとき、デスクトップタイプは `default` であり、親コンテナは `DefaultChannel` です。デスクトップ設計ツールを使用して新しい組織を設計したあと、デスクトップタイプはデフォルトになり、親コンテナは `DefaultJSPTabContainer` に変更されます。

## デスクトップ設計ツールを使用したデスクトップのカスタマイズ

DDT を使用すると、ポータル内のページのレイアウトと、ポータルページ上で使用されるテーマをカスタマイズできます。

## デスクトップ設計ツールのレイアウト

デスクトップ設計ツールのレイアウトでは、次の作業が可能です。

- タブとサブタブを作成、編集、および削除する。
- タブ位置を並べ替える。
- デスクトプレイアウトを選択または変更する。
- デスクトップ上のチャンネルを追加および削除する。
- デスクトプレイアウトの内部でチャンネルの位置を変更する(上下左右に移動する)。
- チャンネルまたはコンテナのプロパティを編集する。
- チャンネルをエンドユーザーに表示可能または表示不可に設定する。
- チャンネルのツールバープロパティを編集する。

## デスクトップ設計ツールのテーマ

デスクトップ設計ツールのテーマの特徴と、テーマに対して実行できる作業は次のとおりです。

- CSS スタイルシートに基づく。
- ポータルデスクトップに対して配備済みのテーマの一覧からテーマを選択する。
- テーマの WAR ファイル(スキンファイル)をアップロードし、Portal Server に配備する。
- 特定のポータルデスクトップを対象に、テーマの削除またはテーマプロパティの編集を行う。
- テーマの WAR ファイルをダウンロードし、Sun Java™ System Portal Server のビューデザイナーを使用してテーマの CSS プロパティを変更する。

Designview ホームページは、<https://designview.dev.java.net/> から参照できません。

Portal Server ソフトウェアには、default と heavy の 2 つのテーマが含まれています。これらのテーマはそれぞれ、配備後の WEB\_CONTAINER/portal/desktop/themes/lite ディレクトリと WEB\_CONTAINER/portal/desktop/themes/heavy ディレクトリに収められています。デフォルトでは、default テーマはサンドボックスサンプルポータルによって、heavy テーマはエンタープライズサンプルポータルによって使用されます。

テーマの CSS ファイルは、Web コンテナ内でポータル Web アプリケーションまたは個別のテーマ Web アプリケーションのどちらかに格納されます。Web アプリケーションでのファイル構造は次のとおりです。

```
WEB_APPLICATION_BASE_DIR/portal/desktop/themes/  
THEME_NAME/css/style.css  
テーマのスタイルシート
```

`WEB_APPLICATION_BASE_DIR/desktop/themes/`

`THEME_NAME/images/IMAGE_FILES`

スタイルシートで使用される画像ファイル

`WEB_CONTAINER/portal/desktop/themes/ THEME_NAME/Template.html`

Web デザイナーが (Dreamweaver を使用して) カスタマイズ可能なテンプレート

`WEB_CONTAINER/portal/desktop/themes//js/scripts.js`

JavaScript

---

注 - default テーマと heavy テーマで使用されるすべての JavaScript は

`WEB_CONTAINER/portal/desktop/themes/js/scripts.js` ファイルに格納されており、このファイルからさらに

`WEB_CONTAINER/portal/desktop/themes/js/scripts.js/portalMenuHandler.js` ファイルが読み込まれます。

---

---

注 - `WEB_CONTAINER` は、Solaris の場合

`/opt/SUNWappserver/appserver/domains/domain1/applications/j2ee-modules/`、

Linux の場合 `/opt/sun/appserver/domains/domain1/applications/j2ee-modules/` です。

---

default テーマと heavy テーマのそれぞれに関連付けられたコレクションが、ディスプレイプロファイルの AvailableThemes コレクション内に存在します。

```
<Collection name="AvailableThemes" propagate="false">
  <Collection name="default" propagate="false">
    <String name="contextPath" value="desktop/themes/ lite"/>
    <Boolean name="editable" value="false"/>
    <Boolean name="insidePortalWar" value="true"/>
    <Boolean name="portletControlMenu" value="true"/>
  </Collection>
  <Collection name="heavy" propagate="false">
    <String name="contextPath" value="desktop/themes/ heavy"/>
    <Boolean name="editable" value="false"/>
    <Boolean name="insidePortalWar" value="true"/>
    <Boolean name="portletControlMenu" value="false"/>
  </Collection>
</Collection>
```

# デスクトップ設計ツールへのアクセス

デスクトップ設計ツールには、Portal Server 管理コンソールから次のいずれかの方法でアクセスできます。

## ▼ デスクトップ設計ツールのリンクからデスクトップ設計ツールにアクセスする

- 1 Portal Server 管理コンソールにログインします。

Portal Server 管理コンソールのログインページを開くには、ブラウザで次の URL を入力します。http://server:port/psconsole

- 2 「共通管理タスク」タブの下にある「デスクトップレイアウトの設計」リンクを選択します。
- 3 ポータルおよび DN を選択します。
- 4 「了解」をクリックします。

ポータルのデスクトップレイアウトを設計するためのページが表示されます。最上部の区画には、選択した DN と、タブまたはサブタブの追加、編集、移動、削除を行うためのタブアクションツールバーが表示されます。右区画には、選択したデスクトップに追加できるチャンネルのライブラリが表示されます。左区画の作業領域では、デスクトップ上でどのように表示されるかを確認しながらタブおよびチャンネルを設計できます。

## ▼ 「ポータル」タブからデスクトップ設計ツールにアクセスする

- 1 Portal Server 管理コンソールにログインします。

Portal Server 管理コンソールのログインページを開くには、ブラウザで次の URL を入力します。http://server:port/psconsole

- 2 「ポータル」タブを選択します。
- 3 「ポータル」テーブルからポータルを選択します。
- 4 「共通タスク」領域から「デスクトップレイアウトの設計」リンクを選択します。



# ページレイアウトの設計

---

デスクトップ設計ツールを使用して、ページ内の列のレイアウトを指定できます。すべてのチャンネルには幅を指定することができます。幅には「狭い」と「広い」の2種類があります。狭いチャンネルと広いチャンネルのすべてがコンテンツに集約され、選択したページレイアウトに従って表示されます。

## デスクトップ設計ツールのレイアウトの使用

この節では、次の手順について説明します。

- [185 ページの「デスクトップのページレイアウトを変更する」](#)

### ▼ デスクトップのページレイアウトを変更する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールで、作成または編集するデスクトップに対する「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスします。  
「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスする方法については、「Portal Server 管理コンソールでデスクトップ設計ツールにアクセスする」の手順を参照してください。
- 2 ページレイアウトを変更する (作業領域内の) タブを選択します。  
レイアウトを変更するには、階層が1つのタブを選択する必要があります。サブタブを含むタブにはレイアウトが含まれないため、そのようなタブのレイアウトは変更できません。
- 3 「レイアウトの変更」をクリックします。  
選択できるレイアウトのページが表示されます。
- 4 タブのレイアウトアイコンを選択します。

デフォルトでは、次のページレイアウトが使用可能です。

- 狭い-広い、広い-狭い、狭い-広い-狭い
- 上部全体-狭い-広い、上部全体-広い-狭い、上部全体-狭い-広い-狭い
- 狭い-広い-下部全体、広い-狭い-下部全体、狭い-広い-狭い-下部全体
- 上部全体-狭い-広い-下部全体、上部全体-広い-狭い-下部全体、上部全体-狭い-広い-狭い-下部全体

5 「了解」をクリックします。

タブに対して選択したページレイアウトが表示されます。

# タブの管理とカスタマイズ

---

タブを使用して、デスクトップ上の情報を分類することができます。タブは Web ページです。最上位の各タブは、複数の入れ子のタブを持つことができます。デスクトップでタブが表示される順序は、ディスプレイプロファイルでタブが定義されている順序と同じです。したがって、あるタブをユーザーのデスクトップ内の先頭のタブにするには、ディスプレイプロファイル内で選択したリストの先頭にそのタブを移動する必要があります。

## タブの管理

この節では、次のタスクを実行する方法について説明します。

- 187 ページの「タブを追加する」
- 188 ページの「サブタブを追加する」
- 189 ページの「タブを編集する」
- 189 ページの「タブを削除する」
- 190 ページの「タブを移動する」

### ▼ タブを追加する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールで、作成または編集するデスクトップに対する「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスします。  
「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスする方法については、「Portal Server 管理コンソールでデスクトップ設計ツールにアクセスする」の手順を参照してください。
- 2 「タブの追加」ボタンをクリックします。  
タブを追加するためのページが表示されます。

- 3 対応するラジオボタンを選択して、このタブがサブタブを持つかどうかを指定します。
- 4 「ページのタイトル」テキストボックスにタブのタイトルを指定します。  
ここで指定するタイトルは、デスクトップ上で表示されるタブの名前です。
- 5 「コンテナ名」テキストボックスにタブのコンテナ名を指定します。  
これは、Portal Server ソフトウェアがこのタブを識別するために使用する名前です。  
ここで指定する名前は(手順4で指定した)タブのタイトルと同じでもかまいませんが、それぞれの名前は一意である必要があります。
- 6 ページでエンドユーザーに対して **AJAX** を有効にするかどうかを指定します。

---

注-

タブで Ajax を有効にすると、次の機能を使用できるようになります。

- ページ上のチャンネルおよびポートレットをドラッグアンドドロップ操作で配置する
- チャンネルコンテナコントロールに対して、最小化、削除、最大化などの非同期対話操作を行う
- ページ全体を更新することなく、個別のチャンネルおよびポートレットを単独で更新する
- ページ全体を更新することなく、チャンネルおよびポートレットをインラインで編集する
- チャンネルを簡単に追加および削除する

- 7 「完了」をクリックします。  
作業領域内でタブがデスクトップに追加されます。

## ▼ サブタブを追加する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールで、作成または編集するデスクトップに対する「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスします。  
「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスする方法については、「Portal Server 管理コンソールでデスクトップ設計ツールにアクセスする」の手順を参照してください。
- 2 サブタブを作成する対象のメインタブをクリックします。  
メインタブでサブタブの使用を許可する必要があります。

- 3 「タブの追加」 ボタンをクリックします。  
サブタブを追加するためのページが表示されます。
- 4 「タブタイトル」 テキストボックスでタブのタイトルを指定します。  
ここで指定するタイトルは、デスクトップ上で表示されるタブの名前です。
- 5 「コンテナ名」 テキストボックスにタブのコンテナ名を指定します。  
これは、Portal Server ソフトウェアがこのタブを識別するために使用する名前です。  
ここで指定する名前は(手順3で指定した)タブのタイトルと同じでもかまいません  
が、それぞれの名前は一意である必要があります。
- 6 対応するラジオボタンを選択して、このタブで **AJAX** を有効にするかどうかを指定します。
- 7 「追加」 をクリックします。  
作業領域で、デスクトップ上のメインタブの内部にサブタブが追加されます。

## ▼ タブを編集する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールで、作成または編集するデスクトップに対する「デスクトップレイアウトの設計」 ページにアクセスします。  
「デスクトップレイアウトの設計」 ページにアクセスする方法については、「Portal Server 管理コンソールでデスクトップ設計ツールにアクセスする」の手順を参照してください。
- 2 編集するタブをクリックします。
- 3 「タブアクション」 メニュー内の「タブの編集」 ボタンをクリックします。  
編集可能なタブのプロパティのページが表示されます。
- 4 変更を行ったあとで「閉じる」 をクリックします。

## ▼ タブを削除する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールで、作成または編集するデスクトップに対する「デスクトップレイアウトの設計」 ページにアクセスします。  
「デスクトップレイアウトの設計」 ページにアクセスする方法については、「Portal Server 管理コンソールでデスクトップ設計ツールにアクセスする」の手順を参照してください。

- 2 作業領域で、削除するタブをクリックします。
- 3 「タブアクション」メニュー内の「タブの削除」アイコンをクリックします。  
タブを削除するためのページが表示されます。
- 4 タブを削除するには、「削除」ボタンをクリックしてタブの削除を確認します。  
作業領域でデスクトップからタブが削除されます。

## ▼ タブを移動する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールで、作成または編集するデスクトップに対する「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスします。  
「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスする方法については、「Portal Server 管理コンソールでデスクトップ設計ツールにアクセスする」の手順を参照してください。
- 2 作業領域で、移動するタブをクリックします。
- 3 次をクリックします。  
タブを左へ移動    タブを左に移動します。  
タブを右へ移動    タブを右に移動します。  
タブの移動は作業領域で確認できます。

## タブを使用したコンテンツの分類

- [190 ページの「タブを開始タブにする」](#)

## ▼ タブを開始タブにする

「開始タブ」は、ユーザーが最初にログインしたときに強調されているタブのことです。

- 1 **Portal Server** 管理コンソールで、作成または編集するデスクトップに対する「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスします。  
「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスする方法については、「Portal Server 管理コンソールでデスクトップ設計ツールにアクセスする」の手順を参照してください。

- 2 開始タブにするタブをクリックします。
- 3 「タブアクション」メニュー内の「タブの編集」ボタンをクリックします。  
編集可能なタブのプロパティのページが表示されます。
- 4 startTab プロパティを、ユーザーがログインしたときに強調するタブに変更します。  
たとえば、サンドボックスサンプルの場合、デフォルトの値はTab1/SubTab1 です。
- 5 変更を行ったあとで「閉じる」をクリックします。



# チャンネルの管理とカスタマイズ

---

この章では、デスクトップ設計レイアウトを使ってチャンネルを管理およびカスタマイズする方法について説明します。

---

注 - Instant Messenger チャンネルを構成する場合は、<http://wiki.java.net/bin/view/OpenPortal/ConfigureIMPortlet72> を参照できます。

---

## チャンネルの管理

- 193 ページの「チャンネルを移動する」
- 194 ページの「チャンネルを削除する」
- 194 ページの「チャンネルを追加する」
- 195 ページの「チャンネルを設定する」
- 195 ページの「チャンネルツールバーのプロパティを設定する」
- 196 ページの「チャンネルをユーザーに表示可能または表示不可に設定する」

### ▼ チャンネルを移動する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールで、作成または編集するデスクトップに対する「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスします。  
「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスする方法については、「Portal Server 管理コンソールでデスクトップ設計ツールにアクセスする」の手順を参照してください。
- 2 作業領域で、移動するチャンネルが配置されているタブを選択します。
- 3 「チャンネル」タイトルバーで、次のものを選択します。

- |                      |   |
|----------------------|---|
| 「上へ」または「下へ」アイコン      | デスクトップ上でチャンネルを上下に移動します。   |
| 左 (<) または 右 (>) アイコン | デスクトップ上でチャンネルを左右に移動します。狭いチャンネルを広い列に、また広いチャンネルを狭い列に移動することはできません。ただし、3列レイアウト (狭い-広い-狭い) のデスクトップでは、右または左 (<) アイコンを使用して、狭い列のチャンネルを左または右の狭い列に移動できます。 |

## ▼ チャンネルを削除する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールで、作成または編集するデスクトップに対する「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスします。  
「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスする方法については、「Portal Server 管理コンソールでデスクトップ設計ツールにアクセスする」の手順を参照してください。
- 2 作業領域で、削除するチャンネルが配置されているタブを選択します。
- 3 「チャンネル」タイトルバーで、閉じる (x) アイコンを選択してチャンネルをデスクトップから削除します。

## ▼ チャンネルを追加する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールで、作成または編集するデスクトップに対する「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスします。  
「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスする方法については、「Portal Server 管理コンソールでデスクトップ設計ツールにアクセスする」の手順を参照してください。
- 2 作業領域で、チャンネルの追加先のタブを選択します。
- 3 追加するチャンネルを右区画の「チャンネルライブラリ」から選択します。
- 4 「デスクトップに追加」ボタンをクリックして、作業領域内でチャンネルをデスクトップに追加します。  
ライブラリ領域で選択したチャンネルがライブラリチャンネルの場合、表示されるポップアップウィンドウでチャンネルの名前、タイトル、および幅を指定する必要があります。

あります。選択したチャンネルが、現在のディスプレイプロファイルノードに位置するチャンネルインスタンスの場合、現在選択中のタブにそのチャンネルインスタンスが追加されます。

## ▼ チャンネルを設定する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールで、作成または編集するデスクトップに対する「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスします。  
「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスする方法については、「Portal Server 管理コンソールでデスクトップ設計ツールにアクセスする」の手順を参照してください。
- 2 作業領域で、設定するチャンネルが配置されているタブを選択します。
- 3 チャンネル内の「チャンネルの設定」リンクを選択します。  
ポップアップ表示されたページでチャンネルプロパティを編集します。
- 4 変更を完了したあとで「閉じる」をクリックします。

## ▼ チャンネルツールバーのプロパティを設定する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールで、作成または編集するデスクトップに対する「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスします。  
「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスする方法については、「Portal Server 管理コンソールでデスクトップ設計ツールにアクセスする」の手順を参照してください。
- 2 作業領域で、チャンネルが配置されているタブを選択します。
- 3 「チャンネル」ウィンドウ内の「ツールバープロパティの設定」リンクを選択します。  
チャンネルツールバーのプロパティを変更するためのページがポップアップ表示されます。このページでは、そのチャンネルが配置されているタブに関して、チャンネルツールバーおよび表示のプロパティ（最小化可能、最大化可能、移動可能、削除可能など）を変更できます。
- 4 「保存」をクリックして値を保存します。
- 5 「閉じる」をクリックしてポップアップウィンドウを閉じます。

## ▼ チャンネルをユーザーに表示可能または表示不可に設定する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールで、作成または編集するデスクトップに対する「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスします。  
「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスする方法については、「Portal Server 管理コンソールでデスクトップ設計ツールにアクセスする」の手順を参照してください。
- 2 作業領域で、チャンネルが配置されているタブを選択します。
- 3 次の各リンクを選択します。  
チャンネルを次に変更: 表示不可      チャンネルを表示不可に設定します。  
チャンネルを次に変更: 表示可能      ユーザーのデスクトップでチャンネルを表示可能に設定します。

## ユーザー定義タブへのチャンネルの追加

「タブ」リンク、「新しいタブ」リンクの順にクリックすることにより、ユーザーは各自のデスクトップに新しいタブを追加できます。ユーザーが完全に新規のタブを作成することを選択したときのコンテンツページに表示されるチャンネル一覧は、JSPTabCustomTableContainer の「使用可能」リストから取得されます。

## チャンネルを使用したデスクトップへのコンテンツの追加

ポータル管理者は、プロバイダチャンネルおよびポートレットチャンネルを追加することによって、ポータルデスクトップにコンテンツを追加できます。次の各手順では、チャンネルの作成、チャンネルのプロパティの変更、作成したチャンネルのデスクトップへの追加、および、追加したチャンネルの表示確認を行う方法について説明します。

## ▼ URLScraper チャンネルを作成する

(<http://www.google.com> などの) 外部 Web ページからのコンテンツを表示する、MyChannel という名前のチャンネルを作成すると仮定します。次の手順では、URLScraper チャンネルを作成する方法を示します。同じ手順に従うことで、プロバイダベースおよびポートレットベースのその他のチャンネルを作成できます。

TBD

- 1 **Portal Server** 管理コンソールに管理者 (amadmin) としてログインします。
- 2 「ポータル」タブをクリックします。
- 3 「ポータル」リスト内の *Portal-URI* をクリックします。
- 4 「DN を選択」リストで「EnterpriseSample [組織]」を選択します。
- 5 「デスクトップレイアウトの設計」をクリックします。
- 6 新しいチャンネルの作成先のタブを選択します。たとえば、「News」タブをクリックします。
- 7 「NewsContainer」ページで「新規チャンネル」または「コンテナ」をクリックします。
- 8 「チャンネルライブラリ」リストで「URLScrapper」を選択します。
- 9 「チャンネルライブラリ」で「デスクトップに追加」をクリックします。ポップアップウィンドウが表示されます。次の情報を入力します。
  - a. チャンネルのタイトルを指定します。
  - b. チャンネル名を指定します。
  - c. チャンネルの幅を指定します。
- 10 「チャンネルの追加」をクリックします。作業領域でチャンネルが使用可能および表示状態になります。

## チャンネル更新時間とコンテナキャッシュのカスタマイズ

`refreshTime` プロパティは、チャンネルのコンテンツが再読み込みされる頻度を制御します。コンテナの `refreshTime` を 0 (デフォルト) に設定すると、ブラウザの更新 (再読み込み) 時にページの再読み込みが行われ、すべてのチャンネルに対して `getContent()` メソッドが再度呼び出されます。

次の記述は単一のチャンネルに適用されます。

- チャンネルはHTMLのテーブルのセルであるため、コンテナの内部で単一チャンネルのコンテンツのみを更新することはできません。
- PAPIの`DesktopURL()`メソッドを使用できます。プロバイダは`getDesktopURL()`を使用して、デスクトップサープレットのURLを取得し、URLに引数を付加し、新しいURL(またはリンク)を生成することができます。

次の記述は、コンテナキャッシュの制御および設定に適用されます。

- コンテナの`refreshTime`プロパティは、コンテナ内部の個別チャンネルの`refreshTime`とともに使用します。
- コンテナの`refreshTime`が空の場合、その時間は、コンテナに含まれるチャンネルのすべてに対して最小の時間になるように計算されます。その計算された時間をオーバーライドする場合、コンテナの`refreshTime`を設定すると、コンテナ全体のコンテンツがキャッシュされるようになります。

---

注-多数のチャンネルがある場合は、キャッシュされたコンテンツをポータルページが使用できるように、`refreshTime`の値を大きく設定することによってプロバイダのキャッシュ処理を利用します。これは、チャンネルのコンテンツのほとんどが静的な場合に効果を発揮します。`refreshTime`の効果に関しては、コンテナの`refreshTime`を設定した場合、コンテナではその時間が使用されます。`refreshTime`を空の文字列に設定した場合、コンテナに選択されたチャンネルの`refreshTime`のうち最も小さいものを取得して使用することがコンテナで試みられます。

---

## ウィンドウ設定のカスタマイズ

別のブラウザを起動するリンクを含むチャンネルに関して、そのブラウザウィンドウを開く方法を制御できます。

### ▼ チャンネルのウィンドウ設定をカスタマイズする

- 1 `windowPref`プロパティが含まれるようにディスプレイプロファイルを定義します。そのチャンネルのみに対して変更を行うにはチャンネルのディスプレイプロファイルを、そのプロバイダを使用するすべてのチャンネルに対して変更を行うにはプロバイダのディスプレイプロファイルを定義します。

次に例を示します。

```
<Properties>
...
  <String name="windowPref" value="all_new"/>
```

```
...  
</Properties>
```

---

注 -

value に設定する値は次のとおりです。

- all\_new (すべてのリンクに対して新規のウィンドウを開く)
- one\_new (すべてのリンクを同じ新規ウィンドウに開く)
- same (デスクトップウィンドウ)

- 
- 2 psadmin サブコマンドまたは **Portal Server** 管理コンソールを使用して、ディスプレイプロファイルを **LDAP** に読み込みます。

---

注 - 特定のチャンネルに対する表示ロジックは JavaScript を利用して記述する必要があります。

---

## ▼ Portal Server 管理コンソールを使用してチャンネルのウィンドウ設定をカスタマイズする

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインし、windowPref を変更する対象のユーザー、組織、またはロールを選択します。
- 2 「チャンネルおよびコンテナを管理」を選択し、カスタマイズ対象のチャンネルをクリックします。右フレームで、チャンネルの windowPref プロパティの値を変更します。

設定できる値は次のとおりです。

- all\_new (すべてのリンクに対して新規のウィンドウを開く)
- one\_new (すべてのリンクを同じ新規ウィンドウに開く)
- same (デスクトップウィンドウ)

## ボタンの削除

### ▼ コンテナ内のすべてのチャネルからボタンを削除する

- 1 作業対象のコンテナを探します。サンプルポータルのいずれかに対して作業を行っている場合、最上位コンテナの一部である適切な「従属」コンテナを変更する必要があります。
- 2 削除するボタンについて、次の表に示す適切なプロパティを、(<Properties></Properties> タグで囲んで) コンテナのディスプレイプロファイルに追加します。次の表には、最初の列にはボタン、2列目はボタンを非表示にするためのプロパティがリストされています。

この表内でのボタンの順序は、チャネル内で左から右に向かってボタンが表示される順序(「最小化」、「最大化」、「ヘルプ」、「編集」、「切離し」、および「削除」)に対応します。

ボタン	ボタンを非表示にするためのプロパティ
最小化	<code>&lt;Boolean name="defaultChannelIsMinimizable" value="false"/&gt;</code>
最大化	<code>&lt;Boolean name="defaultChannelIsMaximizable" value="false"/&gt;</code>
ヘルプ	<code>&lt;String name="helpURL" value=""/&gt;</code>
編集	<code>&lt;Boolean name="isEditable" value="false"/&gt;</code>
切離し	<code>&lt;Boolean name="defaultChannelIsDetachable" value="false"/&gt;</code>
削除	<code>&lt;Boolean name="defaultChannelIsRemovable" value="false"/&gt;</code>

注- 「ヘルプ」および「編集」ボタンについては、チャネルごとにそれぞれのプロパティを挿入します。コンテナの<Properties></Properties> タグの内部にプロパティを挿入することはできません。

コンテナで次のプロパティーが定義されていないことを確認します。

```
<Collection name="channelsIsRemovable">..</Collection>
<Collection name="channelsIsMinimizable"/>..</Collection>
<Collection name="channelsIsMaximizable"/>..</Collection>
<Collection name="channelsIsDetachable"/>..</Collection>
```

- 3 psadmin サブコマンドまたは **Portal Server** 管理コンソールを使用して、ディスプレイプロファイルを **LDAP** に読み込みます。

## ▼ **Portal Server** 管理コンソールを使用してコンテナ内のすべてのチャンネルからボタンを削除する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインし、コンテナが定義されているユーザー、組織、またはロールを選択します。
- 2 「チャンネルおよびコンテナを管理」を選択し、対象のコンテナをクリックします。
- 3 DefaultChannelIsMinimizable、DefaultChannelIsMaximizable、helpURL、isEditable、DefaultChannelIsDetachable、およびDefaultChannelsIsRemovableの各プロパティーを false に変更します。
- 4 「保存」を選択して新しい値を保存します。

## ▼ 単一のチャンネルからボタンを削除する

- 1 ボタンを削除するチャンネルについて、そのチャンネルが含まれているコンテナの Collection タグに適切なプロパティーを追加します。削除するボタンについては、「ボタンの削除」を参照してください。次の表には、最初の列にはボタン、2列目はボタンを非表示にするためのプロパティーがリストされています。  
この表内でのボタンの順序は、チャンネル内で左から右に向かってボタンが表示される順序(「最小化」、「最大化」、「ヘルプ」、「編集」、「切離し」、および「削除」)に対応します。

ボタン	ボタンを非表示にするためのプロパティ
最小化	<pre>&lt;Collection name="channelsIsMinimizable"&gt; &lt;Boolean name="channelname" value="false"/&gt; &lt;/Collection&gt;</pre>
最大化	<pre>&lt;Collection name="channelsIsMaximizable"&gt; &lt;Boolean name="channelname" value="false"/&gt; &lt;/Collection&gt;</pre>
切離し	<pre>&lt;Collection name="channelsIsDetachable"&gt; &lt;Boolean name="channelname" value="false"/&gt; &lt;/Collection&gt;</pre>
削除	<pre>&lt;Collection name="channelsIsRemovable"&gt; &lt;Boolean name="channelname" value="false"/&gt; &lt;/Collection&gt;</pre>

- 2 その中のボタンを削除するチャンネルについて、そのチャンネルを制御しているコンテナの「コレクション」タグに適切なプロパティを追加します。  
たとえば、そのコンテナが JSPTabContainer である JSP テーブルコンテナ MyFrontPageTabPanelContainer 内のサンプル JMS チャンネルの「削除」ボタンを非表示にするには、次の XML を使用します。

```
<Container name="MyFrontPageFramePanelContainer" provider="JSPTableContainerProvider">
  <Properties>
    ...
    <Collection name="channelsIsRemovable">
      <Boolean name="SampleJSP" value="false" />
    </Collection>
  </Properties>
  ...
</Container>
```

- 3 psadmin サブコマンドまたは Portal Server 管理コンソールを使用して、ディスプレイプロファイルを LDAP に読み込みます。

## ▼ Portal Server 管理コンソールを使用して単一のチャンネルからボタンを削除する

- 1 Portal Server 管理コンソールにログインし、コンテナが定義されているユーザー、組織、またはロールを選択します。

- 2 「チャンネルおよびコンテナを管理」を選択し、対象のコンテナをクリックします。
- 3 channelsIsMinimizable、channelsIsMaximizable、channelsIsDetachable、および channelsIsRemovable の各プロパティを次のように変更します。
  - a. (channelsIsMinimizableなどの)プロパティを選択して、「プロパティ」テーブルから「新規プロパティ」をクリックします。
  - b. ブール型のプロパティを作成し、そのボタンを非表示にするチャンネル名を指定して、値を false に設定します。
  - c. 手順に従ってウィザードを完了します。  
指定されたチャンネルの「プロパティ」テーブルに、新しいブール型プロパティが(channelsIsMinimizable プロパティなどに対して)追加されていることを確認します。

## チャンネルからのタイトルバーの削除

### ▼ チャンネルからタイトルバーを削除する

- 1 チャンネルが配置されているテーブルコンテナのディスプレイプロファイルに、次の内容を追加します。

```
<Collection name="channelsHasFrame">
<Boolean name="channelname" value="false"/>
</Collection>
```
- 2 psadmin サブコマンドまたは **Portal Server** 管理コンソールを使用して、ディスプレイプロファイルを **LDAP** に読み込みます。

## チャンネル枠の幅と色の変更

GlobalThemes コレクションの borderWidth プロパティおよび borderColor プロパティを変更できます。これにより、テーマについて、チャンネル枠の幅および色がそれぞれ変更されます。ユーザーは変更後に「テーマ」ページからテーマを選択できます。

## ▼ コンテナ内のすべてのチャンネルについて枠の幅および色を変更する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインし、「ポータル」、*portal-URI*、「EnterpriseSample」（「DNを選択」プルダウンメニューから）、および「チャンネルとコンテナを管理」の順に選択します。
- 2 「表示」ドロップダウンメニューで「DPXML ツリー」を選択します。
- 3 「DP\_Root」、「GlobalThemes」、および「SunTheme」を選択します。
- 4 `borderWidth` および `borderColor` の各設定を変更し、保存します。

## チャンネルライブラリの管理

- 204 ページの「新しいライブラリチャンネルを作成する」
- 205 ページの「ライブラリチャンネルのプロパティを編集する」
- 206 ページの「ライブラリチャンネルを削除する」
- 206 ページの「ポートレットを配備する」

## ▼ 新しいライブラリチャンネルを作成する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールで、作成または編集するデスクトップに対する「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスします。  
「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスする方法については、「Portal Server 管理コンソールでデスクトップ設計ツールにアクセスする」の手順を参照してください。
- 2 「チャンネルライブラリ」ツールバーから「新規ライブラリチャンネル」アイコンを選択します。  
新しいチャンネルをライブラリに追加するためのページが表示されます。
- 3 通常のチャンネルまたはライブラリチャンネルのどちらを追加するかを選択します。  
ライブラリチャンネルを作成すると、名前に「\_Library\_」のプレフィックスが付き、チャンネルはグローバルディスプレイプロファイルに保存されます。名前が「\_」で始まるチャンネルは、Portal Server 管理コンソールの「コンテナとチャンネルを管理」リンクからは管理できません。ライブラリチャンネルのプロパティを変更するには、管理コンソール内の「デスクトップレイアウトの設計」リンクを使用します。

- 4 「チャンネルタイプ」を指定します。  
チャンネルタイプはプロバイダベース、JSR 168 準拠ポートレット、またはWSRP リモートポートレットチャンネルから選択できます。
- 5 次の名前を指定します。  
プロバイダ      プロバイダベースのチャンネルの場合。  
ポートレット    JSR 168 または JSR 286 準拠ポートレットの場合。  
プロデューサ    WSRP リモートポートレットチャンネルの場合。
- 6 チャンネルの名前を指定します。  
チャンネル名は一意である必要があります。
- 7 設定内容を確認して「完了」をクリックします。  
結果ページに、チャンネルライブラリに対して新しいチャンネルを作成した結果が表示されます。

## ▼ ライブラリチャンネルのプロパティを編集する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールで、作成または編集するデスクトップに対する「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスします。  
「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスする方法については、「Portal Server 管理コンソールでデスクトップ設計ツールにアクセスする」の手順を参照してください。
- 2 「チャンネルライブラリ」のチャンネル一覧からチャンネルを選択します。
- 3 「チャンネルライブラリ」ツールバーから「編集」アイコンを選択します。  
チャンネルのプロパティを編集するためのページが表示されます。
- 4 ページ内で変更を行って「閉じる」をクリックします。  
チャンネルのプロパティが変更されます。

## ▼ ライブラリチャンネルを削除する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールで、作成または編集するデスクトップに対する「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスします。  
「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスする方法については、「Portal Server 管理コンソールでデスクトップ設計ツールにアクセスする」の手順を参照してください。
- 2 「チャンネルライブラリ」のチャンネル一覧からチャンネルを選択します。
- 3 「チャンネルライブラリ」ツールバーから「削除」アイコンを選択します。  
削除の確認を求めるウィンドウが表示されます。
- 4 「了解」をクリックします。  
「チャンネルライブラリ」の一覧からチャンネルが削除されます。

## ▼ ポートレットを配備する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールで、作成または編集するデスクトップに対する「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスします。  
「デスクトップレイアウトの設計」ページにアクセスする方法については、「Portal Server 管理コンソールでデスクトップ設計ツールにアクセスする」の手順を参照してください。
- 2 「チャンネルライブラリ」ツールバーから「ポートレットを配備」アイコンを選択します。  
ポートレットを配備するためのページが表示されます。
- 3 「ポータルを選択」および「DNを選択」ドロップダウンリストから、ポートレットの配備先のポータルおよびDNを選択します。
- 4 適切なラジオボタンを選択して、ポートレットのWARファイルのパスとポートレットの配備情報を指定します。  
ローカルマシンまたはPortal Server ホスト上のWARファイルを指定できます。ポートレットのWARファイルは必須です。ローカルマシンまたはPortal Server ホスト上のロールおよびユーザーファイルを指定できます。ロールマッピングファイルおよびユーザーマッピングファイルは省略可能です。
- 5 情報を確認して「完了」をクリックします。  
結果ページに、ポートレットの配備結果が表示されます。

## Google ガジェット統合の管理

---

この章では、Google が提供するガジェットの、ユーザーデスクトップへの統合について説明します。

### デスクトップでの Google ガジェットの有効化

Portal Server 管理者は、Google ガジェットリポジトリ内のガジェットをエンドユーザーが各自のデスクトップに追加することを許可できます。この節では、Google ガジェットの機能と、管理者が行う次の手順について説明します。

- 208 ページの「Portal Server 用の Google ガジェット API キーを取得する」
- 208 ページの「ポータルエンドユーザーによる Google ガジェットの設定を許可する」
- 209 ページの「2column コミュニティーに「Google ガジェットの追加」リンクを追加する」

Google ガジェットリポジトリ内のガジェットは、JSR 168 ラッパーポートレットである `googlegadgetportlet.GoogleGadgetPortlet` を利用して実行されます。このポートレットにより、ポータルでのガジェットの実行、設定編集などのページコンテナサービスの使用、タイトルバーのみの表示、全ページ表示、新しいウィンドウへの表示、削除などの処理が可能になります。

---

注-パーソナライズされた Google ホームページ専用に設計されたガジェットや、RSS フィードを表示するガジェットなどの一部のガジェットは、Portal Server と互換性がない場合があります。ガジェットはそのパフォーマンス、品質、または内容についての保証または表明を伴うことなく、Google、他社、またはユーザーによって開発されます。

---

ポータルページ上の Google ガジェットは、JSPTableContainerProvider および AJAXTableContainerProvider に基づくページコンテナに対して、グローバルレベル、組織レベル、ロールレベル、またはユーザーレベルで有効にすることができます。

Google ガジェットリポジトリ内のガジェットをデスクトップで実行することを Portal Server 管理者が許可すると、権限を持つエンドユーザーが次のことを実行できるようになります。

- Google のガジェットリポジトリに収録された数千のガジェットから任意のものを選んでポータルページに追加する  
エンドユーザーが「ガジェットの追加」をクリックすると、次のタスクが発生します。
  - 選択したガジェットをポータルページに追加するための非同期要求が Portal Server に対して行われる
  - サムネイル画像および「ガジェットの追加」ボタンが淡色表示になる。
- ガジェットの幅を選択する。選択肢は「狭い」(デフォルト)または「広い」
- ポータルのチャネル編集インタフェースを使用して Google ガジェットをパーソナライズする
- ポータルページからガジェットを削除する

## ▼ Portal Server 用の Google ガジェット API キーを取得する

ポータルで使用される Google の AJAX Feed API は、動作に Google API キーを必要とします。1つの Google API キーは、1つのドメイン(例: foo.com) およびそのサブドメイン(例: bar.foo.com) で有効です。

- 1 Google の [Google AJAX Feed API](#) 登録ページに移動します。
- 2 「Sign-up for a Google AJAX API key」リンクをクリックします。  
登録ページが表示されます。
- 3 表示された手順に従います。
- 4 「Generate API Key」をクリックします。

## ▼ ポータルエンドユーザーによる Google ガジェットの設定を許可する

エンドユーザーによる Google ガジェットの設定および表示を許可するには、API キープロパティを設定し、「Google ガジェットの追加」リンクを有効化する必要があります。

- 1 管理コンソールにログインします。

- 2 ポータルの「チャンネルおよびコンテナを管理」セクションに移動します。
- 3 Google ガジェット API キー定義を設定します。
  - a. 「TopLevel[グローバル]DN」を選択します。
  - b. 左フレームで「GoogleGadgetContainer」をクリックします。
  - c. 右側のプロパティシートで、apiKey プロパティの値として Google API キーを入力します。
  - d. 変更を保存します。
- 4 「Google ガジェットの追加」リンクを正しく有効化します。
  - a. 次のいずれかに対するページコンテナ編集ページに移動します。
    - ユーザー DN
    - 組織 DN
    - ロール DN
    - グローバル DN
  - b. isGoogleGadgetsEnabled プロパティの値を **true** に設定します。

この設定により、適切なアクセス許可を持つエンドユーザーのポータルページ上に「Google ガジェットの追加」リンクが自動的に表示されます。これらのエンドユーザーは、「Google ガジェットの追加」リンクをクリックして各自のページにガジェットを追加します。

## ▼ 2column コミュニティーに「Google ガジェットの追加」リンクを追加する

- 1 /var/opt/SUNWportal/portals/portal1/communitytemplates/2column 内の XML テンプレートファイル(owner.xml および member.xml)を開きます。
- 2 ブール型のプロパティ *isGoogleGadgetsEnabled* をコンテナの DP (*jsptablecontainerprovider*) に追加し、値を *True* に設定します。



パート III

## 検索サーバーの管理

- 第18章 検索サーバーの管理
- 第19章 検索サーバーロボットの管理



## 検索サーバーの管理

---

この章では、Sun Java™ System Portal Server 検索サーバーの設定方法と管理方法について説明します。

この章で説明する内容は次のとおりです。

- 213 ページの「検索サーバーの概要」
- 215 ページの「検索サーバーの管理」
- 216 ページの「データベースの概要」
- 220 ページの「データベースの管理」
- 222 ページの「レポートの管理」
- 223 ページの「カテゴリの管理」

### 検索サーバーの概要

Portal Server 検索サーバーは、Google および Alta Vista などの一般的なインターネット検索サーバーと同様の検索インタフェースおよびブラウザインタフェースをサポートするために設計された分類およびデータベースサービスです。検索サーバーには、ドキュメントリソースを発見、変換、および要約するロボットが含まれます。Portal Server デスクトップには、JavaServer Pages™ (JSP™) に基づいた検索ユーザーインタフェースが含まれます。検索サーバーには、設定の編集を行うための管理ツールとシステム管理を行うためのコマンド行ツールが含まれます。設定は、Portal Server 管理コンソールを使用して定義および格納できます。

---

注-管理コンソールを使用すると、管理者は検索サーバーオプションの大部分を設定できますが、コマンド行インタフェースから使用できるすべての管理機能を実行できるわけではありません。

---

## 検索データベース

ユーザーは、検索サーバーのデータベースをクエリーして、リソースの場所を特定します。各データベースの個々のエントリーをリソース記述 (RD) と呼びます。リソース記述は、単一のリソースに関するサマリー情報を提供します。データベーススキーマは、各リソース記述のフィールドを決定します。

検索サーバーは、リソース記述メッセージ (RDM) やサマリーオブジェクト交換形式 (SOIF) など、インターネットのオープンスタンダードに基づいているため、クロスプラットフォームのエンタープライズ環境で動作できることが保証されています。

## データベース分類カテゴリ

ユーザーが検索システムと対話する場合、2つの方法があります。クエリーを直接入力してデータベースを検索する方法と、カスタムなカテゴリセットを使用してデータベースコンテンツ経由で参照する方法です。カテゴリの階層構造は「分類」と呼ばれることがあります。リソースの分類は、データベースに目次を作成することにととえることができます。

ブラウズは、検索システムではオプションの機能です。つまり、カテゴリによるブラウズの機能がなくても、検索システムは十分有用なものになります。ユーザーで表示できるカテゴリを追加することがインデックスのユーザーに役立つかどうかを検討する必要があります。また、役立つ場合、作成するカテゴリの種類も検討する必要があります。

検索データベースのリソースは、検索手順を単純にするためにカテゴリに割り当てられます。データベースに多数の項目がある場合には、関連する項目をグループ化すると便利です。そのようにすると、ユーザーは特定の種類の項目をすばやく検索したり、類似する項目と比較したり、目的の項目を選択したりすることができます。

このような分類は製品およびサービスのインデックスに共通です。衣料品のカタログでは、衣類を男性用、女性用、および子供用に分類して、さらに、これらのカテゴリをコート、シャツ、靴などに分類します。オフィス製品カタログの場合、家具は文具、コンピュータ、およびソフトウェアと区別されます。広告ディレクトリは、製品とサービスのカテゴリによって編成されます。

印刷物の索引で項目をカテゴリ別に分類するときの原則は、オンラインインデックスにも当てはまります。この発想では、種類別に検索することが容易になるので、ユーザーは目的のリソースを選択できます。設計するインデックスの適用範囲を問わず、カテゴリを設定する際にもっとも重要なのは使いやすさです。ユーザーがどのようにカテゴリを使用するかを知る必要があります。たとえば、異なる場所に3つの支社を持つ企業のためにインデックスを設計する場合、トップレベルのカテゴリを支社ごとに作成しようとするかもしれません。ユーザーにとって、支社の所在地よりも各部門の機能の方が重要であれば、リソースを部門別に分類することが適切です。

カテゴリを定義すると、カテゴリにリソースを割り当てるためのルールを設定する必要があります。これらのルールを、「分類ルール」と呼びます。分類ルールを適切に定義しないと、ユーザーがカテゴリでブラウズしようとしても、リソースを検索できません。リソースは正しく分類する必要がありますが、同時にドキュメントの分類も適切でなければなりません。

## 検索サーバーの管理

Sun Java System Portal Server は 1 つ以上の検索サーバーをサポートします。

- 215 ページの「検索サーバーを作成する」
- 215 ページの「検索サーバーを削除する」

### ▼ 検索サーバーを作成する

Portal Server のインストール時にデフォルトの検索サーバー (*search1*) が作成されます。新規検索サーバーウィザードを使用して、新しい検索サーバーを作成することもできます。

- 1 32 ページの「管理コンソールにログインする」の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 「検索サーバー」を選択し、メニューバーから「新規」を選択します。  
新しい検索サーバーウィザードが表示されます。
- 3 指示に従い、「完了」をクリックして指定した検索サーバーを作成します。

参考 同等の `psadmin` コマンド

『Sun Java System Portal Server 7.2 Command-Line Reference』の「`psadmin create-search-server`」

### ▼ 検索サーバーを削除する

- 1 32 ページの「管理コンソールにログインする」の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 メニューバーから「検索サーバー」を選択します。
- 3 検索サーバーを選択し、「削除」をクリックします。

## 参考 同等の psadmin コマンド

『Sun Java System Portal Server 7.2 Command-Line Reference』の「psadmin delete-search-server」

# データベースの概要

検索サーバーはデータベースにリソース記述を格納します。検索データベースはドキュメントコレクションのインデックスです。これらは、インデкса(コマンド rdmgr、または検索サーバー自体)によって作成されます。たとえばデフォルトでは、Web サイトとロボットインデックスを巡回し、見つけ出したものをユーザーがデータを検索できるデフォルトの検索データベースにすべて格納するようにロボットをセットアップできます。データやインデックスはほかのデータベースに格納されます。

データベース管理のために行う必要のある設定作業およびメンテナンス作業は次のとおりです。

- 216 ページの「データベースへのインポート」
- 217 ページの「データベーススキーマの編集」
- 218 ページの「スキーマのエリアスの定義」
- 218 ページの「データベース分析の表示」
- 218 ページの「データベースインデックスの再作成」
- 218 ページの「データベースの期限切れ」
- 219 ページの「データベースの破棄」
- 219 ページの「データベースのパーティションの作成」

## データベースへのインポート

通常、検索データベースの項目はロボットから取得します。また、ほかの Portal Server 検索エンジン、iPlanet Web Server や Netscape™ Enterprise Server、または別のソースから生成したデータベースから既存の項目のデータベースをインポートすることもできます。ロボットを使用して新規に作成する代わりに RD の既存データベースをインポートすると、ネットワークトラフィックが減少します。また、大量のインデックス作成作業を分割できるので、より高速にインデックスを作成できます。中央データベースがインデックスを作成するサーバーから物理的に遠くにある場合には、RD をローカルに生成して、中央データベースに各地点のリモートデータベースを定期的にインポートすると便利です。

検索サーバーは、インポートエージェントを使用して、別のサーバーやデータベースから RD をインポートします。「インポートエージェント」は、外部ソースから RD を検出して、ローカルデータベースに情報をマージするプロセスです。

データベースをインポートする前に、インポートエージェントを作成する必要があります。エージェントを作成したら、すぐにインポートプロセスを開始すること、インポートプロセスが定期的に行われるようにスケジュールを設定することもできます。

## データベーススキーマの編集

「スキーマ」は、検索サーバーで管理するリソースごとの情報とその形式を決定します。スキーマの設計によって、インデックスのユーザビリティに影響する次の2つの要因が決まります。

- ユーザーがリソースを検索する方法
- ユーザーがリソース情報を表示する方法

スキーマはデータベースのリソース記述のマスタデータ構造です。データ構造フィールドのインデックス作成方法と定義方法によって、リソースへのアクセス頻度が変わります。

スキーマは、検索サーバーとそのロボットが使用するファイルの構造に密接に結びついています。管理コンソールでスキーマツールを使用して、データ構造だけを変更してください。スキーマファイルは直接編集しないでください。

検索サーバーのデータベーススキーマを編集すると、新規のスキーマ属性の追加、スキーマ属性の変更、あるいは属性の削除ができます。

スキーマには次の属性があります。

- 編集可能: オンの場合、この属性はリソース記述エディタに表示される属性を示すので、ユーザーは値を変更できます。
- インデックス作成可能: この属性はユーザーがこのフィールド内の値を検索できることを示します。インデックス作成可能フィールドは、「詳細検索」画面のポップアップメニューに表示されることもあります。
- 説明: この属性はスキーマの記述に使用するテキスト文字列です。コメントや注釈に使用します。
- エイリアス: この属性は、インポートしたデータベーススキーマ名をユーザー独自のスキーマに変換するためのエイリアスを定義します。
- 乗数のスコア: 特定の要素をスコアリングする重み付けフィールドです。有効値は正の数です。
- データタイプ: データタイプを定義します。

## スキーマのエイリアスの定義

データベーススキーマのフィールド名が互いに矛盾していることがあります。あるサーバーから別のサーバーにリソース記述をインポートするとき、2つのサーバーのスキーマの項目名が同一であることを、常に保証することはできません。同様に、ロボットがHTML <meta> タグをドキュメントからスキーマフィールドに変換するとき、名前はドキュメントによって制御されます。

検索サーバーは、ユーザーのスキーマ属性にスキーマのエイリアスを定義して、外部スキーマ名をデータベースのフィールドに有効な名前にもマッピングできるようにします。

## データベース分析の表示

検索サーバーのレポートには、インデックスを作成したサイトの数、およびデータベースの各サイトのリソースの数などの情報が含まれます。

## データベースインデックスの再作成

スキーマを編集してインデックスフィールドを追加または削除する場合、またはディスクエラーによってインデックスファイルが破損した場合は、検索サーバーが使用するリソース記述データベースのインデックスを再作成する必要があります。また、別の何らかの理由でデータベースのコンテンツとインデックスの間に矛盾が発生すると、再作成が必要となることがあります。たとえば、インデックス作成中にシステム障害が発生した場合です。

大規模なデータベースのインデックスを再作成するのに、数時間を要する場合があります。データベースのインデックスの再作成に要する時間は、データベースに含まれるレコードの数に応じて変わります。大規模なデータベースでは、サーバーの負荷が低い時にインデックスの再作成を行うようにしてください。

## データベースの期限切れ

データベースを「期限切れ」にすると、古くなったリソース記述も削除されます。リソース記述が削除されるのは、期限切れを実行したとき「だけ」です。期限切れのリソース記述が削除されても、データベースのサイズは減少しません。

リソース記述の属性の1つに有効期限があります。ロボットはHTML <meta> タグ、またはリソースのサーバーが提供する情報を基に有効期限を設定します。リソースが有効期限を指定しないかぎり、リソース記述はデフォルトで作成から3か月有効です。検索サーバーで検索データベースから期限切れのリソース記述を定期的に放棄するようにしてください。

---

## データベースの破棄

破棄を実行すると、データベースの中身を削除できます。これによって、インデックス用のディスク領域は回復しますが、メインデータベースのディスク領域は回復できません。これは、この領域が新規のデータをデータベースに追加したときに再利用されるためです。

## データベースのパーティションの作成

検索サーバーを使用すれば、複数のディスク、ファイルシステム、ディレクトリ、またはパーティションにまたがる検索データベースを構成する物理ファイルを配置できます。異なる物理デバイス、または論理デバイスにデータベースを拡張することで、単一のデバイスに使用するよりも大きなデータベースを作成することができます。

デフォルトでは、検索サーバーは1つのディレクトリだけを使用するデータベースを設定します。コマンド行インタフェースを使用すると、データベースパーティションに次の2種類の操作を実行できます。

- 新しいパーティションの追加
- パーティションの移動

検索サーバーは、各パーティションに空き領域があるかどうかを確認しません。データベースに適切な空き領域を確保するのは、ユーザーの作業です。

データベースのパーティションは、合計で最大15個追加できます。

---

注—一度パーティションの数を増やすと、あとでパーティションの数を減らすには、データベース全体を削除する必要があるので注意してください。

ただし、ディスク容量が十分にある場合に限り、パーティションの作成はお勧めしません。

---

データベースパーティションの物理的な場所を変更するには、新しい場所の名前を指定します。同様に、既存のパーティションの名前も変更できます。パーティションを操作するには `rdmgr` コマンドを使用します。 `psadmin` コマンドの詳細については、『Sun Java System Portal Server 7.2 Command Line Reference』を参照してください。

## データベースの管理

データベースを管理するには、次の手順に従います。

- 220 ページの「データベースを作成する」
- 220 ページの「インポートエージェントを作成する」
- 221 ページの「リソース記述を作成する」
- 221 ページの「リソース記述を管理する」

### ▼ データベースを作成する

- 1 32 ページの「[管理コンソールにログインする](#)」の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 「検索サーバー」タブを選択し、検索サーバーを選択します。
- 3 「データベース」をクリックし、メニューバーの「管理」をクリックします。
- 4 「新規」をクリックします。  
「新しいデータベース」ページが表示されます。
- 5 新しいデータベースの名前を入力し、「了解」をクリックします。

参考 同等の psadmin コマンド

『Sun Java System Portal Server 7.2 Command-Line Reference』の「psadmin create-search-database」

### ▼ インポートエージェントを作成する

- 1 32 ページの「[管理コンソールにログインする](#)」の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 「検索サーバー」タブを選択し、検索サーバーを選択します。
- 3 「データベース」をクリックし、メニューバーの「エージェントのインポート」をクリックします。
- 4 「新規」をクリックしてウィザードを起動します。

- 5 「エージェントのインポート」属性を指定します。  
属性の詳細については、『Sun Java System Portal Server 7.2 Technical Reference』の「Import Agents」を参照してください。
- 6 「完了」をクリックします。

#### 参考 同等の psadmin コマンド

『Sun Java System Portal Server 7.2 Command-Line Reference』の「psadmin create-search-importagent」

## ▼ リソース記述を作成する

- 1 [32 ページの「管理コンソールにログインする」](#)の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 「検索サーバー」タブを選択し、検索サーバーを選択します。
- 3 「データベース」をクリックし、メニューバーの「管理」をクリックします。
- 4 データベースを選択し、「リソース記述を管理」をクリックします。
- 5 「新規」をクリックし、属性を指定します。  
属性の詳細については、『Sun Java System Portal Server 7.2 Technical Reference』の「Schema」を参照してください。
- 6 「了解」をクリックします。

## ▼ リソース記述を管理する

- 1 [32 ページの「管理コンソールにログインする」](#)の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 「検索サーバー」タブを選択し、検索サーバーを選択します。
- 3 「データベース」をクリックし、メニューバーの「管理」をクリックします。
- 4 データベースを選択し、「リソース記述を管理」をクリックします。
- 5 リソース記述を選択して、次のいずれかの操作を実行します。
  - 編集

- すべて編集
- 削除

属性の詳細については、『Sun Java System Portal Server 7.2 Technical Reference』の「Schema」を参照してください。

- 6 「保存」をクリックします。

#### 参考 同等の psadmin コマンド

『Sun Java System Portal Server 7.2 Command-Line Reference』の「psadmin modify-search-resourcedescription」

## レポートの管理

検索サーバーには、検索アクティビティを監視できる多数のレポートが用意されています。

### ▼ レポートを表示する

- 1 [32 ページの「管理コンソールにログインする」](#)の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 「検索サーバー」タブを選択し、検索サーバーを選択します。
- 3 メニューバーの「レポート」をクリックします。
- 4 メニューバーのリンクを選択すると特定のレポートが表示されます。次のオプションを使用できます。
  - ログ
  - ロボットの詳細レポート
  - 頻度の高い検索
  - 除外 URL

## カテゴリの管理

次の作業に従って、カテゴリを管理できます。

- 223 ページの「カテゴリを作成する」
- 223 ページの「カテゴリを編集する」
- 224 ページの「自動分類を実行する」
- 224 ページの「自動分類の属性を編集する」

### ▼ カテゴリを作成する

- 1 32 ページの「[管理コンソールにログインする](#)」の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 「検索サーバー」タブを選択し、検索サーバーを選択します。
- 3 「カテゴリ」を選択し、メニューバーの「参照/検索」を選択します。
- 4 「新規」をクリックします。  
「新しい検索カテゴリ」ダイアログが表示されます。
- 5 必要に応じて属性を指定します。  
属性の詳細については、『Sun Java System Portal Server 7.2 Technical Reference』の「Manage Categories」を参照してください。
- 6 「了解」をクリックします。

### ▼ カテゴリを編集する

- 1 32 ページの「[管理コンソールにログインする](#)」の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 「検索サーバー」タブを選択し、検索サーバーを選択します。
- 3 「カテゴリ」をクリックし、メニューバーの「参照/検索」を選択します。
- 4 カテゴリを選択し、「編集を」をクリックして「*Category*の編集」ページを表示します。  
属性の詳細については、『Sun Java System Portal Server 7.2 Technical Reference』の「Manage Categories」を参照してください。

## ▼ 自動分類を実行する

- 1 32 ページの「[管理コンソールにログインする](#)」の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 「検索サーバー」タブを選択し、検索サーバーを選択します。
- 3 「カテゴリ」をクリックし、メニューバーの「自動分類」を選択します。
- 4 「自動分類を実行」をクリックします。

## ▼ 自動分類の属性を編集する

- 1 32 ページの「[管理コンソールにログインする](#)」の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 「検索サーバー」タブをクリックし、検索サーバーを選択します。
- 3 「カテゴリ」をクリックし、メニューバーの「自動分類」を選択します。
- 4 必要に応じて属性を変更します。  
属性の詳細については、『[Sun Java System Portal Server 7.2 Technical Reference](#)』を参照してください。
- 5 「保存」をクリックします。

## 検索サーバーロボットの管理

---

この章では、Sun Java™ System Portal Server 検索サーバーロボットとその対応する設定ファイルについて説明します。この章には、次のトピックが含まれています。

- 225 ページの「検索サーバーロボットについて」
- 230 ページの「ロボットの管理」
- 234 ページの「リソースフィルタリング処理」
- 237 ページの「フィルタの管理」
- 239 ページの「分類ルールの管理」
- 257 ページの「変更可能なプロパティ」
- 264 ページの「robot.conf ファイルの例」
- 240 ページの「ソースとデスティネーション」
- 243 ページの「セットアップ関数」
- 244 ページの「フィルタリング関数」
- 247 ページの「フィルタリングサポート関数」
- 253 ページの「列挙関数」
- 254 ページの「生成関数」
- 256 ページの「シャットダウン関数」

### 検索サーバーロボットについて

検索サーバーロボットは、ドメイン内のリソースを特定し、レポートを作成するエージェントです。これには、2種類のフィルタを使用します。列挙子フィルタとジェネレータフィルタです。

列挙子フィルタは、ネットワークプロトコルを使用してリソースを検出します。列挙子フィルタは、各リソースをテストし、適切な基準に一致した場合はリソースを列挙します。たとえば、列挙子フィルタはHTMLファイルからハイパーテキストリンクを抽出し、そのリンクを使用して別のリソースを検索できます。

ジェネレータフィルタは各リソースをテストし、リソース記述 (RD) を作成する必要があるかどうかを確認します。リソースがテストに合格した場合、ジェネレータは検索サーバーデータベースに格納される RD を作成します。

ロボットを管理するために必要な設定と保守タスクについては、次の節で説明します。

- [228 ページの「サイトの定義」](#)
- [228 ページの「ロボットの巡回の制御」](#)
- [229 ページの「ロボットユーティリティーの使用」](#)
- [230 ページの「ロボットのスケジュール設定」](#)

## ロボットの動作の仕組み

[図 19-1](#) は、ロボットが URL と関連するネットワークリソースを調べる方法を示しています。列挙機能と生成機能の両方が各リソースをテストします。リソースが列挙テストに合格すると、ロボットがそのリソースをほかの URL について検査します。リソースがジェネレータテストに合格すると、ロボットは検索サーバーデータベースに格納されているリソース記述を生成します。

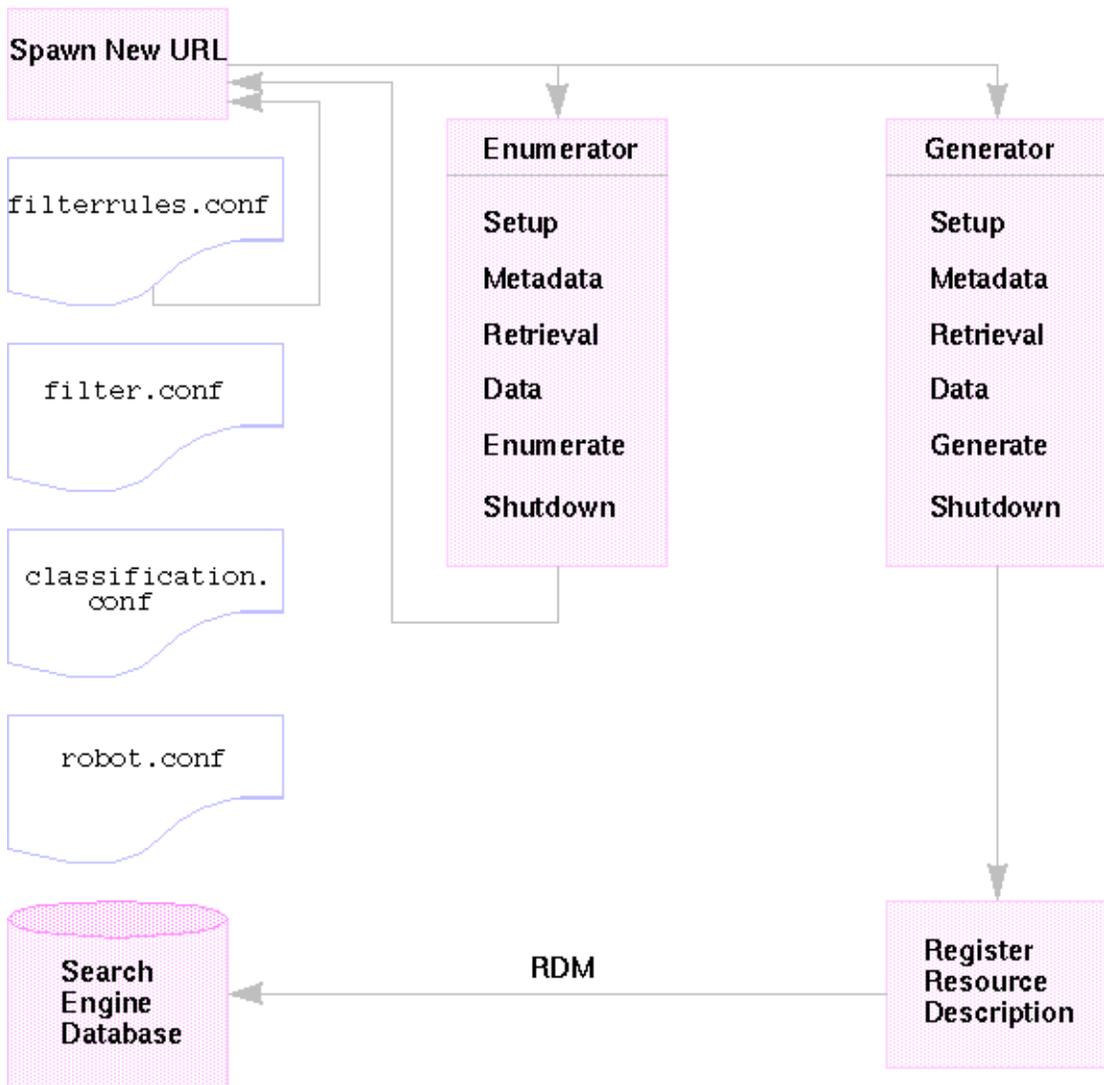


図 19-1 ロボットの動作の仕組み

## ロボット設定ファイル

ロボット設定ファイルでは、ロボットの動作が定義されます。これらのファイルは、`/var/opt/SUNWportal/searchservers/searchserverid/config` ディレクトリにあります。次のリストは、各ロボット設定ファイルを説明しています。

<code>classification.conf</code>	ロボットが生成する RD の分類に使用されるルールを含みます。
<code>filter.conf</code>	ロボットが使用する列挙フィルタと生成フィルタを定義します。
<code>filterrules.conf</code>	ロボットのサイト定義、開始ポイント URL、MIME タイプに基づくフィルタリングルール、および URL パターンを含みます。
<code>robot.conf</code>	ロボットのオペレーティングプロパティのほとんどを定義します。

検索サーバー管理インターフェースを使用すれば、ほとんどのプロパティを設定できるので、通常は `robot.conf` ファイルを編集する必要はありません。ただし、上級ユーザーはこのファイルを手動で編集することにより、インターフェースを介してでは設定できないプロパティを設定することができます。

## サイトの定義

ロボットはリソースを見つけて、それらの記述をデータベースに追加するかどうかを決定します。どのサーバーを訪問し、サーバーのどの部分のインデックスを作成するかの判断は、サイト定義と呼ばれます。

ロボットのサイトの定義は、サーバー管理者のもっとも重要な作業の1つです。ロボットは、インデックス作成が必要なすべてのサーバーに送信しなければなりません。同時に、データベース領域を過度に拡張して正確な情報の検索を困難にする可能性のある外部サイトを排除することも必要です。

## ロボットの巡回の制御

ロボットは、インデックスの作成のために選択したさまざまなサイトへのリンクを抽出し、追跡します。システム管理者は、次のようなさまざまな設定によって、これらのプロセスを制御できます。

- ロボットの起動、停止、スケジューリング
- ロボットが訪問するサイトの定義
- 巡回の頻度を指定する巡回属性
- フィルタを定義することによる、ロボットがインデックスを作成するリソースタイプ
- インデックス属性を定義することによる、ロボットがデータベースに作成するエントリの種類

ロボットの巡回属性についての説明は、『Sun Java System Portal Server 7.2 Technical Reference』を参照してください。

## ロボットデータのフィルタリング

フィルタを使用すると、リソースの属性をフィルタ定義と比較することでリソースを識別できるようになるので、これを除外することも、含むこともできます。ロボットは多くの事前定義されたフィルタを提供します。一部のフィルタはデフォルトで有効です。次のフィルタは事前定義されています。アスタリスク(\*)の付いたファイルがデフォルトで有効です。

- アーカイブファイル\*
- オーディオファイル\*
- バックアップファイル\*
- バイナリファイル\*
- CGI ファイル\*
- 画像ファイル\*
- Java、JavaScript、スタイルシートファイル\*
- ログファイル\*
- Lotus Domino ドキュメント
- Lotus Domino オープンビュー
- プラグインファイル
- Power Point ファイル
- リビジョン管理ファイル\*
- ソースコードファイル\*
- スプレッドシートファイル
- システムディレクトリ (UNIX)
- システムディレクトリ (NT)
- 一時ファイル\*
- ビデオファイル\*

新規フィルタ定義の作成、フィルタ定義の変更、またはフィルタの有効化または無効化が可能です。詳細は、[234 ページの「リソースフィルタリング処理」](#)を参照してください。

## ロボットユーティリティーの使用

ロボットには次の2つのデバッグツールまたはユーティリティーがあります。

- サイトプローブ - DNS エイリアス、サーバーリダイレクト、仮想サーバーなどを確認します。

- シミュレータ - 特定の URL でロボットフィルタリングを部分的にシミュレートします。シミュレータは表示されたサイトをロボットが受け入れるかどうかを示します。

## ロボットのスケジュール設定

検索データを最新に維持するには、ロボットがサイトを定期的に検索して、インデックスを作成する必要があります。ロボットの巡回とインデックス作成は処理リソースとネットワークの帯域幅を消費する場合がありますため、ピーク以外の時間帯にロボットを実行するようにスケジュール設定してください。管理コンソールを使用すると、管理者はロボットを実行するスケジュールをセットアップすることができます。

## ロボットの管理

ここでは、ロボットを管理するための次のタスクについて説明します。

- 230 ページの「[ロボットを起動する](#)」
- 231 ページの「[ロボットデータベースをクリアーする](#)」
- 231 ページの「[サイト定義を作成する](#)」
- 232 ページの「[サイト定義を編集する](#)」
- 232 ページの「[ロボットの巡回とインデックス作成を制御する](#)」
- 233 ページの「[シミュレータを実行する](#)」
- 233 ページの「[サイトプローブユーティリティを実行する](#)」

### ▼ **ロボットを起動する**

- 1 [32 ページの「管理コンソールにログインする」](#)の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 メニューバーから「[検索サーバー](#)」を選択します。サーバーのリストから検索サーバーを選択します。
- 3 メニューバーの「[ロボット](#)」をクリックし、メニューの「[状態と制御](#)」をクリックします。
- 4 「[起動](#)」をクリックします。

## 参考 同等の psadmin コマンドの場合

『Sun Java System Portal Server 7.2 Command-Line Reference』の「psadmin start-robot」

---

注 - コマンド psadmin start-robot の場合、ロボットが巡回できるサイトが定義されていない場合、検索ロボットは起動しません。コマンド psadmin start-robot は、サイトが使用できない場合、次のように表示します。開始位置:0 個が定義されています。

---

## ▼ ロボットデータベースをクリアーする

- 1 32 ページの「[管理コンソールにログインする](#)」の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 メニューバーから「検索サーバー」を選択し、検索サーバーを選択します。
- 3 メニューバーの「ロボット」を選択し、「状態と制御」を選択します。
- 4 「ロボットデータベースをクリアー」をクリックします。

## ▼ サイト定義を作成する

ロボットはリソースを見つけて、それらの記述をデータベースに追加するかどうかを決定します。どのサーバーを訪問し、サーバーのどの部分のインデックスを作成するかの判断は、サイト定義と呼ばれます。

- 1 32 ページの「[管理コンソールにログインする](#)」の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 メニューバーから「検索サーバー」を選択し、検索サーバーを選択します。
- 3 メニューバーから「ロボット」、「サイト」を選択します。
- 4 「サイトの管理」の「新規」をクリックし、サイトの設定属性を指定します。  
属性の詳細については、『Sun Java System Portal Server 7.2 Technical Reference』の「Sites」を参照してください。
- 5 「了解」をクリックします。

## ▼ サイト定義を編集する

- 1 32 ページの「[管理コンソールにログインする](#)」の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 メニューバーから「検索サーバー」を選択し、検索サーバーを選択します。
- 3 メニューバーから「ロボット」、「サイト」をクリックします。
- 4 変更するサイトの名前をクリックします。  
「サイトを編集」ダイアログが表示されます。
- 5 必要に応じて設定属性を変更します。  
属性の詳細については、『Sun Java System Portal Server 7.2 Technical Reference』の「Sites」を参照してください。
- 6 「了解」をクリックして変更を記録します。

## ▼ ロボットの巡回とインデックス作成を制御する

ロボットは、インデックスの作成のために選択したさまざまなサイトを巡回します。巡回およびインデックス作成の操作プロパティを定義することでロボットがサイトを巡回する方法を制御できます。

- 1 32 ページの「[管理コンソールにログインする](#)」の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 メニューバーから「検索サーバー」を選択し、検索サーバーを選択します。
- 3 メニューバーから「ロボット」、「プロパティ」をクリックします。
- 4 必要に応じてロボットの巡回とインデックス作成の属性を指定します。  
属性の詳細については、『Sun Java System Portal Server 7.2 Technical Reference』の「Properties」を参照してください。
- 5 「保存」をクリックします。

## ▼ シミュレータを実行する

シミュレータは、一覧表示された1つまたは複数のサイトのロボットフィルタリングの部分的なシミュレーションを実行します。

- 1 32 ページの「[管理コンソールにログインする](#)」の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 メニューバーから「検索サーバー」を選択し、検索サーバーを選択します。
- 3 メニューバーから「ロボット」、「ユーティリティ」をクリックします。
- 4 シミュレーションを行う新しいサイトの URL を「新しい URL を追加」テキストボックスに入力して「追加」をクリックします。  
「既存のロボットサイト」の下に一覧表示される既存のサイト上でシミュレータを実行することもできます。
- 5 「シミュレータの実行」をクリックします。

## ▼ サイトプローブユーティリティを実行する

サイトプローブユーティリティは、DNS エイリアス、サーバーリダイレクト、仮想サーバーなどの情報を確認します。

- 1 32 ページの「[管理コンソールにログインする](#)」の手順に従って、管理コンソールにログインします。
- 2 メニューバーから「検索サーバー」を選択し、検索サーバーを選択します。
- 3 メニューバーから「ロボット」、「ユーティリティ」をクリックします。
- 4 プローブするサイトの URL を入力します。
- 5 (省略可能) プローブで DNS 情報を取得するには、「サイトプローブ」で「DNS 情報の詳細を表示」を選択します。
- 6 「サイトプローブの実行」をクリックします。

## リソースフィルタリング処理

ロボットはフィルタを使用して、処理するリソースとそのリソースの処理方法を決定します。ロボットがリソースと同時にリソースの参照を検出すると、各リソースにフィルタを適用します。フィルタはそれらのリソースを列挙し、検索サーバーデータベースに格納するリソース記述を生成するかどうかを決定します。

ロボットは1つあるいは複数の開始ポイントURLを調べ、フィルタを適用し、それらのURLなどを列挙して生成されたURLにそのフィルタを適用します。開始ポイントURLは `filterrules.conf` ファイルで定義されます。

列挙フィルタと生成フィルタはそれぞれ、必須である初期化操作を実行し、現在のリソースに比較テストを適用します。各テストは、リソースを許可または拒否することが目標です。各フィルタにはシャットダウンフェーズも備わっており、クリーンアップ操作を実行します。

リソースが許可されると、フィルタの通過が続行されます。最終的にロボットはそのリソースを列挙し、さらにほかのリソースを検出しようとします。ジェネレータはリソース記述も作成できます。

リソースが否認される場合、そのリソースは拒否されます。拒否されたリソースのフィルタは、それ以上動作しません。

これらの操作は必ずしも連携されていません。リソースには列挙につながるものもあれば、RD生成につながるものもあります。多くのリソースは列挙にも、RD生成にもつながります。たとえば、リソースがFTPディレクトリである場合、一般的にはそのリソース用にRDは生成されません。ただし、ロボットはFTPディレクトリの個別ファイルを列挙できます。ほかのドキュメントへのリンクを含むHTMLドキュメントは、RDを生成し、また、関連のドキュメントを列挙することもできます。

次の節では、フィルタ処理について説明します。

- [234 ページの「フィルタ処理の段階」](#)
- [235 ページの「フィルタの構文」](#)
- [236 ページの「フィルタディレクティブ」](#)
- [237 ページの「フィルタの記述または修正」](#)

## フィルタ処理の段階

列挙フィルタ、生成フィルタのどちらにも、フィルタリング処理における5つのフェーズがあります。

- **セットアップ:** 初期化処理を行います。ロボットが存在する間、一度だけ発生します。

- **メタデータ:** そのリソースについて利用可能なメタデータに基づき、リソースをフィルタリングします。リソースがネットワークを介して取得される前に、メタデータのフィルタリングがリソースごとに1回実行されます。表 19-1 は、共通のメタデータタイプの例を示しています。

表 19-1 共通のメタデータタイプ

メタデータタイプ	説明	例
完全な URL	リソースの場所	http://home.siroe.com/
プロトコル	URL のアクセス部分	http, ftp, file
ホスト	URL のアドレス部分	www.siroe.com
IP アドレス	ホストの数値バージョン	198.95.249.6
PATH	URL のパス部分	/index.html
深さ	開始ポイント URL からのリンク数	5

- **データ:** リソースのデータに基づいてリソースをフィルタリングします。データのフィルタリングは、ネットワークを介してデータが取得されたあとにリソースごとに1回実行されます。フィルタリングに使用できるデータには、次のものがあります。
  - content-type
  - content-length
  - content-encoding
  - content-charset
  - last-modified
  - expires
- **列挙:** 検査すべきほかのリソースを参照するかどうかを判断するため、現行のリソース中の参照を列挙します。
- **生成:** リソースのリソース記述 (RD) を生成し、検索サーバーデータベースにその RD を保存します。
- **シャットダウン:** 必要な終了操作を実行します。この処理は、ロボットが存在する間、一度だけ発生します。

## フィルタの構文

filter.conf ファイルには、列挙フィルタおよび生成フィルタの定義が含まれています。このファイルには、列挙と生成の両方について、複数のフィルタを含むことができます。ロボットが使用するフィルタは、robot.conf ファイルの enumeration-filter プロパティおよび generation-filter プロパティで指定されます。

フィルタの定義には、次のように明確に定義された構造があります。ヘッダー、本文、終了です。ヘッダーは、フィルタの開始を識別し、たとえば次のように名前を宣言します。

```
<Filter name="myFilter">
```

本文は、セットアップ、テスト、列挙または生成、およびシャットダウン中のフィルタの動作を定義する一連のフィルタディレクティブで構成されています。各ディレクティブでは、関数とその関数のプロパティ（該当する場合）を指定します。

終了は `</Filter>` によって示されます。

例 19-1 は、`enumeration1` という名のフィルタを示しています。

#### 例 19-1 列挙ファイルの構文

```
<Filter name="enumeration1">
  Setup fn=filterrules-setup config=./config/filterrules.conf
# Process the rules
  MetaData fn=filterrules-process
# Filter by type and process rules again
  Data fn=assign-source dst=type src=content-type
  Data fn=filterrules-process
# Perform the enumeration on HTML only
  Enumerate enable=true fn=enumerate-urls max=1024 type=text/html
# Cleanup
  Shutdown fn=filterrules-shutdown
</Filter>
```

## フィルタディレクティブ

フィルタディレクティブは、ロボットアプリケーション関数 (RAF) を使用して、操作を実行します。このディレクティブの使用法および実行の流れは、Sun Java System Web Server の `obj.conf` ファイルの NSAPI ディレクティブおよびサーバーアプリケーション関数 (SAF) とよく似ています。NSAPI、SAF と同様に、*pblocks* と呼ばれるプロパティブロックを使用して、データは格納および送信されます。

6つのロボットディレクティブ、または RAF クラスが、234 ページの「リソースフィルタリング処理」に示したフィルタリングのフェーズや操作に対応しています。

- Setup
- Metadata
- Data
- Enumerate

- Generate
- Shutdown

各ディレクティブは、独自のロボットアプリケーション関数を持っています。たとえば、Metadata ディレクティブおよび Data ディレクティブではフィルタリング関数、Enumerate ディレクティブでは列挙関数、Generate ディレクティブでは生成関数を使用します。

ロボットアプリケーションの組み込み関数と、独自のロボットアプリケーション関数を記述する手順については、『Sun Java System Portal Server 7.1 Developer's Guide』を参照してください。

## フィルタの記述または修正

ほとんどの場合、管理コンソールを使用すると、ほとんどのサイト定義ベースのフィルタを作成できます。修正が必要な場合は、`filter.conf` ファイルおよび `filterrules.conf` ファイルを変更することができます。これらのファイルは、`/var/opt/SUNWportal/searchservers/searchserverid/config` ディレクトリにあります。

より複雑なプロパティのセットを作成するには、ロボットが使用する設定ファイルを編集します。

フィルタを記述または変更する場合は、次の順序に注意してください。

- ディレクティブの実行(特に各フェーズで使用可能な情報)
- `filterrules.conf` のフィルタルール

次も実行できます。

- `robot.conf` ファイルでプロパティを変更する。
- `filter.conf` ファイルでロボットアプリケーション関数を変更する。
- 独自のロボットアプリケーション関数を作成する。

詳細については、『Sun Java System Portal Server 7.1 Developer's Guide』を参照してください。

## フィルタの管理

この節では、ロボットフィルタを管理するための次のタスクについて説明します。

- 238 ページの「フィルタを作成する」
- 238 ページの「フィルタを削除する」
- 239 ページの「フィルタを編集する」
- 239 ページの「フィルタを有効または無効にする」

## ▼ フィルタを作成する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 メニューバーから「検索サーバー」を選択し、検索サーバーを選択します。
- 3 メニューバーから「ロボット」、「フィルタ」を選択します。
- 4 「新規」をクリックします。  
「新しいロボットフィルタウィザード」が表示されます。
- 5 指示に従って指定されたフィルタを作成します。
  - a. テキストボックスにフィルタ名とフィルタの説明を入力し、「次へ」をクリックします。
  - b. フィルタの定義と動作を指定し、「完了」をクリックします。  
フィルタ属性の詳細については、『Sun Java System Portal Server 7.2 Technical Reference』の「Filters」を参照してください。
  - c. 「閉じる」をクリックして新しいフィルタを読み込みます。

## ▼ フィルタを削除する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 メニューバーから「検索サーバー」を選択し、検索サーバーを選択します。
- 3 メニューバーから「ロボット」、「フィルタ」を選択します。
- 4 フィルタを選択します。
- 5 「削除」をクリックします。
- 6 表示される確認ダイアログボックスで「了解」をクリックします。

## ▼ フィルタを編集する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 メニューバーから「検索サーバー」を選択し、検索サーバーを選択します。
- 3 メニューバーから「ロボット」、「フィルタ」を選択します。
- 4 フィルタを選択して「編集」をクリックします。  
「フィルタを編集」ページが表示されます。
- 5 必要に応じて設定属性を変更します。  
フィルタ属性の詳細については、『Sun Java System Portal Server 7.2 Technical Reference』の「Filters」を参照してください。
- 6 「了解」をクリックします。

## ▼ フィルタを有効または無効にする

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 メニューバーから「検索サーバー」を選択し、検索サーバーを選択します。
- 3 メニューバーから「ロボット」、「フィルタ」を選択します。
- 4 フィルタを選択します。
  - フィルタを有効にするには、「有効」をクリックします。
  - フィルタを無効にするには、「無効」をクリックします。

## 分類ルールの管理

ドキュメントは、この値に設定した最大数を上限として、任意の数のカテゴリに割り当てることができます。分類ルールはフロー制御による判定を実行しないので、ロボットフィルタルールよりも単純です。分類ルールでは、特定のカテゴリをリソース記述の一部としてリソースに割り当てするための条件を決定する必要があります。分類ルールは、「もしある条件が真ならば、リソースを <カテゴリ> に割り当てる」という形式の簡単な条件文で作成されます。

## ▼ 分類ルールを作成する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 メニューバーから「検索サーバー」を選択し、検索サーバーを選択します。
- 3 メニューバーから「ロボット」を選択し、「分類ルール」を選択します。
- 4 「分類ルール」を選択して「新規」をクリックします。  
「新規分類ルール」ダイアログボックスが表示されます。
- 5 必要に応じて設定属性を指定します。  
属性の詳細については、『Sun Java System Portal Server 7.2 Technical Reference』の「Manage Classification Rules」を参照してください。
- 6 「了解」をクリックします。

## ▼ 分類ルールを編集する

- 1 **Portal Server** 管理コンソールにログインします。
- 2 メニューバーから「検索サーバー」を選択し、検索サーバーを選択します。
- 3 「ロボット」を選択し、メニューバーから「分類ルール」を選択します。
- 4 分類ルールを選択して「編集」をクリックします。
- 5 必要に応じて属性を変更します。  
属性の詳細については、『Sun Java System Portal Server 7.2 Technical Reference』の「Manage Classification Rules」を参照してください。
- 6 「了解」をクリックします。

## ソースとデスティネーション

ほとんどのロボットアプリケーション関数 (RAF) は情報のソースを必要とし、デスティネーションに送信するデータを生成します。ソースはロボット内で定義され、最終的に生成されるリソース記述のフィールドに関連している必要はありません。一方、デスティネーションは通常、リソース記述サーバーのスキーマによって定義されるリソース記述のフィールド名になります。

次の節では、フィルタリングプロセスの各段階と、それらの段階で使用できるソースについて説明します。

- 241 ページの「セットアップ段階で使用可能なソース」
- 241 ページの「メタデータフィルタリング段階で使用可能なソース」
- 242 ページの「データ段階で使用可能なソース」
- 242 ページの「列挙、生成、およびシャットダウン段階で使用可能なソース」
- 243 ページの「プロパティの有効化」

## セットアップ段階で使用可能なソース

セットアップ段階では、フィルタが設定されますが、リソースの URL またはコンテンツについての情報は取得できません。

## メタデータフィルタリング段階で使用可能なソース

メタデータ段階ではロボットはリソースの URL を検出しますが、リソースのコンテンツはダウンロードしていません。このため、`filter.conf` ファイルなどのほかのソースから派生するデータと、URL についての情報が使用可能です。ただし、この段階では、リソースのコンテンツについての情報は使用できません。

表 19-2 メタデータ段階で RAF で使用できるソース

ソース	説明	例
csid	カタログサーバー ID	x-catalog//budgie.siroe.com:8086/alexandria
depth	開始点からトラバースされたリンク数	10
enumeration filter	列挙フィルタの名前	enumeration1
generation filter	生成フィルタの名前	generation1
host	URL のホスト部分	home.siroe.com
IP	ホストの数値バージョン	198.95.249.6
protocol	URL のアクセス部分	http, https, ftp, file
path	URL のパス部分	/, /index.html, /documents/listing.html
URL	完全な URL	http://developer.siroe.com/docs/manuals/

## データ段階で使用可能なソース

データ段階では、ロボットがその URL のリソースのコンテンツをダウンロードしているため、記述、作成者などのコンテンツに関するデータにアクセスできます。

リソースが HTML ファイルである場合、ロボットは HTML ヘッダーの `<META>` タグをパースします。したがって、`<META>` タグに含まれるデータは、データ段階で使用可能です。

データ段階では、メタデータ段階で使用可能なソースのほかに、次のソースを RAF で使用できます。

表 19-3 データ段階で RAF で使用できるソース

ソース	説明	例
content-charset	リソースが使用する文字セット	
content-encoding	エンコードの形式	
content-length	リソースのバイト単位のサイズ	
content-type	リソースの MIME タイプ	text/html、image/jpeg
expires	リソースが期限切れになる日付	
last-modified	リソースの最終更新日	
<code>&lt;META&gt;</code> タグ内のデータ	HTML リソースのヘッダーの <code>&lt;META&gt;</code> タグで提供されるデータ	作成者、記述、キーワード

`<META>` タグのデータを除くこれらのすべてのソースは、リソースの取得時に返される HTTP 応答ヘッダーから派生されます。

## 列挙、生成、およびシャットダウン段階で使用可能なソース

列挙および生成の段階では、データ段階と同じデータソースが使用可能です。詳細については、表 19-3 を参照してください。

シャットダウン段階では、フィルタはフィルタリングを完了し、シャットダウンします。この段階用に書き込まれた関数は、データ段階で使用可能なソースと同じデータソースを使用できますが、シャットダウン関数の動作は通常、ロボットの終了およびクリーンアップに制限されます。

## プロパティの有効化

各関数には `enable` プロパティがあります。値には、`true`、`false`、`on`、または `off` を指定できます。管理コンソールは、これらのパラメータを使用して特定のディレクトリタイプを有効または無効にします。

次の例は `text/html` の列挙を有効にし、`text/plain` の列挙を無効にします。

```
# Perform the enumeration on HTML only
Enumerate enable=true fn=enumerate-urls max=1024 type=text/html
Enumerate enable=false fn=enumerate-urls-from-text max=1024 type=text/plain
```

`enable=false` プロパティまたは `enable=off` プロパティの追加は、行をコメントアウトするのと同じ効果があります。管理コンソールは、コメントを書き込まないため、これらのプロパティが使用されます。

## セットアップ関数

ここでは、列挙および生成フィルタの両方によってセットアップ段階中に使用される関数について説明します。関数については、次の節で説明します。

### filterrules-setup

`filterrules-setup` 関数を使用する場合、`logtype` ログファイルを使用します。値には、`verbose`、`normal`、または `terse` を指定できます。

### プロパティ

`config` このフィルタが使用するフィルタルールを含むファイルのパス名。

### 例

```
Setup fn=filterrules-setup

config="/var/opt/SUNWportal/searchservers/search1/config/filterrules.conf"
```

### setup-regex-cache

`setup-regex-cache` 関数は、`filter-by-regex` および `generate-by-regex` 関数のキャッシュサイズを初期化します。デフォルト値である 32 以外の数値を指定するときは、この関数を使用します。

## プロパティ

`cache-size` `regex` キャッシュに保持されるコンパイル済み正規表現の最大数。

### 例

```
Setup fn=setup-regex-cache cache-size=28
```

## setup-type-by-extension

`setup-type-by-extension` 関数はファイル名の拡張子を認識するようにフィルタを設定します。この関数を呼び出してから、`assign-type-by-extension` 関数を使用します。プロパティとして指定されたファイルは、標準の MIME コンテンツタイプとファイル拡張子の文字列の間のマッピングを含む必要があります。

## プロパティ

`file` MIME タイプ設定ファイルの名前。

### 例

```
Setup fn=setup-type-by-extension
```

```
file="/var/opt/SUNWportal/searchservers/search1/config/mime.types"
```

# フィルタリング関数

フィルタリング関数はメタデータおよびデータの段階で動作し、関数およびそのプロパティによって指定された特定の条件に基づいて、リソースを許可または拒否します。これらの関数は、`filter.conf` ファイルの列挙フィルタおよび生成フィルタの両方で使用できます。

これらの各 `filter-by` 関数は比較を行い、リソースを許可または拒否します。リソースが許可されると、処理が次のフィルタリング段階へ進みます。リソースが拒否されると、リソースが列挙または生成を継続する条件を満たしていないという理由で処理が停止します。

## filter-by-exact

`filter-by-exact` 関数は、`allow/deny` 文字列が情報のソースに完全に一致する場合、リソースを許可または拒否します。キーワード `all` は任意の文字列と一致します。

## プロパティ

src            情報のソース。  
allow/deny    文字列を含みます。

### 例

次の例は、content-type が text/plain のリソースすべてをフィルタして取り除きます。これにより、ほかのすべてのリソースの処理が続行されます。

```
Data fn=filter-by-exact src=type deny=text/plain
```

## filter-by-max

filter-by-max 関数では、指定された情報ソースが指定値以下の場合にリソースが許可されます。情報ソースが指定された値よりも大きい場合は、リソースは拒否されます。

この関数は、1つのフィルタについて1回しか呼び出すことができません。

## プロパティ

filter-by-max 関数は、filter-by-max 関数で使用するプロパティを一覧表示します。

src            情報のソース。hosts、objects、または depth  
value         比較のための値を指定します。

### 例

この例は、content-length が 1024K バイトより小さいリソースを許可します。

```
MetaData fn-filter-by-max src=content-length value=1024
```

## filter-by-md5

filter-by-md5 関数は、指定の MD5 チェックサム値を持つ最初のリソースだけを許可します。このロボットによって、現在のリソースの MD5 が以前のリソースで検出された場合、現在のリソースは拒否されます。この関数は、複数の URL を持つ同一のリソースまたは単一のリソースの重複を防ぎます。

この関数は、データ段階またはそれ以降の段階でだけ呼び出すことができます。この関数は、1つのフィルタについて1回しか呼び出すことができません。フィルタは generate-md5 関数を呼び出し、filter-by-md5 を呼び出す前に MD5 チェックサムを生成する必要があります。

## プロパティ

なし

## 例

次の例は、MD5 チェックサムを処理する一般的な方法を示します。最初にチェックサムを生成し、そのチェックサムに基づいてフィルタリングします。

```
Data fn=generate-md5
```

```
Data fn=filter-by-md5
```

## filter-by-prefix

filter-by-prefix 関数は、指定の情報ソースが指定されたプレフィックス文字列で開始する場合、リソースを許可または拒否します。リソースは、完全に一致する必要はありません。キーワード all は任意の文字列と一致します。

## プロパティ

src                   情報のソース。

allow/deny           プレフィックス比較の文字列を含みます。

## 例

次の例は、content-type が text/html や text/plain など、任意の種類テキストであるリソースを許可します。

```
MetaData fn=filter-by-prefix src=type allow=text
```

## filter-by-regex

filter-by-regex 関数は、正規表現によるパターンマッチングをサポートします。この関数は、指定の正規表現に一致するリソースを許可します。サポートされる正規表現構文は、POSIX.1 仕様によって定義されます。\\\\\\\\\* の正規表現は、任意の文字に一致します。

## プロパティ

`src` 情報のソース。  
`allow/deny` 正規表現の文字列を含みます。

## 例

次の例は、政府 (.gov) ドメインのサイトからのすべてのリソースを拒否します。

```
MetaData fn=filter-by-regex src=host deny=\\\\*.gov
```

## filterrules-process

`filterrules-process` 関数は、`filterrules.conf` ファイルのサイト定義とフィルタルールを処理します。

## プロパティ

なし

## 例

```
MetaData fn=filterrules-process
```

# フィルタリングサポート関数

サポート関数は、リソース上で情報を操作または生成するため、フィルタリング中に使用されます。ロボットは、フィルタリング関数を呼び出すことによって、リソースを処理することができます。これらの関数は、ファイル `filter.conf` の列挙および生成のフィルタで使用することができます。

## assign-source

`assign-source` 関数は、指定した情報ソースに新規の値を割り当てます。この関数により、フィルタリング処理中の編集が可能になります。この関数は、明示的な新規値を割り当てるか、または、別の情報ソースから値をコピーすることができます。

## プロパティ

`dst` 値を変更するソースの名前。

**value** 明示的な値を指定。  
**src** dst にコピーする情報ソース。

**value** プロパティまたは **src** プロパティのどちらかを指定する必要がありますが、両方は指定しません。

## 例

```
Data fn=assign-source dst=type src=content-type
```

## assign-type-by-extension

**assign-type-by-extension** 関数は、リソースのファイル名を使用してタイプを決定し、処理を継続するリソースにこのタイプを割り当てます。

**assign-type-by-extension** を使用可能にするには、セットアップ中に **setup-type-by-extension** 関数を呼び出す必要があります。

## プロパティ

**src** 比較するファイル名のソース。ソースを指定しない場合、デフォルトではリソースのパスになります。

## 例

```
MetaData fn=assign-type-by-extension
```

## clear-source

**clear-source** 関数は、指定されたデータソースを削除します。通常は、この関数を実行する必要はありません。**assign-source** 関数を使用することにより、ソースを作成または置換することができます。

## プロパティ

**src** 削除するソースの名前。

## 例

次の例は、パスのソースを削除します。

```
MetaData fn=clear-source src=path
```

## convert-to-html

convert-to-html 関数は、リソースのタイプが指定の MIME タイプと一致する場合、現在のリソースを HTML ファイルに変換して処理を継続します。変換フィルタは、変換中のファイルのタイプを自動的に検出します。

### プロパティ

type 変換を行う MIME タイプ。

### 例

次の関数呼び出しのシーケンスにより、フィルタは、すべての Adobe Acrobat PDF ファイル、Microsoft RTF ファイル、および FrameMaker MIF ファイル、およびファイルを配信するサーバーによってタイプが指定されていないファイルを HTML に変換します。

```
Data fn=convert-to-html type=application/pdf
```

```
Data fn=convert-to-html type=application/rtf
```

```
Data fn=convert-to-html type=application/x-mif
```

```
Data fn=convert-to-html type=unknown
```

## copy-attribute

copy-attribute 関数は、リソース記述の 1 つのフィールドからの値を別のフィールドにコピーします。

### プロパティ

src コピー元のリソース記述のフィールド。

dst ソースのコピー先のリソース記述の項目。

truncate コピーするソースの最大長。

clean 省略されたテキストを修正するかどうか、分割された単語を修正するかを示す論理値プロパティ。デフォルトでは、このプロパティは `false` に設定されています。

## 例

```
Generate fn=copy-attribute \<\  
src=partial-text dst=description truncate=200 clean=true
```

## generate-by-exact

generate-by-exact 関数は、既存のソースが別の値と完全に一致する場合にかぎり、指定された値を持つソースを生成します。

### プロパティ

dst 生成するソースの名前。  
value dst に割り当てる値。  
src 比較対象のソース。

## 例

次の例は、ホストが `www.siroe.com` の場合に、分類を `siroe` に設定します。

```
Generate fn="generate-by-exact" match="www.siroe.com:80" src="host" value="Siroe"  
dst="classification"
```

## generate-by-prefix

この generate-by-prefix 関数は、既存のソースのプレフィックスが別の値と一致する場合に、指定された値を持つソースを生成します。

### プロパティ

dst 生成するソースの名前。  
value dst に割り当てる値。  
src 比較対象のソース。  
match src と比較する値。

## 例

次の例は、プロトコルプレフィックスが `HTTP` の場合、分類を `World Wide Web` に設定します。

```
Generate fn="generate-by-prefix" match="http" src="protocol" value="World Wide Web" dst="classification"
```

## generate-by-regex

generate-by-regex 関数は、既存のソースが正規表現に一致する場合に、指定した値を持つソースを生成します。

### プロパティ

dst 生成するソースの名前。  
value dst に割り当てる値。  
src 比較対象のソース。  
match src と比較する正規表現の文字列。

### 例

次の例は、ホスト名が正規表現 `*.siroe.com` に一致する場合に、分類を `siroe` に設定します。たとえば、`developer.siroe.com` および `home.siroe.com` の両方にあるリソースは、`siroe` として分類されます。

```
Generate fn="generate-by-regex" match="\\\\\\\\*.siroe.com" src="host" value="Siroe" dst="classification"
```

## generate-md5

generate-md5 関数は、MD5 チェックサムを生成し、リソースに追加します。これにより、`filter-by-md5` 関数を使用して、重複する MD5 チェックサムを持つリソースを拒否することができます。

### プロパティ

なし

### 例

```
Data fn=generate-md5
```

## generate-rd-expires

`generate-rd-expires` 関数は、有効期限を生成して、指定されたソースに追加します。この関数は、HTTP ヘッダーおよび HTML `<META>` タグなどのメタデータを使用し、リソースから任意の有効期限を取得します。有効期限が存在しない場合は、現在の日付から3ヶ月間の有効期限を生成します。

### プロパティ

`dst` ソースの名前。指定を省略した場合、ソースのデフォルトは `rd-expires` となります。

### 例

```
Generate fn=generate-rd-expires
```

## generate-rd-last-modified

`generate-rd-last-modified` 関数は、現在の時間を指定されたソースに追加します。

### プロパティ

`dst` ソースの名前。指定を省略した場合、ソースのデフォルトは `rd-last-modified` となります。

### 例

```
Generate fn=generate-last-modified
```

## rename-attribute

`rename-attribute` 関数は、リソース記述のフィールドの名前を変更します。この関数は、たとえば、`extract-html-meta` で `<META>` タグからフィールドに情報をコピーし、そのフィールドの名前を変更する場合にとっても便利です。

### プロパティ

`src` 1つの名前から別の名前へのマッピングを含む文字列。

## 例

次の例は、属性の名前を `author` から `author-name` に変更します。

```
Generate fn=rename-attribute src="author->author-name"
```

# 列挙関数

次の関数は、列挙段階で動作します。これらの関数は、ロボットが指定のリソースからリンクを収集するかどうか、およびその方法を制御し、リソースの発見を継続する開始点として使用します。

## enumerate-urls

`enumerate-urls` 関数はリソースをスキャンし、ハイパーテキストリンクで検出されるすべての URL を列挙します。結果を使用して、リソース発見を継続します。コンテンツタイプを指定し、列挙される URL の種類を制限することができます。

### プロパティ

- `max` 指定のリソースから生成する URL の最大数。デフォルトは 1024 です。
- `type` 指定したコンテンツタイプの URL に列挙を制限するコンテンツタイプ。`type` はオプションのプロパティです。指定を省略した場合、すべての URL が列挙されます。

## 例

次の例は、HTML URL だけを、最大値 1024 まで列挙します。

```
Enumerate fn=enumerate-urls type=text/html
```

## enumerate-urls-from-text

`enumerate-urls-from-text` 関数はテキストリソースをスキャンし、次の正規表現に一致する文字列を検索します。URL:.\*. この関数はロボットを生成し、これらの文字列から URL を列挙し、さらにリソース記述を生成します。

### プロパティ

- `max` 指定のリソースから生成する URL の最大数。`max` の指定を省略した場合、デフォルトは 1024 となります。

## 例

Enumerate fn=enumerate-urls-from-text

# 生成関数

生成関数は、フィルタリングの生成段階で使用されます。生成関数は、リソース記述に入る情報を作成することができます。通常、リソースの本体から情報を抽出するか、リソースのメタデータから情報をコピーします。

## extract-full-text

extract-full-text 関数は、リソースの完全なテキストを抽出して、リソース記述に追加します。

---

注-extract-full-text 関数の使用には注意が必要です。リソース記述のサイズを非常に大きくすることができるため、データベースが膨大化したり、ネットワーク帯域幅全体に悪影響を及ぼしたりする可能性があります。

---

## 例

Generate fn=extract-full-text

### プロパティ

truncate リソースから抽出する文字の最大数。

dst 完全なテキストを受信するスキーマ項目の名前。

## extract-html-meta

extract-html-meta 関数は、HTML ファイルから任意の <META> または <TITLE> 情報を抽出し、リソース記述に追加します。コンテンツタイプの指定により、生成する URL の種類が制限される場合があります。

### プロパティ

truncate 抽出する最大バイト数。

type 省略可能なプロパティ。指定を省略した場合は、すべての URL が生成されます。

## 例

```
Generate fn=extract-html-meta truncate=255 type=text/html
```

## extract-html-text

`extract-html-text` 関数は、HTML タグを除いた、テキストの最初の数文字を HTML ファイルから抽出し、そのテキストをリソース記述に追加します。この関数により、ドキュメントのテキストの最初の部分を RD に含むことができます。コンテンツタイプの指定により、生成する URL の種類が制限される場合があります。

### プロパティ

<code>truncate</code>	抽出する最大バイト数。
<code>skip-headings</code>	<code>true</code> に設定すると、ドキュメント内で発生する任意の HTML ヘッダーは無視されます。
<code>type</code>	省略可能なプロパティ。指定を省略した場合は、すべての URL が生成されます。

## 例

```
Generate fn=extract-html-text truncate=255 type=text/html skip-headings=true
```

## extract-html-toc

`extract-html-toc` 関数は、HTML ヘッダーから目次を抽出し、リソース記述に追加します。

### プロパティ

<code>truncate</code>	抽出する最大バイト数。
<code>level</code>	抽出する HTML ヘッダーの最大レベル。このプロパティは、目次の深さを制御します。

## 例

```
Generate fn=extract-html-toc truncate=255 level=3
```

## extract-source

`extract-source` 関数は、指定のソースから特定の値を抽出し、リソース記述に追加します。

### プロパティ

`src` ソース名のリスト。->演算子を使用し、RD属性の新規名を定義できます。たとえば、`type->content-type` は `type` という名前のソースの値を取得し、`content-type` という名前の属性でRDに保存されます。

### 例

```
Generate fn=extract-source src="md5,depth,rd-expires,rd-last-modified"
```

## harvest-summarizer

`harvest-summarizer` 関数は、リソース上で Harvest サマライザを実行し、結果をリソース記述に追加します。

Harvest サマライザを実行するには、ロボットを実行する前に、`path` に `$HARVEST_HOME/lib/gatherer` を設定する必要があります。

### プロパティ

`summarizer` サマライザプログラムの名前。

### 例

```
Generate fn=harvest-summarizer summarizer=HTML.sum
```

## シャットダウン関数

`filterrules-shutdown` 関数は、列挙および生成の両関数によってシャットダウン段階中に使用できます。

## filterrules-shutdown

ルールが実行されたあと、`filterrules-shutdown` 関数はクリーンアップおよびシャットダウンを実行します。

## プロパティ

なし

### 例

```
Shutdown fn=filterrules-shutdown
```

## 変更可能なプロパティ

robot.conf ファイルは、filter.conf にある適切なフィルタにロボットを指定するなど、ロボット用の多くのオプションを定義します。旧バージョンとの下位互換性のために、robot.conf に開始ポイント URL を含めることもできます。

管理コンソールを使用すれば、ほとんどのプロパティを設定できるので、通常は robot.conf ファイルを編集する必要はありません。ただし、上級ユーザーはこのファイルを手動で編集することにより、管理コンソールを介してでは設定できないプロパティを設定することができます。このファイルの例については、[264 ページの「robot.conf ファイルの例」](#)を参照してください。

表 19-4 は、robot.conf ファイルでユーザーが変更可能なプロパティを示しています。

表 19-4 ユーザーが変更できるプロパティ

プロパティ	説明	例
auto-proxy	ロボットのプロキシ設定を指定します。これは、プロキシサーバー、またはプロキシを自動的に設定する Java スクリプトファイルです。	auto-proxy="http://proxy_server/proxy.pac"
bindir	ロボットが bin ディレクトリを PATH 環境に追加するかどうかを指定します。これは cmd-hook プロパティが指定するプログラムなど、ユーザーがロボットで外部プログラムを実行するための特別な PATH です。	bindir=path

表 19-4 ユーザーが変更できるプロパティー (続き)

プロパティー	説明	例
cmd-hook	<p>ロボットが実行を完了するたびに実行される外部完了スクリプトを指定します。これは、コマンド名の完全パスで指定する必要があります。ロボットは /var/opt/SUNWportal/ ディレクトリからこのスクリプトを実行します。</p> <p>デフォルトはありません。</p> <p>コマンドを実行するには、最低1つの RD が登録されている必要があります。</p>	cmd-hook=" command-string "
command-port	<p>管理インタフェースまたはロボットコントロールパネルのような、ほかのプログラムからコマンドを受け入れるために、ロボットが待機するポート番号を指定します。</p> <p>セキュリティ上の理由から、remote-access が yes に設定されていない場合、ロボットはローカルホストからのコマンドだけを受け入れます。</p>	command-port=port_number
connect-timeout	<p>ネットワークが接続要求に回答する最大許容時間を指定します。</p> <p>デフォルトは 120 秒です。</p>	command-timeout=seconds
convert-timeout	<p>ドキュメント変換に許可される最大時間を指定します。</p> <p>デフォルトは 600 秒です。</p>	convert-timeout=seconds

表 19-4 ユーザーが変更できるプロパティ (続き)

プロパティ	説明	例
depth	<p>ロボットが調べる開始ポイント URL からのリンク数を指定します。このプロパティは、深さを指定しない開始ポイント URL のデフォルト値を設定します。</p> <p>デフォルトは 10 です。</p> <p>マイナス 1 の値 (depth=-1) は、リンクの深さが無限であることを表します。</p>	depth=integer
email	<p>ロボットを実行するユーザーの電子メールアドレスを指定します。</p> <p>Web 管理者とサイトでロボットを実行するユーザーとが連絡できるように、電子メールアドレスは HTTP 要求ヘッダーで user-agent とともに送信されます。</p> <p>デフォルトは user@domain です。</p>	email=user@hostname
enable-ip	<p>作成する各 RD の URL に IP アドレスを生成します。</p> <p>デフォルトは true です。</p>	enable-ip=[true   yes   false   no]
enable-rdm-probe	<p>サーバーが RDM をサポートするかどうかを確認します。ロボットはこのプロパティを使用して、検出する各サーバーに照会するかどうかを決定します。サーバーが RDM をサポートする場合は、サーバーは独自のリソース記述サーバーの役割を果たすことができるため、ロボットはこのサーバーのリソースを列挙しません。</p> <p>デフォルトは false です。</p>	enable-rdm-probe=[true   false   yes   no]

表 19-4 ユーザーが変更できるプロパティ (続き)

プロパティ	説明	例
enable-robots-txt	<p>ロボットがアクセスする各サイトで、robots.txt ファイルが使用できる場合、このファイルをロボットが検査する必要があるかどうかを指定します。</p> <p>デフォルトは yes です。</p>	enable-robots-txt=[true   false   yes   no]
engine-concurrent	<p>ロボットが使用する事前作成のスレッド数を指定します。</p> <p>デフォルトは 10 です。</p> <p>管理コンソールを使用して、このプロパティを対話形式で設定することはできません。</p>	engine-concurrent=[1..100]
enumeration-filter	<p>リソースを列挙すべきかどうかを確認する場合に、ロボットが使用する列挙フィルタを指定します。値は filter.conf ファイルで定義されるフィルタ名にする必要があります。</p> <p>デフォルトは enumeration-default です。</p> <p>管理コンソールを使用して、このプロパティを対話形式で設定することはできません。</p>	enumeration-filter=enumfiltername
generation-filter	<p>リソース用にリソース記述を生成する必要があるかどうかを確認する場合に、ロボットが使用する生成フィルタを指定します。値は filter.conf ファイルで定義されるフィルタ名にする必要があります。</p> <p>デフォルトは generation-default です。</p> <p>管理コンソールを使用して、このプロパティを対話形式で設定することはできません。</p>	generation-filter=genfiltername

表 19-4 ユーザーが変更できるプロパティ (続き)

プロパティ	説明	例
index-after-ngenerated	<p>検索サーバー用にバッチ処理する前に、ロボットがRDを収集する時間を分単位で指定します。</p> <p>デフォルトは30分です。</p>	index-after-ngenerated=30
logLevel	<p>ロギングのレベルを指定します。logLevelの値は次のように指定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ レベル0: 重大なエラー以外は記録しません</li> <li>■ レベル1: RD生成も記録します (デフォルト)</li> <li>■ レベル2: 検索状況も記録します</li> <li>■ レベル3: フィルタリング状況も記録します</li> <li>■ レベル4: 生成状況も記録します</li> <li>■ レベル5: 検索の進行状況も記録します</li> </ul> <p>デフォルト値は1です。</p>	logLevel=[0...100]
max-connections	<p>ロボットが実行できる並行検索の最大数を指定します。</p> <p>デフォルトは8です。</p>	max-connections=[1..100]
max-filesize-kb	<p>ロボットが検索するファイルの最大ファイルサイズをKバイト単位で指定します。</p>	max-filesize-kb=1024
max-memory-per-url / max-memory	<p>各URLが使用する最大メモリーをバイト単位で指定します。URLがより多くのメモリーを必要とする場合、RDはディスクに保存されます。</p> <p>デフォルトは64kです。</p> <p>管理コンソールを使用して、このプロパティを対話形式で設定することはできません。</p>	max-memory-per-url=n_bytes

表 19-4 ユーザーが変更できるプロパティ (続き)

プロパティ	説明	例
max-working	<p>ロボット稼働セットのサイズ、すなわちロボットが一度に処理できる URL の最大数を指定します。</p> <p>管理コンソールを使用して、このプロパティを対話形式で設定することはできません。</p>	max-working=1024
onCompletion	<p>実行完了後のロボットの動作を決定します。ロボットはアイドルモードになるか、ループバック、再起動、または終了することができます。</p> <p>デフォルトは idle です。</p> <p>このプロパティは cmd-hook プロパティとともに動作します。実行後のロボットは、onCompletion アクションの次に、cmd-hook プログラムを実行します。</p>	OnCompletion=[idle   loop   quit]
password	<p>httpd 認証および ftp 接続に使用される password を指定します。</p>	password=string
referer	<p>Web ページにアクセスする際にロボットを Referer として識別するように設定されている場合、HTTP 要求に送信されるプロパティを指定します。</p>	referer=string
register-user	<p>検索サーバーデータベースに RD を登録するために使用されるユーザー名を指定します。</p> <p>このプロパティは、検索サーバー管理インタフェースから対話形式で設定することはできません。</p>	register-user=string
register-password	<p>検索サーバーデータベースに RD を登録するために使用されるパスワードを指定します。</p> <p>このプロパティは、管理コンソールから対話形式で設定することはできません。</p>	register-password=string

表 19-4 ユーザーが変更できるプロパティ (続き)

プロパティ	説明	例
remote-access	ロボットが、リモートホストからのコマンドを受け入れることができるかどうかを指定します。 デフォルトは false です。	remote-access=[true   false   yes   no]
robot-state-dir	ロボットが状態を保存するディレクトリを指定します。この作業ディレクトリで、ロボットは収集された RD の数などを記録できます。	robot-state-dir="/var/opt/SUNWportal/searchservers/<searchserverid>/config/robot"
server-delay	同じ Web サイトに次にアクセスするまでの時間間隔を指定します。この時間を指定することで、ロボットが頻繁に同じサイトにアクセスするのを防止できます。デフォルトは 0 秒です。	server-delay=delay_in_seconds
site-max-connections	ロボットが任意の 1 つのサイトに対して行う同時接続の最大数を示します。 デフォルトは 2 です。	site-max-connections=[1..100]
smart-host-heuristics	ロボットが正規の DNS ホスト名を巡回するサイトを変更できます。たとえば、 www123.siroe.com が www.siroe.com に変更されます。 デフォルトは false です。	smart-host-heuristics=[true   false]
tmpdir	ロボットが一時ファイルを作成する場所を指定します。 環境変数 TMPDIR を設定する際に、この変数を使用します。	tmpdir=path
user-agent	http-request 内の電子メールアドレスとともにサーバーに送信されるプロパティを指定します。	user-agent=SunONERobot/6.2
username	ロボットを実行するユーザーのユーザー名を指定します。これは、httpd 認証および ftp 接続で使用されます。 デフォルトは anonymous です。	username=string

## robot.confファイルの例

ここでは、robot.conf ファイルの例について説明します。この例でコメントが付いたプロパティーには、表示されているデフォルト値が適用されます。最初のプロパティーである csid は、このファイルを使用する検索サーバーインスタンスを示しています。このプロパティーの値は変更しないでください。このファイルのプロパティーの定義については、[257 ページの「変更可能なプロパティー」](#)を参照してください。

---

注- このサンプルファイルには、検索サーバーによって使用される、変更できないプロパティーがいくつか含まれています。csid プロパティーは、その一つです。

---

```
<Process csid="x-catalog://budgie.siroe.com:80/jack" \<\  
  auto-proxy="http://sesta.varrius.com:80/"  
  auto_serv="http://sesta.varrius.com:80/"  
  command-port=21445  
  convert-timeout=600  
  depth="-1"  
  # email="user@domain"  
  enable-ip=true  
  enumeration-filter="enumeration-default"  
  generation-filter="generation-default"  
  index-after-ngenerated=30  
  loglevel=2  
  max-concurrent=8  
  site-max-concurrent=2  
  onCompletion=idle  
  password=boots  
  proxy-loc=server  
  proxy-type=auto  
  robot-state-dir="/var/opt/SUNWportal/searchservers/search1/robot" \<\  
  ps/robot"  
  server-delay=1  
  smart-host-heuristics=true  
  tmpdir="/var/opt/SUNWportal/searchservers/search1/tmp"  
  user-agent="iPlanetRobot/4.0"  
  username=jack  
</Process>
```

パート IV

## 委任管理の管理

- 第20章委任管理の管理
- 第21章Portal Server 委任管理タグライブラリの使用



## 委任管理の管理

---

Portal Server では、ポータル管理者が、各種のリソースを管理する責任を委任管理者と呼ばれるほかのユーザーに委任することができます。管理機能を分散させると、とりわけ複雑な組織でポータルの管理を改善できます。

委任管理者として Portal Server コンソールにログインし、自分に割り当てられたリソースを操作することができます。これには、ディレクトリサーバー固有の設定は必要ありません。委任管理者は、ディレクトリサーバーの設定とは関係なく Portal Server コンソールにログインできます。

この章では、リソースを委任管理者に割り当てる方法について説明します。

- 267 ページの「Portal Server 委任管理の概要」
- 268 ページの「委任 Portal Server 管理者の割り当て」

### Portal Server 委任管理の概要

管理者は Portal Server コンソールを使用して、委任管理者にリソースを割り当てます。たとえば、*amadmin* が管理者で *mary* がユーザーの場合、*amadmin* は一部のリソースを *mary* に割り当てることができ、これによって *mary* が委任管理者になります。

委任管理者は次の4つのタイプのいずれかに設定できます。

- ユーザー — 選択されたリソースは単一のユーザーに割り当てられます。
- レルム — 選択されたリソースは組織全体に委任されます。
- ロール — 選択されたリソースは、システム管理者などの一般的なロールに委任されます。
- フィルタロール — 選択されたリソースは、特定のワークセンターに割り当てられたシステム管理者などの特定のロールに委任されます。

## 委任 Portal Server 管理者の割り当て

管理者は Portal Server コンソールの「委譲」タブを使用して、ポータルリソースの委任管理者を設定します。「委譲」タブは、委任管理者の Portal Server コンソールには表示されません。

「委譲」ページでは、管理者が次のタスクを実行できます。

- 識別名 (DN) を使用して委任管理者を指定し、その委任管理者にリソースを割り当てる
- ユーザー、レルム、またはロールに委任されたリソースを変更または削除する

---

注-委任管理者は削除できますが、委任管理者に割り当てられたリソースを変更することはできません。委任管理者の変更に関する対処方法として、委任管理者を削除してから、新しいリソース割り当てを指定して同じ委任管理者を作成することができます。

---

### ▼ 委任管理者を割り当てる

- 1 Portal Server 管理コンソールに管理者としてログオンします。
- 2 「委譲」タブをクリックします。「委譲」ページが表示されます。
- 3 委任するリソースを選択して「委譲の割り当て」をクリックします。「委譲の割り当て」ページが表示されます。
- 4 「DNの参照...」ボタンをクリックします。「DNの検索」ページが表示されます。
- 5 DNのタイプを「ユーザー」、「レルム」、「ロール」、または「フィルタロール」から選択します。たとえば、「ユーザー」を選択し、既存のユーザーの名前を入力して「検索」をクリックします。
- 6 DNを選択して「DNを選択」をクリックします。
- 7 「了解」をクリックします。
- 8 委任管理者としてタスクを実行するには、Portal Server コンソールからログアウトし、委任管理者としてログインします。

## ▼ 委任管理者を削除する

- 1 リソースの委任をクリックします。たとえば、リソース「ポータルドメイン」が委任管理者 *mary* に割り当てられている場合、「ポータルドメイン」をクリックします。リソースに対するすべての委任を一覧表示する委任ページが表示されます。
- 2 「割り当て先」から委任を選択して「削除」をクリックします。
- 3 ダイアログボックスに「選択した委譲割り当てを削除します。よろしいですか?」というメッセージが表示されます。「了解」をクリックします。



# Portal Server 委任管理タグライブラリの使用

---

Portal Server 委任管理タグライブラリを使用すると、次の操作が可能です。

- 事前に設定された委任管理ポートレットの変更
- 新しい委任管理機能を備えたポートレットの開発
- カスタムユーザーインタフェースを備えた管理ポートレットの記述
- JSPProvider に基づくチャンネルの作成と管理

## 委任管理タグライブラリの概要

『Tag Library for Delegated Administration』で、委任管理ポートレットを記述するためのタグおよびそれらの構文について説明しています。タグライブラリでサポートする管理機能タスクは次のとおりです。

- プロバイダ管理
- ポートレット管理
- WSRP 管理

### ▼ 委任管理タグのリファレンスを使用する

『Tag Library for Delegated Administration』にタグ名と構文が記載されています。

- 1 『Tag Library for Delegated Administration』に移動します。
- 2 表示する内容を選択します。
  - タイトルを展開して、選択可能なセクションを表示します。
    - Tags for Desktop Channel and Container Management Tasks
    - Tags for Portlet Management Tasks
    - Tags for User Management Tasks
    - Tags for WSRP (Web Services for Remote Portlets) Management Tasks

- タイトルリンクをクリックすると、リファレンスが先頭から表示されます。

# 索引

---

## A

Access Manager

Portal Server との関係, 46

コンソール, 46

assign-source 関数, 247-248

assign-type-by-extension 関数, 248

## C

clear-source 関数, 248

convert-to-html 関数, 249

copy-attribute 関数, 249-250

## D

DiscussionLite チャンネル, 143-144

DiscussionProvider

概要, 140-141

削除, 142-143

作成, 141-143

設定, 143

## E

enumerate-urls-from-text 関数, 253-254

enumerate-urls 関数, 253

extract-full-text 関数, 254

extract-html-meta 関数, 254-255

extract-html-text 関数, 255

extract-html-toc 関数, 255

extract-source 関数, 256

## F

filter-by-exact 関数, 244-245

filter-by-max 関数, 245

filter-by-md5 関数, 245-246

filter-by-prefix 関数, 246

filter-by-regex 関数, 246-247

filterrules-process 関数, 247

filterrules-setup 関数, 243

filterrules-shutdown 関数, 256-257

## G

generate-by-exact 関数, 250

generate-by-prefix 関数, 250-251

generate-by-regex 関数, 251

generate-md5 関数, 251

generate-rd-expires 関数, 252

generate-rd-last-modified 関数, 252

Google ガジェット, 207-209

## H

harvest-summarizer 関数, 256

**L**

LDAPディレクトリノード, 51-53

**P**

## Portal Server

インスタンス, 41

監視, 101

管理コンソールの使用, 31

コマンド行インタフェースの使用, 33

コンポーネント, 29-30

## Portal Server インスタンス

一覧の表示, 41

概要, 41

表示, 41

## psadmin コマンド

Web Server との関係, 33

コマンド行インタフェース, 33

**R**

RD, 「リソース記述」を参照

refreshTime プロパティ、チャンネル, 197

rename-attribute 関数, 252-253

**S**

setup-regex-cache 関数, 243-244

setup-type-by-extension 関数, 244

**W**

Web Server, psadmin コマンドとの関係, 33

## WSRP コンシューマ

設定済みプロデューサの追加, 83-84

属性のマッピング, 89

追加, 94

名前の指定, 95-96

プロキシの設定, 89-90

変更, 95

WSRP 標準, 概要, 77-78

## WSRP プロデューサ

WSRP コンシューマの登録, 92-93

管理, 78-82

作成, 91

ダイジェストパスワード, 86

登録ハンドル, 82

プロパティ, 81

変更, 91-92

**い**

## 委任管理

概要, 32

管理, 267-269

タグライブラリ, 271

## インポート

検索サーバーデータベース, 216

ポータルデータ, 40-41

**え**

エクスポート, ポータルデータ, 39-40

エンドユーザー動作の追跡, 97-99

**か**

カテゴリ, 検索サーバー, 214-215

## 監視

概要, 101

設定, 102-103

チャンネル統計, 103

デスクトップ統計, 102, 103-104

無効化, 102-103

## 管理

検索サーバー, 213

検索サーバーデータベース, 216

検索サーバーロボット, 225-264

デスクトップ, 55-76

ポータル, 35-43

ポータルインスタンス, 35-43

管理機能, 分散化, 267-269

## 管理コンソール

- 概要, 30-32
- テクノロジー, 30-32
- ユーザーインタフェース, 31
- ログイン, 32

## き

## キャッシュ処理

- コンテナ, 198
- プロバイダ, 198

## け

## 検索サーバー

- インポートエージェントの作成, 216
- 概要, 213-215
- カテゴリ, 214-215
- カテゴリの分類, 224
- 管理, 213
- 自動分類属性の編集, 224
- データベース, 216
- データベースのインポート, 216
- データベースの管理, 216
- 分類, 214-215
- ロボット、管理, 225-264
- 検索サーバーデータベースのエージェントのインポート, 216

## こ

- 更新時間、チャンネル, 197-198
- コマンド行インタフェース, 33
- コンテナ,すべてのチャンネルからボタンを削除, 200-201
- コンテナプロパティ, 56
- コンテンツ,追加, 196-197
- コンテンツの分類,タブの使用, 190-191

## さ

- サイトプローブ, 229
- 削除,検索サーバー, 215
- 作成
  - DiscussionProvider チャンネル, 141-143
  - WSRP コンシューマ登録, 92-93
  - WSRP プロデューサ, 91
  - アダプタ, 148
  - インポートエージェント, 220-221
  - 検索サーバー, 215
  - 検索用カテゴリ, 223
  - 検索用データベース, 220
  - フィルタ、ロボット, 238
  - 分類ルール、ロボット, 240
  - メタアダプタ, 147

## し

- シミュレータ, 230
- シャットダウン関数,ロボットアプリケーション関数, 256-257
- シングルサインオンアダプタ
  - 概要, 145-146
  - メタアダプタ, 146-148

## す

- スキーマ
  - データベースエイリアスの定義, 218
  - データベースの編集, 217

## せ

- 生成関数,ロボットアプリケーション関数, 254-256

## そ

## 組織

- LDAP ディレクトリノード, 51-53
- Portal サービスの追加, 48

## 組織 (続き)

- 新しい組織へのアクセス, 47-48
- 概要, 47
- 新規作成, 47
- 必要な Portal サービスの指定, 49-50

## た

- タグライブラリ, 委任管理のリファレンス, 32
- タグライブラリリファレンス, 委任管理, 271
- タブ, コンテンツの分類, 190-191
- タブ, デスクトップ, ユーザー定義タブへのチャンネルの追加, 196

## ち

## チャンネル

- ウィンドウ設定のカスタマイズ, 198
- 更新時間のカスタマイズ, 197-198
- コンテナキャッシュの制御と生成, 198
- ボタンの削除<\$startrange>, 200-201
- 枠幅の変更, 203-204
- チャンネルおよびコンテナ, 概要, 60
- チャンネルおよびコンテナ
  - 削除, 67-69
  - 作成, 67-69
  - プロパティの変更, 63-67

## つ

## 追加

- コンテンツ, 196-197
- 設定済み WSRP プロデューサ, 94
- ツール, ロボット, 229-230

## て

- 定義, データベーススキーマのエイリアス, 218
- ディスカッション
  - DiscussionLite チャンネル, 143-144
  - DiscussionProvider, 140-141

## ディスカッション (続き)

- 概要, 139-144
- ディスプレイプロファイル
  - アップロード, 75
  - 概要, 55-57
  - 管理, 74-76
  - グローバル, 55
  - コンテナプロパティ, 56
  - 削除, 75-76
  - ダウンロード, 74
  - デスクトップ属性, 57
  - デフォルトインストール, 55
  - 列レイアウト, 56
  - ロード, 55
- ディレクトリノード, LDAP
  - 情報の表示, 53
  - 設定方法, 51-52
  - ロケーションバー, 51-53
  - ロケーションバーからの削除, 53
  - ロケーションバーへの追加, 52-53
- データベース
  - インデックスの再作成, 218
  - 期限切れ, 218
  - 検索サーバーのインポート, 216
  - 検索サーバーの管理, 216
  - スキーマのエイリアス, 218
  - スキーマの編集, 217
  - パーティションの作成, 219
  - 分析の表示, 218
  - 分類, 214-215
- デスクトップ
  - 概要, 55-57
  - ガジェット, 207-209
  - コンテナおよびチャンネルの管理, 60
  - コンテンツの管理, 58-71
  - 属性, 71-74
  - ディスプレイプロファイル, 55-57
  - ポートレットの管理, 58-60
- デバッグ, ロボットツール, 229-230

## と

- 登録
  - 概要, 133-134

## 登録 (続き)

- セットアップ, 134-139
- 匿名ユーザー, 149-150

## ひ

## 表示

- Portal Server インスタンスの一覧, 41
- アダプタ, 147-148
- 検索レポート, 222
- データベース分析, 218
- ポータルの一覧, 37
- メタアダプタ, 146-147

## ふ

## フィルタ

- 有効化, 239
- ロボットデータの定義, 229
- フィルタリング関数, ロボットアプリケーション関数, 244-247
- フィルタリングサポート関数, ロボットアプリケーション関数, 247-253
- 複数のポータル, 35
- ブラウザインタフェース, 31
- 分類ルール、ロボット
  - 作成, 240
  - 編集, 240

## へ

## 編集

- WSRP コンシューマ登録, 93-94
- WSRP プロデューサ, 91-92
- アダプタの設定プロパティ, 149
- 検索用カテゴリ, 223
- データベーススキーマ, 217
- フィルタ、ロボット, 239
- リソース記述, 221-222

## ほ

## 方法

- ウィンドウ設定をカスタマイズする, 198-199
- コンテナキャッシュのカスタマイズ, 197-198
- コンテナ内のすべてのチャンネルからボタンを削除する, 200-201
- タブを開始タブにする, 190-191
- 単一のチャンネルからボタンを削除する, 201-202
- チャンネルの枠幅を変更する, 203-204
- ユーザー定義タブにチャンネルを追加する, 196
- ポータル
  - 一覧の表示, 37
  - インスタンス, 41
  - 削除, 38
  - 作成, 37
  - 追加, 37
  - 複数, 35
- ポータル管理者, 知識, 21
- ポートレット
  - 概要, 58-60
  - 現在の場所から削除, 59-60
  - 現在の場所から配備, 58-59
  - 設定ウィザード, 60
  - 設定の変更, 60

## ゆ

## ユーザー動作の追跡

- 概要, 97-99
- 有効化, 99-100
- レポートの生成, 100
- ユーティリティ, ロボット, 229-230

## り

## リソース記述

- 期限切れ, 218
- 削除, 218
- データのインデックス再作成, 218
- データベースの破棄, 219
- データベース分析の表示, 218

## れ

列挙関数, ロボットアプリケーション関数, 253-254

## ろ

### ロギング

概要, 105

共通ロガー設定, 107-109

結果のカスタマイズ, 107

個別ロガーの設定, 109-111

ログビューア, 106-107

ロケーションバー, 機能, 51-53

### ロボット

概要, 225-230

管理, 226

起動, 230-231

サイトの定義, 231

サイトの編集, 232

サイトプローブ, 233

シミュレーション, 230

巡回の制御, 232

スケジュール設定, 230

データフィルタの定義, 229

データベースの更新, 231

フィルタのシミュレーション, 233

分類ルール, 239-240

ユーティリティ, 229-230

リソースフィルタ, 234-237

### ロボットアプリケーション関数

シャットダウン関数, 256-257

生成関数, 254-256

セットアップ関数, 243-244

ソースとデスティネーション, 240-243

フィルタリング関数, 244-247

フィルタリングサポート関数, 247-253

列挙関数, 253-254

## わ

枠, チャンネル, 204